

耳 3155
68-115

68-115

NO. 2252/24

村上專精著

國學全書

哲學書院發行



活用
講述
因明學全書目錄

第壹篇 因明學序論

第一章	端緒	一
第二章	思想と言語ノ關係	四
第三章	論理學ノ直接關係	六
第四章	ろじく、く、因明ノ比較	十
第五章	因明ノ語義	二十八
第六章	因明學ノ原則	三十二
第七章	因明學ト真理ノ關係	三十五
第八章	因明學ト佛教ノ關係	四十一
第九章	因明學ト五問并ニ四記答ノ關係	四十五

第十章	因明學卜七問答ノ關係	五十一
第十一章	論議ノ七大條件(七因明)	五十七
第十二章	結論	六十二
第貳篇 因明學史論		
第一段	足目ノ因明論	六十七
第二段	釋迦佛ノ因明論	百一
第三段	龍樹ノ因明論	百九
第四段	彌勒ノ因明論	百十六
第五段	無着ノ因明論	百二十三
第六段	有人ノ因明論	百二十八
第七段	世親ノ因明論	百二十九
第八段	陳那ノ因明論	百三十六

第九段	天主ノ因明論	百四十六
第十段	三國ノ傳來	百四十九
第十一段	結論	百五十五
第參篇 因明學理論		
第一段 總論		
第一章	因明學ノ八大部門(圖表并ニ略述)	百六十三
第二章	論法ノ種類分別	百七十四
第三章	論法三分ノ順序	百九十三
第二段 別論		
第一部門 眞能立(顯正)的眞正論法		
第一章	宗ノ組織方	
第一節	總宗別宗ノ區別	百九十七

第二節	別宗前後ノ區域	二百一
第三節	別宗前後ノ辨別	二百四
第四節	前陳後陳ノ轉換	二百十一
第五節	總宗ノ取捨選擇	二百十二
第六節	總宗ノ性質	二百十七
第二章	因ノ設立方	
○第七節	因ノ性質論	二百二十
○第八節	因ノ分類論	二百二十三
第九節	三支門ト三相門ノ辨別	二百三十
第十節	義ノ三相門ノ辨明	二百三十四
第一項	遍是宗法性(因ト宗ノ關係論)	二百三十四
第二項	同品定有性(因ト同品ノ關係論)	二百三十八

第三項	異品遍無性(因ト異品ノ關係論)	二百四十四
第四項	三相ノ結論	二百五十

第三章 喩ノ引用方

第十一節	譬喩ノ定義	二百五十三
第十二節	同喩ノ二大要件	二百五十五
第十三節	喩依喩跡ノ辨別(同喩)	二百六十
第十四節	異喩ノ二大要件	二百六十四
第十五節	喩依喩跡ノ辨別(異喩)	二百六十七
第四章	真能立ノ餘論	二百七十三
第五章	真能立ノ結論	二百七十九

第二部門 似能立顯正的誤謬論法

第一章 總論

第一節	過誤ノ分類方	二百八十五
第二章 宗過ノ辨明		
第二節	現量相違ノ過失	二百九十三
第三節	比量相違ノ過失	二百九十五
第四節	世間相違ノ過失	二百九十六
第五節	自教相違ノ過失	三百四
第六節	自語相違ノ過失	三百六
第七節	前五過ノ後四過ノ辨別ノ極成 <small>附ノ極成ノ意義</small>	三百八
第八節	能別不極成ノ過失	三百十
第九節	所別不極成ノ過失	三百十二
第十節	俱不極成ノ過失	三百十三
第十一節	相符極成ノ過失	三百十五

第三章 因過ノ辨明

第十二節	四不成過ノ總論	三百十七
第十三節	兩俱不成ノ過失	三百二十一
第十四節	隨一不成ノ過失	三百二十三
第十五節	猶豫不成ノ過失	三百二十六
第十六節	所依不成ノ過失	三百二十八
第十七節	六不定過ノ總論	三百三十一
第十八節	共不定ノ過失	三百三十三
第十九節	不共不定ノ過失	三百三十六
第二十節	同分異全不定ノ過失	三百三十九
第二十一節	異分同全不定ノ過失	三百四十一
第二十二節	俱分不定ノ過失	三百四十三

第廿三節	相違決定ノ過失	三百四十五
第廿四節	四相違因ノ總論	三百五十一
第廿五節	法自相違因ノ過失	三百五十七
第廿六節	法差別相違因ノ過失	三百六十二
第廿七節	有法自相相違因ノ過失	三百六十九
第廿八節	有法差別相違因ノ過失	三百七十九
第四章	喻過ノ辨明	
第廿九節	喻過ノ總論	三百八十六
第三十節	能立不成ノ過失	三百八十八
第三十一節	所立不成ノ過失	三百九十
第三十二節	俱不成ノ過失	三百九十一
第三十三節	無合ノ過失	三百九十五

第三十四節	倒合ノ過失	三百九十八
第三十五節	所立不遣ノ過失	四百一
第三十六節	能立不遣ノ過失	四百三
第三十七節	俱不遣ノ過失	四百四
第三十八節	不離ノ過失	四百六
第三十九節	倒離ノ過失	四百八
第五章	結論	
第四十一節	過數ノ多少	四百十二
第三部門	真能破(破邪的真正言論)	
第一章	真能破ト真能立ノ關係	四百十八
第二章	真能破ト似能立ノ關係	四百十九
第三章	真能破ノ方法	四百二十一

第四章	真能破ノ分類	四百二十三
第五章	真能破ノ結果	四百二十五
第四部門 似能破(破邪的言論過誤)		
第一章	似能破ト真能立ノ關係	四百二十七
第二章	似能破ト似能立ノ關係	四百二十八
第三章	似能破ノ原由	四百三十
第四章	似能破ノ分類	四百三十一
第五章	似能破ノ結果	四百三十二
第五部門 真現量真比量 <small>直覺的思想 推理的思想</small>		
第二章	自悟ト悟他ノ關係	四百三十五
第二章	聖教量ヲ廢スル所以	四百三十七
第三章	現量ト比量ノ分界	四百三十八

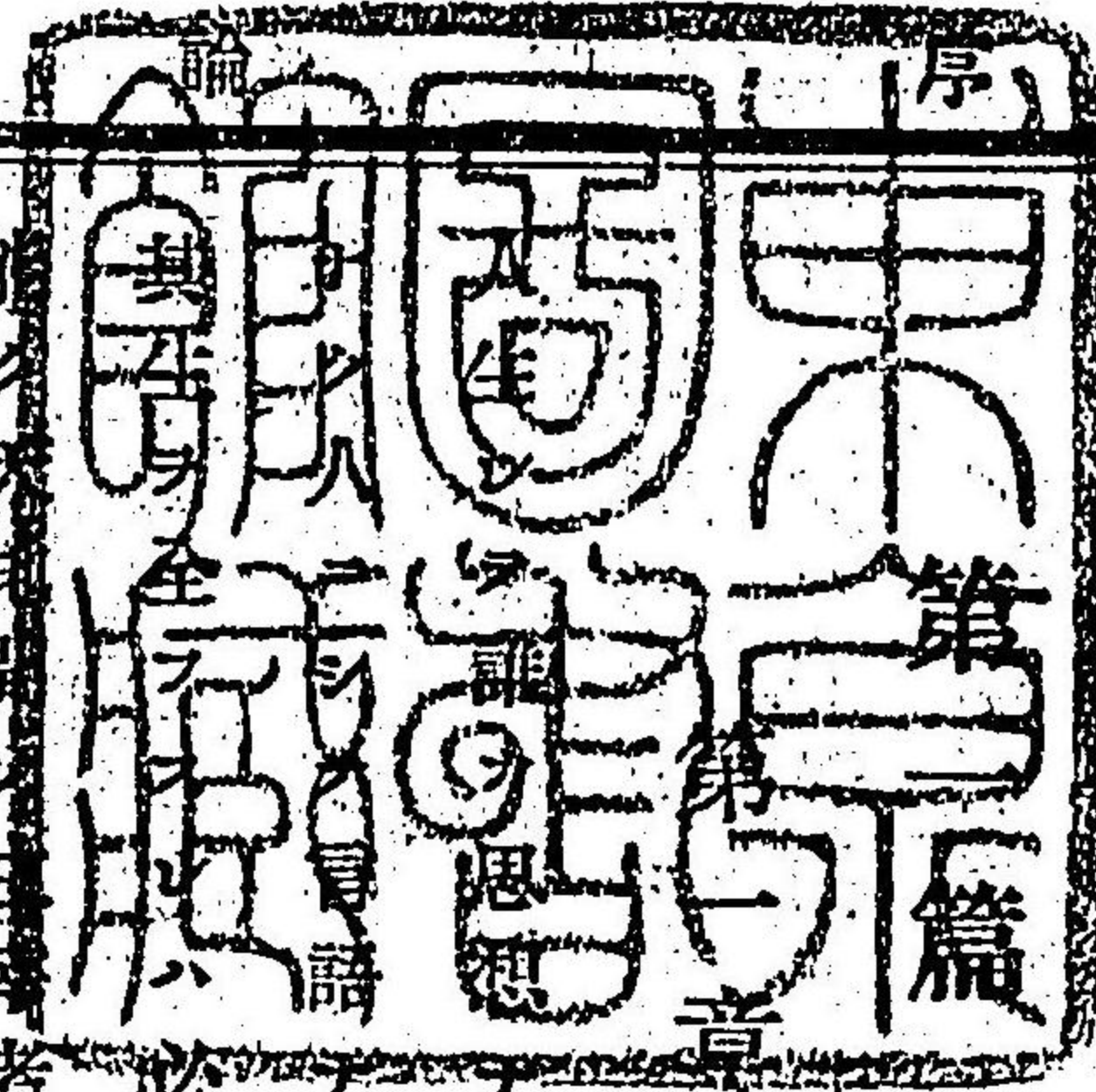
第四章	現量比量ト論法トノ關係	四百四十
第五章	現量比量ヲ六因ニ配屬ス	四百四十四
第六部門 似現量似比量 <small>直覺ト推 理ノ誤謬</small>		
第一章	現量比量ノ真似分界	四百四十七
第二章	似現量ト似比量ノ結果	四百五十
第三章	因明八大部門ノ結論	四百五十二

活用 講述 因明學全書

村上專精著

因明學序論

端緒



カラン人生ヲ誰カ言語ナカラン人ニシテ思想
キ者ハ未タ其生ヲ全フシ得サル者ナリ凡ソ人ハ
必ス此思想アルト共ニ亦必ス此言語アリ故ニ人ハ
能ク天地間ニ主宰者ト成リ各動物界ノ主權者ト成ルヲ得ル彼レ禽
獸魚鼈等ノ動物界其數無限ナリト雖モ人能ク彼等ヲ支配スルヲ得
テ彼等能ク人ヲ支配スルヲ得サルノ原由蓋シ此ニアリ彼レ獸類ノ

因 明 學

如キ彼ノ鳥類ノ如キ彼等ノ境遇ニ入リテ見レハ彼レ全ク心ナキニア
ラサルヘク彼レ全ク言ナキニアラサルヘシ然レモ彼カ心用ハ至リテ
朦昧ニ彼カ言語ハ極メテ不完全ナリ故ニ彼等ヲ以テ人類ニ比較スル
キハ其心殆ト之ナキカ如ク其言亦缺クタルモノ、如シ而シテ人ハ彼等
ニ殊ナリテ靈妙不測ナル思想ヲ有シ自由自在ナル言語ヲ發ス嗚呼人
ハ此思想アリ嗚呼人ハ此言語アリ實ニ思想汝ハ吾人ヲシテ天地間ノ
主宰者ヲ令ル好材料ナリ實ニ言語汝ハ吾人ヲシテ各動物界ノ主權者
ヲ令ル好器械ナリ人ニシテ若シ此思想ナカランカ然ラズ、奚ソソ天
地間ノ主宰者タルヲ得ン人ハ言語ノ好器械アリテ互ニ知識ヲ交換
シ互ニ思想ヲ益々發達セシム故ニ人自ラ萬物ノ最優長ト成リ人自ラ
天地ノ主宰者ト成ルヲ得ル故ニ人生ニ於テ最モ貴重ナルモノハ此
思想ナリ最モ使用ナルモノハ此言語ナリト謂ハサルヘカラス

序

論

嗚呼吾人ハ既ニ斯ノ如キ思想アルカ故ニ事細大トナク其真理ヲ討究
セント止マサルモノナリ又此言語アルカ故ニ思想ノ推理ヲ言語ニ
發表シテ自他互ニ問答往復シ自己ノ未タ考ヘサルヲハ他ニ向テ之ヲ
聞カント欲シ或ハ自己ノ已ニ知り得タルヲハ他ニ説示シテ彼ニ之ヲ
悟ラセシメント欲スルモノナリ爰ニ於テ其個人的ニ獨リ真理ヲ攻究
セントシ又共同的ニ自他互ニ問答シ以テ真理ヲ論究セントスルノ學
科即チ論理學ノ必要ヲ感スル所以ヲ知レ
夫レ論理學ハ思想ノ運用トシテ真理ヲ攻究スルト共ニ又甲乙相對シ
言語ヲ以テ真理ヲ論證スルニ就キ其方法并ニ原理ヲ穿鑿スルノ學科
ナリ然ラハ苟クモ人ニシテ此思想アリ又々此言語アリテ真理ノ討究
ニ志アル者ナレハ誰レ彼レノ簡ヒナク先ツ學フヘキハ此論理學ナリ
ト謂ヘシ

第二章 思想ト言語ノ關係

既ニ論理學ハ吾人カ思想ノ運用或ハ言語ノ對論ニツキテ正當ニ真理ヲ討究スヘキ方法規律ヲ調フルモノナルカ故ニ論理學ノ講述ニハ思想ト言語ノ關係ヲ陳ヘ置クテ最モ必要ナル件ナリ

夫レ思想ヤ言語々々ヤ思想コノ二者ハ分離スヘカラサル密着ノ關係ヲ有スルモノナリ見キ吾人ノ言語談論ヲ見ヨ凡テノ言論ハ思想ノ代表ナラサルハナシ心ニ甲ト思ヘハコソ口ニ甲ト呼ビ又心ニ乙ナリト考フレハコソ口ニ乙ナリト語ル心ニ考ヘ思フテナクシテ口ニ語ルト云フハ殆ト之ナシト云モ過言ニハアラサルナリ又見キ吾人ノ思想即チ意識ノ作用ヲ見ヨ凡テ意識ノ思想分別ト云モノハ言語ノ摸形ニ由テ運用スルモノナリ松ト云言語ノ形式曾テ意識ノ上ニアルユエ松ヲ見レハ彼ハ松ナリトノ觀念ヲ惹起ス又青黃赤白ト云如キ言語ノ形式

曾テ意識上ニアレハコソ彼ノ松ヲ見ルト同時ニ彼ノ松ハ青シトノ觀念ヲ起シ來ル既ニ然ラハ言語ハ思想ニ由テ發リ其思想ハ亦摸形的言語ニ由テ起ルモノナリ再言スレハ思想ト言語ハ互ニ原因結果ノ關係ヲ有スルモノト云ヘキナリ是ヲ以テ俱舍ナトニ名ハ想ニ由テ生シ又想ハ名ニ由テ起ルトイヘリ

然リ二者最モ親密ノ關係アリ然レトモ思想トイヘハ假令摸形的言語ヲ心面ニ構造スルニモセヨ之ヲ音聲ニ掛クサル間ハ他人ニ表示スルコト能ハス只一個人ノ意内ニ於テ秘密的ニ運用セルモノナレハ己レ一人之ヲ知ルノミ他ハ之ヲ知ルテ能ハサルモノナリ又言語トイヘハ其内部ニ秘密セル思想ヲ發表シ外部ニ告示セルモノ是ナリ換言スレハ思想ノ廣告者コソ言語ナリト云テ可ナリ既ニ然ラハ思想ト言語ハ秘密ト發表ノ區別アリト謂ヘシ

因 明 學

言語ト思想ハ秘密ト發表ノ區別アルカ故ニ思想上ノ考案ニ止ルトキハ他ニ攻撃者ナシ他ニ攻撃者ナキカ故ニ諍論モ起ラス他ト我ト無關係ナル有様ナリ然ルニ之ヲ言語ニ發表スルトキハ必ス他ニ不同意者アルモノナリ他ニ不同意者アルカ故ニ彼レ攻撃ヲ試ミル彼レ攻撃ヲ試ミルカ故ニ吾レ之ヲ答辨セサルヲ得スト云フ場合ニ至ルモノナリ既ニ然ラハ思想ハ他ト無關係ナルモノナリ言語ハ他ト關係ノ最モ厚キモノナリト謂ヘシ

上陳ノ如ク思想ト言語ハ一致ノ關係アルニモ係ラス又之ヲ辨別ノ見レハ二者ノ境界劃然ト分ツトヲ得ルモノナリ

第三章 論理學ハ思想上ノ研究カ言語上ノ

研究カ

言語ト思想ハ密着ノ關係アリト雖モ又之ヲ分ケテ論セハ二者其區別

序

論

アルモノナリ二者其區別アリト雖モ共ニ吾人カ真理ヲ探索スルニ就キ必須缺クヘカラサル器械ナルトハ論ヲ俟タス之ニ就キ論理學ハ一個人的秘密的ニ真理ヲ攻究スル思想ノ點ヲ穿鑿スルガ其目的乎又主客相對シテ真理ノ玉ヲ諍フ言論ノ點ヲ訂正スルガ其目的乎ト云フトヲ定メテハナラヌ場合トナレリ諍フ之ヲ論定セン

凡ソ論理學ト云ニ就キテ西洋ノ論理學アリ東洋ノ論理學アリ而シテ余カ將ニ講述セントスルトコロハ東洋ノ論理學即チ原ト印度ヨリ支那日本ニ流レ來ル因明學ノ謂ヒニシテ西洋ノ論理學即チろじくニハ非サルナリ而シテ余東洋ノ因明學ト西洋ノろじくトヲ對照スルニ真理ヲ攻究スルノ方術ナリト云性質ハ二者同シケレモ既ニ之ヲ創メシ處モ殊ナリ人モ異ナルニ隨ヒ研究ノ主眼トシ目的トスルトコロ二者其別ナキニアラス余ヲ以テ之ヲ見ルニ西洋ノ論理學ハ言語ノ點ヨリハ

寧ロ思想ノ點ヲ攻究スルガ主眼トナレリトイハサルヲ得ス抑モ西洋ノ論理學者ハ論理學ノ定義ヲ下シテ或ハ思想ノ運用スル方式秩序ヲ規則正シク教ル學問ナリト謂ヒ或ハ思想ノ理法ヲ論スルモノナリト謂ヒ或ハ思考ノ術ナリト謂ヒ或ハ推理ノ方法ナリト謂カ如キ蓋シ此ニ由ルモノ歟而シテ東洋ノ因明學ハ思想ノ點ヨリハ寧ロ言語ノ點ヲ穿鑿スルガ主眼トナレリ換言スレハ一個人ガ秘密的ニ真理ヲ考察スル方法ヨリモ寧ロ主客立敵相對シテ真理非真理ヲ討論スル問答往復ノ言語ヲ穿鑿シ法則ヲ訂正スルガ主意要點トナレリ瑜伽論對法論ノ中ニ論牀ハ言語是ナリト定メ世親ハ多言能立ト定メ陳那ハ現量比量ヲ立具トナシ直接的真正ノ能立ハ唯言語ニアリト判定シタルカ如キハ是等ノ下ニ陳ル皆蓋シ此ニ原由スルモノナリ

此ノ如ク西洋ノるじくト東洋ノ因明學ト二者研究ノ點ニ主伴正傍

アルカ故ニ論理學ハ思想ノ點ニ就キ運用ノ方式ヲ研究スルモノ歟言語ノ點ニ就キ問答ノ規律ヲ訂正スルモノ乎ノ問ニ應シ余ハ一向記ノ答辨ヲナスコト能ハサル者ナリ余ハ此問ニ答ヘテ斯ノ如クイハントス西洋ノ論理學ナレハ個人的思想ノ點ニ就キ運用ノ方式ヲ研究スルモノナリ若シ東洋ノ因明學ナレハ立敵對坐ノ場合ニ就キ言論ノ方式ヲ訂正スルモノナリトイハントス蓋シ西洋ノ論理學ハ思想ノ點ヲ研究スルニアリト云ヘハトテ言語ニ少シモ關係セヌト云ニアラス又東洋ノ因明學ハ言論ノ點ヲ穿鑿スルニアリト云ヘハトテ思想ニ少シモ關係セヌト云ニアラス前節ニ論スルカ如ク言語ト思想ハ親密ノ關係アルモノユエ其一方ヲ論スレハ必ス他ノ一方ニ波及セサルヲ得ス然レトモ研究ノ主眼ニ其表裏アルカユエ余ハ其主眼ニ就テ此辨別ヲナスモノナリ學者一方ニ僻シ敢テ余ノ斷言ヲ責ルコト勿レ

第四章 ろじつくと因明學ノ比較

余ハ東洋ノ因明學ヲ聊カ研究シタルノミ未タ西洋ノ論理學ヲ研究セサル者ナリ未タ西洋ノ論理學ヲ研究セスシテ彼ト此トヲ比較對論セシトスルハ余カ心ニ於テ耻ル思ヒナキニアラス然レトモ余ハ之ヲ必要ノ事ト感スル餘リ暗天ノ飛礫カハ知ラテトモ茲ニ彼此ヲ比較シ二三ノ同點異點ヲ數ヘ以テ彼此研究ノ眼目ニ差異アルコトヲ示サントス

(一) 西洋ノ論理學ニハ續釋法ト假納法ノ兩部門アリ其續釋法ノ中ニ又直接推演法ト間接推演法ノ二部ニ分レタレトモ間接推演法ハ續釋論理ノ過半ヲ占ル而シテ假納論理學ニハ論式ノ命題ヲ幾段ニスヘシト云フ命題解剖ノ規則モナクレトモ間接推演法ハ大前提一段小前提二段斷按三段命題ヲハ三段ニ分界スルヲ推斷ノ規則トナシ之ヲ名ケテ三段論式ト

因明學

序

論

イヘリ退テ東洋ノ因明學ヲ見ルニ因明ハ歸納法ノ關係ナキニアラス余ヲ以テ之ヲ見ルニ因明論法ノ性質ハ歸納法ノ實驗或ハ觀察ニ由テ得ヘキ續釋的論理法ナリ故ニ因明ハ假納法ト親密ナル關係ヲ有ス然レトモ因明學ニ於テ重モニ研究スルトコロハ歸納的ニ實驗シ現觀察比シタル事ヲ根據トシテ更ニ續釋的ニ推理スル方術ヲ整理スルニアリ第三篇ヲ讀レ然リ而シテ其續釋的推理ノ方法ヲ定メテ第一段ノ語ヲ宗ト名ツケ第二段ノ語ヲ因ト名ツケ第三段ノ語ヲ喻ト名ツケ以テ真理非真理ヲ論決スルノ規則トナシ之ヲ名テ三支作法ト云フ既ニ然ラハ推演ノ論式ヲ三段ニ分割スルハ彼此一轍ナリト謂ヘシ

(二) ろじつくと三段論式ト因明ノ三支作法トヲ比較スルニ其綱要ハ一般ノ既知界ヲ以テ原由トナシ其一般ノ既知界中ニ含蓄シテ居レトモ未タ其事ノ著明ナラサル一部分アルニ就キ一般ヨリ一部分ニ論及シ

因明學

テ彼ノ一部分モ一般ト等シカラサルヘカラスト云斷定夫下スニアリ
 即チ續釋論理法ニ大前提ト稱スルモノト又因明論理法ニ同喩ノ合喩法
 ト稱スルモノトハ共ニ一般ノ既知界ヲ表言セルモノナリ而シテ彼ニ斷
 按ト稱シ此ニ宗ト稱スルモノトヲ比較スルニ其性質相同シキヲ見ル
 即チ先キヨリ一般中ニ含蓄シオレトモ未タ其事ノ著明ナラサルカ爲
 メ今一般ノ力ヲ以テ一部分ニ論及シ彼ノ一部分モ一般ト等シト云フ
 推斷ヲ下スモノヲ彼ハ斷按トイヒ此ニハ宗ト云フ之ニ由テ之ヲ觀ル
 ニ既知界ノ事件ヨリ或ル未知界ノ事件ニ論及スト云フト一般ニ通
 スル大綱ヨリ一部分ニ局レル綱目ノ中ニ解入スト云フトハ彼此同飯
 ナリト云ハサルヘカラスト
 論者或ハイハシ既知界ヨリ未知界ヲ推究スルハ飯納法論理ニシテ
 續釋法論理ニハアラサルナリ續釋法第三段ノ斷按ハ第一段ノ大前

序

論

提中ニ含蓄セルモノユエ此ハ既知ヨリ未知ヲ推究スト云フヲ得ス
 ト余之ニ答ヘテ云ク若シ未知ニアラスハ曷ソ推續ヲ用ユル乎既ニ
 推續以テ斷定セントス故ニ假令大前提ノ中ニ含蓄シテ居ル事件ニ
 セヨ或ル部分ニ於テ未顯了ノ廉アンハコソ推續以テ斷按ヲ下ス
 テ用ユルナリ因明論理ニテモ亦同様ナリ立者自悟ノ邊ニテハ宗モ
 既知界ニ屬スレド敵者ノ方ニアリテハ之ヲ論決シ終ル迄ノトコロ
 宗ハ尙未知界ニ屬スルナリ彼ノ敵者ノ方ニテ宗ノ事件ハ未知界ニ
 屬スレハコソ立者ハ敵者モ曾テ承知セル一般ノ既知界ヲ以テ宗ノ
 未知ヲ轉シテ既知トナサシムルナリ其方法ヲ名テ因明ト云フ之ニ
 由テ余ノ見解ハ東洋西洋ノ隔テナク續釋歸納ノ別モナク論理學ト
 イヘハ一般ニ既知界ヨリ未知界ニ推究スル意味ハ多少含蓄セルモ
 ノト斷定スルナリ請フ第三篇ニ至テ之ヲ知レ

因明學

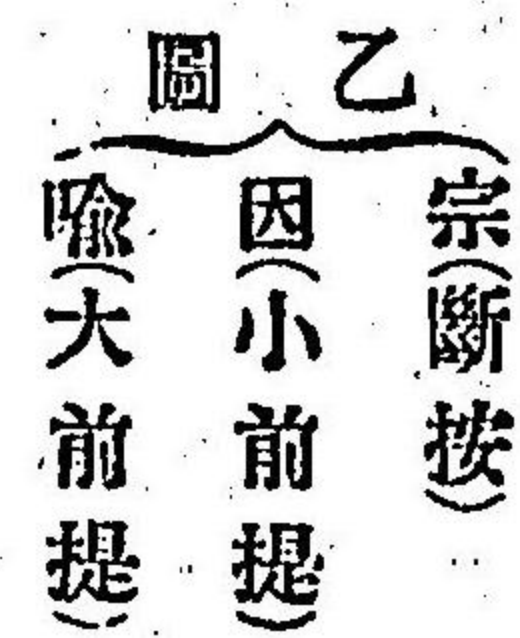
(三)ろじくノ三段論式モ一般ニ涉レル大ヨリ一部分ニ局ル小ニ論到セ
 ントスル者ナリ因明ノ三支作法モ一般ニ關係スル事件ヲ以テ一部分
 ニ局レル事件ヲ推斷セントスル者ナリト云フハ前辨ノ如シ然リ而ソ
 其一般ヨリ一部分ニ論到セントスルニハ一般ト一部分トヲ媒介スヘ
 キ語ヲ中間ニ置カテハナラヌ者トス此中間ノ語ヲろじくニテハ媒語
 ト名ツケ因明ニテハ因由ト名ク彼ニハ媒語トイヒ此ニハ因由トイヘ
 ル中間ノ命題ハ彼此同シク二個ノ性質ヲ有スルモノニアラスハ推斷
 ノ効之ナキモノトス其二個ノ性質トハ一ニ中間ノ命題ハ必ス前後二
 段ノ命題ニ關係スヘキト二ニ中間ノ命題ハ其斷按ノ命題ノ宗明中後名
 辭ヨリ其範圍ガ寬クテハナラヌト云フトノ二件是ナリ若モ中間ノ命
 題カ前後ノ二段ニ關係セサル語トセンカ然ラハ大テ以テ小ヲ推ス効
 能ナキモノナリ又若モ中間ノ命題ガ斷按命題中ノ後名辭ヨリ其範圍

序

論

寬廣ナリトセンカ然ラハ今正ニ論斷セントスル事件外ニ通スルト
 ナル若モ中間ノ命題カ今論斷セントスル事件外ニ通スルトセンカ然
 ラハ甲ハ丙ナルガ故ニ甲ハ必ス乙ナルヘシト云フ斷定ヲ下ス可能ハ
 ス甲ハ丙ナルガ故ニ甲ハ乙乎或非乙乎ト云不定ノ因明ナレハ亦相違
 スリトノ結果ヲ招クトナル此ニ由テ中間命題ノ意味ハ一ニ前後兩段
 ニ關係スヘク二ニ斷按中後名辭ヨリ寬カルヘカラスト云テ規則トナ
 ストハろじくモ因明モ同歸ナリトイハサルヘカラス
 已上三個ノ同伴ヲ以テ見ルニ彼此ノ論理學其起原ハ東洋西洋殊ナ
 レトモ其論理ノ大法ハ彼此遠ク異ナルモノニアラサルヲ知ル論理
 ノ大法ハ彼此異ナルモノニアラサレトモ之ヲ研究スル目的ヲ考ル
 ニ彼此合一ナラス之ヲ研究スル目的彼此合一ナラサルニエ彼此對
 照スルニ論法ノ組織ニ差異アルヲ見ル請フ其二三ヲ提示セン

(一)ろじくノ三段論式ト因明ノ三支作法トヲ對照スルニ彼レノ大前提ハ此レノ喩ニ當リ彼レノ小前提ハ此レノ因ニ當リ彼レノ斷按ハ此レノ宗ニ當ルトイハサルヘカラス然ラハ彼レノ三段ト此レノ三支トヲ對配スルニ其順序逆對セリトイハチハナラヌ何トナレハ彼ハ大前提小前提斷按ト順序ヲナシ此ハ宗因喩ト次第スルカ故ナリ其表左ノ如シ



甲圖ノ如ク此レヲ以テ彼レニ配當セントスレハ此レノ三支ハ其次第ヲ逆ニスルトナル又乙圖ノ如ク彼レヲ以テ此レニ配當セントスレハ彼レノ三段ハ其順序ヲ逆ニスルトナル此カ兩方ノ論式ニ差異ヲ

因 明 學

序

論

見ル第一件ナリ斯ク示サハ論者或ハ言ハノ西洋ろじくニハ喩ヲ論セス故ニ因明ノ喩ヲ以テ西洋論法ノ大前提ニ配當スルト其謂レナシト余之ニ答ヘテ云ク然リ否然ラス其然ラサル所以ハ因明學ニツキ古代ト近世ノ二期アリ其古代因明家ハ喩ト云ハ汎爾ニ何々ハ如シト指示シタルモノ是ナリト説クノミ未タ此喩ニ付テ喩依喩躰ノ辨別ヲナサス(余ハ喩依喩躰ヲ事喩理喩ト改名ス第三篇ニ至リテ之ヲ知レ然ルニ近世因明家ハ喩依ト喩躰ヲ辨別シテ何々ハ如シト指示スル中ニ就キ其指示シタル事物全躰ヲ以テ喩依トナシ其指示シタル事物中ニハ因ニ陳ヘタル條件ト云同品ト宗ノ後名辭ニ陳ヘタル條件ト云同品トヲ合著セサルヘカラス此ニ大條件カ一事物一事件ノ中ニ合著シテ相離レサルトコロ之ヲ名テ喩躰ト云ヘリ已上二點ノ中喩依ノ點ニ就カハ固ヨリ西洋論法ノ三段ニ對配スヘキ筈ハナケレトモ喩躰ノ點ニ就カハ彼

因 明 學

ノ大前提ト此ノ喩トハ二者相當ストイハサルヲ得ス例ヘハ
 大前提 凡て東京人は日本人なり
 小前提 或る人は東京人なり
 斷 按 故に知ぬ或る人は日本人あり
 組織スルハ西洋ノ三段論式ナリ之ヲ東洋ノ三支作法ニテ組織スレ
 ハ左ノ如クナル
 宗 或る人は日本人なり
 因 東京人なるか故に
 喩 凡て東京人なる者は皆日本人ありと見ヨ喩譬へは餘の東京
 人の如し依
 此ニ由テ之ヲ觀ルニ余ハ彼レノ大前提ト此レノ喩ト二者相當スル
 モノト斷定セサルヲ得ス

序

論

問テ云ク既ニ然ラハ彼レノ三段論式ト此レノ三支作法ト對配スルニ
 二者合一ノ推演理法ナリト云ヘシ然ルニ彼レノ三段ト此レノ三支ト
 其順序ヲ見ルニ彼此相反スルハ如何
 答テ云ク余先キニイハスヤ論理學ノ大法ハ彼此同皈ナレトモ研究ノ
 目的ハ彼此殊ナリト彼レノ西洋ノ論理學ハ凡テ祕密的ニ自個一人真理
 ナ討論スル思想運用ノ法式ヲ穿鑿スルガ其目的トナレリ故ニ余ハ之
 ナ自悟主義ノ論法トイフ又因明ノ論理法ハ立敵對坐シテ互ニ真理ヲ
 論究スル言語往復ノ規律ヲ訂正スルガ其目的トナレリ故ニ余之ヲ悟
 他主義ノ論法ト云フ斯ノ如ク彼此研究ノ目的ガ殊ナルニ由テ論法ノ
 組織ニ前後反對ヲ見ル論者此旨ヲ知ント欲セハ先ツ吾人思想ノ運用
 スル順序ト問答往復ノ順序トヲ考ヘ見ヨ凡ソ吾人ノ推理思想ノ運用
 ナ見ルニ未經験ノ事實ヨリ已經験ヲ推究スト云フモナク未知界ヨリ

因明論

既知界ニ遷ルト云フモナク必ス已經驗ヨリ未經驗ニ及ヒ既知的ヨリ
 未知的ニ移ルト云カ思想上天然ノ順序自然ノ法則トナリ居レリ例ヘ
 ハ吾人ハ古人ノ皆死シタルヲ知ルカ故ニ自己モ死セサルヲ得スト云
 フヲ知リ又昨日今日ヲ經驗スルニ由テ明日來ルヲ疑ハサルカ如シ既
 ニ然ラハ思想ノ運用ヲ調ルカ目的トナル西洋論理學ニ於テハ既知界
 ノ大前提ヲ第一段トシ尙未知界ニ屬スヘキ分子アル斷按ヲ第三段ト
 ナセルハ思想天然ノ法則ニ任セタル至當ノ順序ナリト謂ハサルヲ得
 ス豈因明三支ノ順序ヲ以テ彼レ三段ノ順序ヲ改作スヘケンヤ
 又吾人カ主客相對シテ問答往復スル言語ノ順序ヲ見ルニ先キニ自己
 ノ主義決擇ヲ他ニ向テ告白シ次ニ其理由ヲ陳ヘ後ニ比例ヲ取テ一層
 之ヲ確乎タラシムト云カ天然ノ順序自然ノ法則トナリ居レリ偶々比
 例ヲ先ニ陳ヘ或ハ理由ヲ先ニ語ルコトアルモ夫ハ自己ノ推理セシ意味

序

論

ヲ語ルモノニ問答ノ正則ニハアラス變則ト云テ可ナリ凡ソ問答ノ
 通例ハ他ヨリ吾レニ問フコトアルカ或ハ他ノ問ヒハナクトモ吾ヨリ先
 キニ告ルコトアルカノ兩様ナルガ孰レニシテモ先キニ立者ノ告白スル
 トコロハ自己ノ斷定スル宗ヲ以テスルカ順序ナリ故ニ立敵ノ諍論モ
 起リ來ル若シ宗カ先デナク因[○]或ハ喻ヲ先キニ告ルトセンカ然ラハ立
 敵ノ諍論モ起ルヘキ筈ハナキナリ正則的論法ニ就テ云ナリ今姑ク先キニ他ヨリ
 問フコトアルニ就テイハソカ凡ソ他ノ吾レニ問フコトアルハ第一ニ吾レ
 ノ主義ヲ問ヒ來ル者ナリ例ヘハ(客)君ハ甲事件ヲ何ト思フ乎ト問ヘハ
 (主)予ハ甲事件ヲ斯ク斷定スト答ル茲ニ於テ(客)其ハ何故ニ然ル乎ト第
 二問ヲ發シ來ルトキ(主)其ハ斯様ノ理由アルカ故ニト答ヘ尙客ノ意ニ
 ハ未ダ主ノ答辨ヲ充分ニ悟了シ得サルトコロアリト視ルトキハ更ニ
 比例ヲ舉テ其説明ヲ加ルト云ガ凡テ吾人ノ問答往復スル自然ノ順序

因 明 學

法則ト云モノナリ既ニ然ラハ問答往復ノ言語規律ヲ訂正スルヲ目的トスル東洋ノ因明學ハ通常吾人ノ談話上ニマテ行ハレ居ル天然ノ法則ニ任セテ立者ノ主義トスル宗ヲ第一トナシ此カ理由即チ因ヲ第二トナシ其比例即チ喩ヲ第三ニ回ラシタルモノナリ豈之ヲ適當ノ順序ナリト謂ハサルヘケンヤ豈彼レるじつく三段ノ順序ヲ以テ因明三支ノ順序ヲ改正スヘケンヤ近頃彼レノ順序ヲ以テ此レノ順序ヲ改メントスル人アリト聞ク余ハ之ヲ評シテ因明ノ特色ヲ打破スルモノトイハサルヲ得ス

(二)ろじつくノ三段論式ト云モノハ因明學ヨリ之ヲ見ルニ喩牀ハ自然ニ含蓄シ居ントモ喩依ヲ用ユルヲハナキナリ然ルニ因明學ノ三支作法ハ喩牀ノ外ニ喩依ヲ指示スルヲ規則トナス前辨ノ如ク凡テ丙ハ乙ナリトカ或ハ丙ハ非乙ナリトカ云命題ガるじつくノ前提トナレリ此

序

論

大前提ハ因明論法ニテ諸々丙ナルモノハ皆乙ナリト見ヨト云合作法ノ喩牀ニ相當スルモノナリ而シテろじつくノ方デハ丙ハ乙ナリト云バカリテ別ニ丙ハ乙ナリト云事實ヲ舉テ見セルヲナシ然ルニ因明ノ方テハ諸々丙ナル者ハ皆乙ナリト見ヨト説クニハ其事實ヲ舉テ譬ヘハ何々ノ如シト指示スルヲ規則トナス然ラハ彼此ノ論法組織ニ喩依ヲ用ユルト用ヒサルトノ區別アリト謂ヘシ

問テ云ク喩牀ヲ以テセハ彼此同シク之レアルニ喩依ヲ以テ論セハ彼ニハ之レナク此ニハ之レアルハ抑モ如何ナル所以乎 答テ云ク是モ前ト同様ニ彼此研究ノ目的異ナルカ致ストコロナリ抑モ西洋ノ論理學ハ既ニ他ニ對シ其說明ヲ要スルモノニアラス只自己ノ思想ニ真理ヲ推斷スル方式ヲ示シタモノナリ故ニ彼ハ別ニ喩依ヲ舉示スルノ必要ヲ見ス何トナレハ丙ハ乙ナリト云命題ノ事實ニ適合スル乎否乎ノ

「ハ自ラ充分ニ悟了シ居レハナリ何ソ煩シク喩依ノ指示ヲ俟マシ故ニ彼ノ論法ニハ元來喩依ノ沙汰之ナキモノナリ

又因明ノ論法ハ他ニ對シテ其説明ヲ要スル説明爲本悟他主義ノ論法ナリ故ニ此ノ論式ニハ喩依ヲ擧示スルコトノ必要ヲ感ス何トナレハ諸々丙ナルモノハ皆乙ナリト見ヨト陳ヘテモ敵者ノ方ニハ凡テ丙事件ノアルモノナレハ屹度乙事件アリテ一物中ニ兩事件ノ相離レサルモノナリト云コテ悟了シ得サルコトアルカ故ナリ是ヲ以テ更ニ喩依ヲ擧示シテ丙ナルモノハ必ス乙ナリト云コテ得ルノ證據事實ハ何々ノ如キデアルト喩依ヲ指示セサルヲ得ス既ニ然ラハ因明論法ニ喩依ヲ用ユルハ悟他主義ノ論式ナルカ故ナリ

三 余前ニろじくノ三段論式モ因明ヨリ之ヲ見レハ喩依コソナクニ喩悟主義ノ論式ナルカ故ナリト決スヘシ

因明學

序

論

跡ハ自然ニ彼ノ大前提中ニ含蓄セリト云ヘリ然ルニ彼ノ大前提中ニ含蓄セリト云モ只是レ同喩ノ方ナルノミ異喩ノ方ハ彼レ絶ヘテ論セス而ノ因明ノ三支作法ハ喩ニ就テ同喩異喩ヲ分テ論ス即チ諸々丙ナルモノハ皆乙ナリト見ヨト云テ正面的ノ同喩トスルトキハ更ニ反面的ニ諸々非乙ナルモノハ皆非丙ナリト見ヨト説クテ規則トス(時ト場合ニ由テ之ヲ公言セサルコトアルモ説カントスレハ必ス斯ノ如ク説クニ差支ナキ意味ヲ有セテハナラヌト云テ規則トナス)既ニ然ラハ彼此ノ論法組織ニ異喩ヲ用ユルト用ヒサルトノ區別アリト謂ヘシ

問テ云ク西洋ノ論式ヲ分析スルニ異喩ノ分子ハ絶ヘテ見出スコト能ハス然ルニ因明ノ論法ニハ同喩ノ外ニ異喩ノ沙汰アルハ如何且ツ夫レ通常ノ考ヘテ以テ見ルモ同喩コソ推理上ニ其必要アリト感スレトモ異喩ハ推理上ニ於テ其必要ヲ感セサルモノ、如シ然ラハ因明ニ於テ

因 明 學

異喩ヲ論スルハ不必要ノ事件ヲ擧テ論スル贅論ニハアラサル乎
 答テ云ク余ヲ以テ之ヲイハシメハ彼レニ異喩ノ分子ナク因明ニ異喩
 ノ論アルハ即チ彼レノ不完全ナルトコロニ又因明ノ長處タルトコ
 ロトイハサルヲ得ス但シ彼レハ自悟的推理法ナルカ故ニ左程異喩ノ
 必要モ感セサレハ此論ナキモノ歟此ハ悟他的推理法ナルカ故ニ異喩
 ノ必要最モ大ナリト謂ハサルヲ得ス何トナレハ異喩ノ規則ニ由ラサ
 レハ彼レノ大前提ナルモノ此レノ同喩ナルモノニ就キ正カ不正カチ
 訂正スルヲ能ハサレハ也論者之ヲ思ヘ縦ヒ丙ハ乙ナリト云モ眞ニ丙
 ハ乙デアアルカ或ハ丙ハ非乙デアアルカト云フヲ調フルヲ能ハス之ヲ調
 フルヲ能ハサルニ由リ彼ノ大前提此ノ同喩ニシテ若シ不正ナルトア
 リトセンカ然ラハ不正ノ大前提或ハ同喩ヲ以テ推測シタル斷按并ニ
 宗ハ皆眞理ニアラストイハチハナラヌ之ニ由テ眞正ノ斷按ヲ下スニ

序

論

ハ先ツ其大前提即チ此ノ同喩ナルモノ、正不正ヲ調ヘテ掛ラチハナ
 ラヌ其之ヲ取調フルニハ異喩ノ法則ニ由テ調ヘサルヲ得ス然ルニ彼
 ニハ異喩ノ法則ナキユニ大前提ノ正不正ヲ調フルヲ得ス是レ彼ノ
 論式ニ尙不完全ヲ告ル欠典ナリトイハサルヲ得ス此ハ異喩ノ法則ア
 ルカ故ニ因并ニ同喩ノ正不正ヲ明瞭ニ正スヲ得ル是レ因明ノ論法
 ハ彼ヨリモ完全ナリトスルヲ得ル長處ナリ請フ其事ヲ一言セソ例
 へハ凡テ東京人ハ日本人ナリト云ガ眞ナル乎或ハ凡テ日本人ハ東京
 人ナリト云ガ眞ナル乎ヲ調ヘントスルニハ此カ裏ニ回リテ調ヘサル
 へカラス此カ裏ニ回リテ反面的ニ調ルトキハ凡テ日本人ニ非サル者
 ハ東京人ニ非スト云コトヲ得ントモ凡テ東京人ニ非ル者ハ日本人ニ
 非スト云フヲ得ス爰ニ於テ始メテ正ト不正ガ明瞭ニ分レ來リテ凡テ
 東京人ハ日本人ナリト云命題ハ眞正ナントモ凡テ日本人ハ東京人ナ

因明學

リト云フ命題ハ真正ニアラサルトナル斯ノ如クろじくナレハ大前提因明ナレハ因并ニ同喩ノ正不正ヲ調フル方法カ異喩ト云モノナリ然ラハ異喩ノ効能頗ル大ナリトイハサルヘカラス豈奚ソソ之ヲ無用ノ贅論ト云フヲ得ンヤ其詳細ハ第三篇ニ入リテ辨明スヘシ之ヲ要スルニ立敵相對シ舌戰以テ真理ヲ討論スルトキハ一點ノ過失アルモ敵者ハ之ヲ肯ハサルモノナリ故ニ問答往復ノ言論訂正ヲ以テ目的トナス因明論式ハ立者ノ言論ニ毫髮ノ過失モナカラ令ンカ爲メ同喩ノ外ニ異喩ノ法則ヲ用ヒタルモノナリ

已上余輩カろじくト因明ヲ對論スルトコロ或ハ中ラサル歟モ計リカメシ蓋シ中ラスト雖モ余ハ遠カラスト信スル者ナリ請フ讀者此三同三異ヲ以テ彼此論法ノ分齊ヲ悟了アレ

第五章 因明ノ語義

序

余ハろじくト因明ヲ對辨シ終レハ是ヨリ進ンテ純粹因明學ノ講義ニ移ラント欲ス純粹因明學ノ講義ヲ爲スニハ先ツ因明トイヘル語義ヨリシテ講セサルヘカラス而シテ因明ノ二字ヲ講セントスルニハ先ツ立言敵智ト云フヲ陳ヘ置クニ必要ナリ故ニ順序ヲ追テ先ツ立言敵智ヨリ説キ始メシ

論

余屢々云如ク因明ハ問答ノ規律ナリ此ニ就キ凡ソ問答スルニハ甲乙互ニ或ハ問ヒ或ハ答ルヲアレントモ其論場ニテ或ル事件ノ主唱者ヲ以テ暫ク答者ノ位置ト極メ其事件ノ攻撃者ヲ以テ暫ク問者ノ資格ト定ム而シテ其問者ノ方ニモ答者ノ方ニモ共ニ言語アリ共ニ言語アレハ亦共ニ發言ノ思想アルヘキハ無論ナリ然レトモ因明ノ規則トシテ答者ノ方ハ言語ヲ本トシ問者ノ方ハ思想即チ知識ヲ要スルモノトス何トナレハ根本主唱者ニシテ其言語ニ過失アラシカ然ラハ其持論ヲ貫ク

因

能ハス又攻撃者ニシテ智力乏シカラシカ然ラハ主唱者如何ナル真理ヲ吐露スルモ猥リニ之ヲ攻撃スルノミニテ其真理ヲ悟了スルヲ能ハサルカ故ナリ然リ而シテ其言語ニ過ナカラシトテ要スル根本主唱者ヲ呼テ立者ト名ケ其知識明カナラントテ要スル攻撃者ヲ呼テ敵者ト名ク然ラハ立言ト云ハ根本主唱者ノ言語是ナリ敵智ト云ハ攻撃者ノ知識是ナリ

學

已ニ立言敵智ト云フカ知レタレハ是ヨリ因明ノ語義ヲ講述スヘキ也因明ノ二字ニ就テハ種々ノ解釋モアレド大疏ニ五種ノ今ハ最モ適切ナル解釋ニ依テ辨明ナサン因トハ即チ立言ニ名ケタモノナリ明トハ即チ敵智ニ名ケタモノナリ蓋シ立言ヲ何故ニ因ト名クル乎曰ク立言ハ直接ニ敵智ヲ發生スル効力アリ又間接ニハ敵智ヲ發生スルト同時ニ宗即チ立者ノ主張セントスル事件ヲ彼レ攻撃者ニ許諾セシメ自己

序

ノ持論貫徹ノ結果ヲ呈スル大用アルカ故ニ之ヲ因ト名ケタモノナリ又敵智ヲ何故ニ明ト名クル乎曰ク燈ナケレハ物アレトモ隠レテ顯レズ燈ヲ點スレハ此ト同時ニ隠レタル物象方ニ顯ハル、如ク假令立言アリトモ敵智ナケレハ立者ノ主張スル真理ハ隠レテ顯レズ然ルニ立言ニ由テ敵智ヲ發生スルカニ此ト同時ニ立者ノ主張スル真理ハ敵者ノ意中ニ明々白々ト顯ハン來リ今迄ハ反對者ノ位置ニ立チシ者カ是ヨリハ轉シテ同主義トナルトテ得ル之ニ由テ敵智ヲ明ト名ケタモノナリ已上立言敵智共ニ無過ナルモノトシテ述ル若シ有既ニ然ラハ因明ノ語義他ニアラス吾人カ主客對坐シテ談論ヲ惹起ストキ其主論者ノ言語ニ由テ其客論者ノ知識ヲ發生シ客論者ノ知識發生スルト同時ニ主論者ノ保持セシ説ヲ客論者モ承諾スルニ至ルノ結果ヲ見ルトコロカ即チ因明ト命名セラルトコロナリ此因明ノ語義ニ就テ考ル

モ因明學ハ問答往復ノ規律ヲ訂正シタルモノト云フ愈々以テ明カナ
 リトイハサルヘカラス
 問テ云ク因トハ立言ヲ指ストイフ然ラハ立言ニ宗、因、喻ノ三支アル中
 孰レヲ指ス乎答テ云ク其名ノ如ク三支ノ中第二ノ因ヲ指シタモノナ
 リ蓋シ此ニハ言ノ三支、義ノ三相ト云フアリテ若シ言ノ三支門ニ依レ
 ハ當ニ第二段ヲ指スナレトモ義ノ三相門ニ依レハ三支凡テニ遍通ス
 ル謂レアリ請フ第三篇ニ至リテ此事ヲ辨明セン

第六章 因明學ノ原則

凡ソ萬有ニハ一致法ト差異法ト二大線アリテ貫ケルヲ見ル而シテ人ノ
 思想ハ其ニ大線ニ基ツキ甲既知界事件ヨリ乙未知界事件ヲ推知セン
 トス比較推續ノ作用ヲ天然ニ保有セリ斯ノ如キ思想ノ比較的推理ノ
 運用是レ因明學ノ原則ナリト謂ヘシ抑モ吾人ノ思想ハ既知界ニテ滿

足スルモノニアラス既知界アレハ更ニ進ンテ未知界ヲ考ヘ知ラント
 スル規則ヲ先天的ニ固有スルモノナリ且ツ吾人ノ思想ハ甲乙二點ニ
 向フトキ忽チニ勃起スルモノハ兩方比較的ノ作用是ナリ故ニ因明學
 ヲ組織シタル原則ハ一致ト差異ト二大線ニ由リ甲既知界事件ト乙未
 知界事件トヲ比較推續スル自然的思想ノ運用ニアリ此ノ自然的思想
 ノ運用ニ任セ甲既知界事件ヲ以テ乙未知界事件ヲ比較推續スル方法
 并ニ之ヲ説明スル規律ヲ整理シタルモノ之ヲ因明學トイフ
 余先キニ因明ハ言語ノ規律ヲ訂正セシモノト云フ然リ之ヲ研究スル
 目的ハ言語問答ノ規律ヲ訂正スルニアリ然レトモ之ヲ訂正スル原則
 ナイハ、萬有ニ於ケル一致法ト差異法トニ基ツキ起ル思想ノ比較的
 運用ニアリ若シ吾人ニ思想運用ノ推理的斷決ナカラシカ豈奚ソソ發
 言以テ敵者ニ自悟ノ眞理ヲ説明スルコトヲ得ン是ヲ以テ因明ニ悟他ハ

必[○]ス自[○]悟[○]ニ由[○]ル[○]ト論[○]シ又[○]々智[○]生[○]因[○]ニ由[○]テ言[○]生[○]因[○]アリ[○]ト論[○]セリ

余此ノ如ク因明學ノ興ル原則ハ甲既知界事件ト乙未知界事件トノ比較的運用ニアリト云ハ其徵スルトコロアレハ也抑モ因明學ノ始創者ハ誰ナル乎曰ク足目其人ナリ足目ハ如何ナル規則ヲ示ス乎曰ク九句[○]因[○]是[○]ナリ其九句因トハ他ニアラス比較法ノ正否ヲ判斷シタル者ナリ[○]後[○]ニ辨[○]ス[○]ハ又既[○]ニ[○]之[○]ヲ因[○]明[○]ト云[○]フ因[○]トハ何者乎曰ク三支中第二是ナリ何故ニ第二ノ一部分ヲ以テ此ノ學ノ全部ヲ標スル名稱トナス乎曰ク第二ノ因[○]ハ第三ノ喻[○]即チ既知界事件ト第一ノ宗[○]即チ未知界事件トヲ比較スルニ全力ヲ有スルカ故ナリトス又因明學ニハ一ノ論式ヲ呼テ比[○]量[○]ト云比量トハ如何ナル意味乎曰ク甲事物ノ既知件ト乙事物ノ未知件トヲ比[○]較[○]シ量[○]度[○]スルノ法則ナリト云意味ナリ斯ノ如ク足目ノ九句[○]因[○]カ[○]因[○]明[○]學[○]ノ濫觴トナリ又此學ノ全躰ニ因[○]ノ命名[○]アリ[○]テ宗[○]并[○]ニ喻[○]

ノ命名ナク又此論式ニ比量トイヘル命名アルハ蓋シ思想ノ比較法是レ因明學ノ原則ナルノ徵證トイハサルヲ得ス

第七章 因明學ト真理ノ關係

余已ニ因明學ハ比較法ヲ以テ原則トナシ言語ノ訂正ヲ以テ目的トナストイヘリ爰ニ於テ人或ハ疑テイハン因明ハ萬有ノ真理ト如何ナル關係ヲ有テアル乎ト故ニ余ハ此一章ヲ設ケタルヲナリ凡ソ百科ノ學問孰レカ真理ニ關係セサルモノアラソ學問ハ總テ夫々ノ真理ヲ討究スルモノナリ然ラハ因明學ノ一科豈奚ソソ真理ニ關係セスト云フヲ得ソ蓋シ百科ノ學問ハ學問ノ範圍ニ隨ヒ各々其真理ヲ分擔セリ獨リ論理學ハ自己分擔ノ真理ト他諸學ニ研究セル真理トノ兩方ニ關係スルモノナリ余ハ前者ヲ呼テ直接的分擔真理ト名ケ後者ヲ呼テ間接的關係真理ト云ハントス其直接的分擔真理ト云ハ論理ノ

因明學

法則是ナリ其間接的關係真理ト云ハ天地萬有ノ真理是ナリ而ノ余カ
 因明學ト真理ノ關係ト題言セル真理ハ二者ノ中天地萬有ノ真理是ナ
 リト思ヘ
 余ハ因明學ト天地萬有ノ真理トノ關係ヲ見ルニ因明學ハ真理ヨリ出
 タ、還テ真理ニ入ントスルモノナリト謂ハサルヲ得ス先ツ余カ因明
 學ハ真理ヨリ出テマリト云所以ヲ辨明センカ夫レ真理ハ人爲的ニ構
 造スヘキモノニアラス本來自然ニ存スルモノナリ其本來自然ニ存ス
 ル真理ノ中ニ於テ吾人ノ直覺スヘキ事實アリ又吾人ノ直覺スヘカラ
 サル事件アリ其直覺スヘキ事實ハ比較推續ノ方法ヲ要セサントモ其
 直覺スヘカラサル事件ヲ知ルニハ必ス比較推續ノ方法ヲ要ス他語以
 テ之チイヘハ吾人カ直接ニ知り得ヘキ事實ハ因明ニ無關係ト云テ可
 ナントモ直接ニ知り得ヘカラサル事件ハ因明全脈ノ關係ヲ有スト云

序

論

テ可ナリ因明學ハ只此直接ニ知ルヲ得サル真理ヲ悟了スル爲メニ
 比較推續ノ方法ヲ訂正シタルモノナリ既ニ然ラハ前章論スル如ク思
 想ノ比較力ハ因明學ノ興ル原則ニ相違ナクセントモ其思想ノ比較的作
 用ハ本ト未顯現ノ真理アルカダメ之ヲ知ラントスルヨリ起ルモノナ
 リ之ニ由テ之ヲ觀ルニ未顯現ノ真理ハ因明學ノ興起スル原理ノ原理
 ナリト謂ヘキ歟例ヘハ茲ニ天地萬物ヲ甲乙丙丁戊ノ五個ト視テ其
 五個ノ事物ニ左圖ノ如キ條件ヲ備ヘタルモノト假定シテ見ヨ

- 甲 い……ろ……は……に……は
- 乙 い……ろ……へ……と……ち
- 丙 い……ろ……り……ぬ……る
- 丁 い……ろ……を……わ……か
- 戊 い……ろ……よ……た……れ

因明學

圖ノ如ク甲乙丙丁ノ四個ハ孰レモイアルト共ニ亦ろアリ而シテ戊ニハ
 いノ點アルト明瞭ナレトモ未タるノ點アルト明瞭ナラス戊ニろアル
 トハ未タ明瞭ナラサレトモ既ニ甲乙丙丁ノ四個ニハイアルト共ニ又
 ろアルカユエ此ヨリ推ノ考ヘ見ルニ戊ニモ亦ろノ件アルニ相違ナシ
 ト推測スルカ如キハ即チ或ル事件ノ真理未タ顯ハレサルカユエ之ヲ
 知ントスルヨリ起ルトコロノ比較思想ナルモノナリ姑ク之ヲ原因結
 果ノ大法ニ就テイハソカ凡ソ結果ノ現象ニハ皆原因アリト云ハ一般
 ノ事實ナリ然ルニ或ル結果ニ局リ未タ其原因ヲ見出サス或ル物ニ局
 リ未タ其原因ヲ見出サ、レトモ一般ヨリ推ノ考ルニ彼モ其原因ナカ
 ルヘカラスト思想ハ比較的ニ真理ヲ探究スルモノナリ(讀者ハ爰ニ於
 テ因明ノ歸納法論理ニ關係アルト思テ知レ)之ヲ要スルニ真理ハ元ヨ
 リ天然ニ存ス其天然ニ存スル真理ヲ討究スル爲メニ設ケタルカ此因

序

論

明學ナリ故ニ余眞理ハ、因明學ハ、與ル原理ハ、原理ナリト云ニ躊躇セザ
 ルナリ此ハ自悟門ニ就テ悟ル
 進シテ因明學ハ眞理ニ入ントスルモノナリト云テ辨明セシカ夫レ
 因明ハ立敵對論ノ言語ヲ訂正スルカ研究ノ目的タルニ相違ナシ然ル
 ニ言語ヲ訂正スルハ何ノタメ乎ト更ニ第二ノ目的ヲ討ヌルトキハ萬
 有ノ眞理ヲ明メンカ爲メナリトイハサルヲ得ス然リ而シテ萬有ノ眞理
 ヲ明ムルト云ニ就キ自悟ヨリ悟他ニ移リ自悟ノ方ヨリハ寧ロ悟他ノ
 方ヲ旨トスルカ此因明學ナリ何トナンハ因明ハ自悟ヲ以テ満足スル
 モノニアラス悟他ヲ以テ満足スルモノナルカ故ナリ悟他即チ自己ノ
 見付タル眞理ヲ他人ニモ見付サセントスルニハ言語ヲ訂正セサルヘ
 カラス何トナンハ言語不規則ナルトキハ贅辨百出煩論雜起シテ自己
 悟了ノ眞理ヲ他人ニ快ク悟ラ令ルト能ハサルカ故ナリ是ヲ以テ因明

ハ言論ノ規律ヲ正スヲ目的トナスニ相違ナクレトモ更ニ第二ノ目的ヲ討ヌルトキハ自他等シク真理ニ悟入スルノ利益ヲ得ンカ爲ナリ故ニ余、真理ハ因明學ノ目的ノ目的ナリト斷言スルニ躊躇セサルナリハ此悟他論スニ就テ論スニ

余斯ノ如ク因明ト真理ノ關係ヲ論スルモ亦其徵スルトコロアレハ也曰ク彼レ陳那ハ自著ノ書ニ因明正理門論ト題シ彼レ天主ハ自著ノ書ニ因明入正理論ト題ス之ヲ大疏ノ中ニ慈恩釋シテ云々スルトコロ是レ其徵證ナルモノ也且ツ夫レ汝ニ出タルモノハ汝ニ還ルト云如ク本ト真理ヨリ出タルモノニ非レハ還タ真理ニ入ルヘキ筈ナキナリ故ニ瑜伽論十五紙十四ニ問若一切法自相成就各自安立已法性中復何因緣建立二種所成義耶答爲欲令他生信解故非爲生成諸法性相ト云々是亦余ノ徵證トスルトコロ也

第八章 因明學ト佛教ノ關係

因明トイヘハ釋迦佛ノ新發明ニ係ル論理學ト視ナシ因明ハ即チ佛教ナリ故ニ因明ノ世ニ弘マルハ即チ佛教ノ世ニ弘ルモノナリト云様ナ見テ懷ク者或ハ之アル哉ニ聞ク故ニ余ハ本題ヲ辨明スルノ必要ヲ感セリ蓋シ本題ヲ辨明スルニ先立チ論決スヘキハ因明ハ佛說カ非佛說カノ事件是ナリトス

余カ眼光因明關係ノ書類ヲ吟味スルニ釋迦佛ノ說ナルカ如ク見ユル處ト又釋迦佛ノ說ニハアラサルカ如ク見ユル處ト兩様アリ其佛說ノ如ク見ユル處ハ解深密經第五卷紙二佛ノ本母藏經ヲ分別スル中ニ證成道理ト云一個條ヲ立テ、之ヲ釋スルニ五種ノ清淨ト七種ノ不清淨トヲ分別シテアリ此カ佛因明ヲ說クリト云ヘハ云ハル、處ナリ又慈恩ハ大疏ノ初ニ因明論者源唯佛說トイヒ又チ佛說因明ト云語ヲ出セル

モノ是ナリ其佛説ニハ非ルカ如ク見ユル處ト云ハ瑜伽論三十八紙(一)内明處(二)因明處(三)聲明處(四)醫方明處(五)工業明處ト印度一般ノ學問ヲ五科ニ分チ第一内明處ハカリテ大乘小乘ノ佛教ナリトシ第二因明第三聲明第四醫方明ハ一切ノ外道論ナリ第五工業明ハ世間普通人種ノ修ムルトコロナリト辨明ソアリ同六十八紙十八ニモ諍訟究竟者謂諸外道因明論トイヘリ又慈恩ハ大疏ノ初ニ劫初足目創標真似ト説テ因明ノ始創者ハ釋迦佛已前ノ足目其人ナリトイヘルモノ是ナリ

爰ニ古來因明專學ノ輩ハ喋々辨論ヲ戰ハシ因明唯佛説ト云フヲ無理ニモ主張スルトコロナリ然ルニ余ハ之ニ反シ因明ハ佛説ニアラスト云説ヲ取ル者ナリ蓋シ余カ因明非佛説ト云ハ佛ハ因明ノ規則ヲ説カス又因明ヲ應用スルヲナシトノ謂ヒニハアラス只佛カ之ヲ發明シタルニアラストノ謂ナリ例セハ四大ノ如キ極微ノ如キ五根ノ如キ五境

因明學

序

論

ノ如キ何レモ皆佛出世已前ニ行ハレ居ル外道説ナレトモ佛ハ是等ヲ應用或ハ轉用スルヲアルカ如シ夫レ佛ハ真理ニ違害ナシト認ルトキハ一切外道ノ論モ皆應用或ハ轉用シテ一大佛教ヲ大成セリ既ニ然ラハ佛出世ノ際印度國全般ニ行ハレ居ル因明學ヲ豈應用セサルヘケンヤ殊ニ佛ハ常ニ外道ト對論シ且ツ説法ヲ事トナセリ然ラハ悟他説明ノ規律タル因明ノ論理法豈焉ソノ應用セサルヘケンヤ既ニ之ヲ應用ス豈奚ソソ亦其規律ヲ説カサルヘケンヤ宜ナル哉經文處々ニ因明ノ語氣顯ハレ居ルヲ誠トナル哉慈恩ハ文廣義散備在衆經ト言ヘルヲ然リ佛ハ因明學ノ開祖ニアラス只是レ應用者ナルノミ佛ハ只外道説ヲ應用シタルニ過キサルニエ後代ノ論師益々之ヲ改正シテ止マサルナリ若シ因明ヲシテ戒律ノ如ク佛ノ始創ニ出テ佛ノ規定ニ係ルモノトセンカ豈奚ソソ後代ノ論師徒ラニ之ヲ改正シテ新規則ヲ按出スヘ

ケンヤ學者其之ヲ思ヘ
 前陳ノ如ク因明ハ佛說ニアラス因明ハ佛說ニアラサントモ佛ノ說法
 ニハ常ニ之ヲ應用セリ佛既ニ之ヲ應用セルカユエ其佛說ヲ傳授スル
 後代ノ論師亦皆之ヲ應用セリ然ラハ因明カ佛教ニ親密ノ關係ヲ有ス
 ルヲ學者思テ知レ且ツ夫レ因明學カ支那日本ニ傳來シタルハ佛教ノ
 附屬品トナリテ傳來シタルモノナリ故ニ佛典ヲ支那譯スルモノハ因
 明ノ論理法ニ依テ譯テ爲シ又因明書ヲ支那譯スルニモ佛法ノ教理ニ
 依テ因明論理ノ譯ヲ作ルト云傾キアリ亦以テ因明ノ佛教ニ關係深キ
 一思テ知レ之ニ由テ凡テノ佛典殊ニ唐朝已後ノ翻譯ニ係ル佛典ノ如
 キハ因明ノ法則ヲ知ラサレハ文句意味共ニ解シ難キ一最モ多キヲ見
 ル加之因明ノ書ヲ解スルニモ佛教ヲ知ラサレハ解シ得サル一最モ多
 シ故ニ西洋諸科ノ學問ト論理學トノ關係アルカ如ク佛教ト因明トノ

因明學

關係ハ至リテ密ナリト思ヘ余ハ因明學ハ釋迦ノ發明ニアラス然レト
 リト云ニ歸歸セサルモノナリ請フ
 第二篇ノ因明史ヲ讀テ之ヲ知レ

第九章 因明ト五問并ニ四記答トノ關係

余ハ已ニ因明ハ問答往復ノ規律ナリトイヒ又因明ハ佛教ニ親密ノ關
 係アルモノ也ト云ヘリ此ニ由テ經文論說ニ出タル五種ノ問難四種ノ
 應答中ニ於テ因明ハ孰レニ關係深キモノ乎即チ因明ハ孰レノ問ヒ何
 レノ答ヘニ必要ナル乎ト云フヲ定メ置ントス

五種ノ問難トハ瑜伽釋紙九ニ(一)不解故問(二)疑惑故問(三)試驗故問(四)輕觸
 故問(五)爲欲利樂有情故問トアルモノ是ナリ凡ソ吾人カ平常主客相對
 ノ發ス問ヲ調ルモ此五種ノ問ヲ出サルモノナリ而シテ因明ハ此中何
 レノ問ヒニ入用ナル乎ト云ニ五種凡テニ入用ナリトイハサルヘカ
 ラス凡ソ此五種ノ問ヲ發スルニ就キ又之ヲ答ルニ就キ適宜ニ因明ハ

序

論

因明學

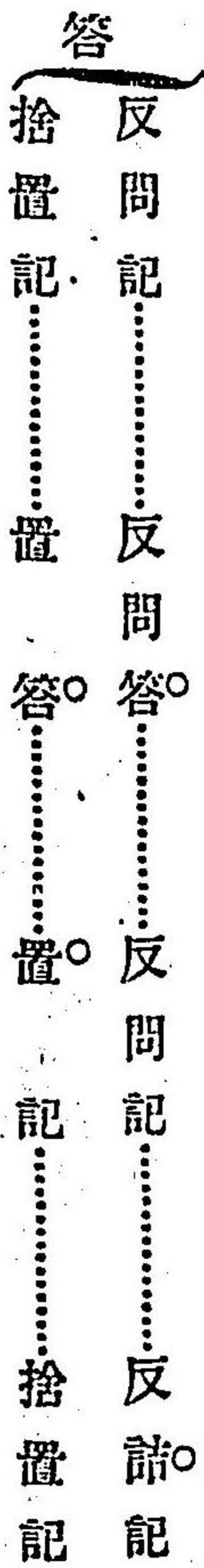
入用ナルモノナリ否此五問ト云ハ元來因明學ノ範圍中ニアルモノト見テ可ナリ

此五種ノ問ヒ何レニテモ其問フトコロノ事件ニ就キ之ヲ答ル答ヘ方ニ四種ノ別アリトス之ヲ名ケテ四記答ト云ヘリ此四記答ノトハ佛典中處々ニ出タルトナルガ今余ノ眼光ノ及フ處ヲ舉レハ涅槃經北本第三十四紙十八解深密經五紙四長阿含經第八紙十六大智度論第二紙廿九瑜伽論第八十一紙十五毗婆娑論第十五紙十五俱舍論第十九紙十八義林章七本三十等是ナリ但シ是等ノ中ニ出セル四記答其名稱ニ聊カ同異アリ故ニ今之ヲ表ニ作テ示サン



序

論



斯ノ如ク處ニ依テ其名稱少シク異ナレトモ其意味ハ一致ナリ故ニ姑ク涅槃經ノ名稱ニ就テ辨明スヘシ

(第一) 一向記ト云ハ問者ノ云トコロ道理ニ契ヘリト見ルトキハ答者之ヲ一刀裁斷シテ答フ然リト云モノ是ナリ例ヘハ生レタル者ハ必ス死スルトアル乎ト云問ノ如キハ一向記ノ法ニテ答フヘキ問ナリトス近クハ耶蘇教徒ヨリ佛教者ニ向テ汝カ佛陀ハ慈悲者ナル乎ト問ヘハ佛教者此カ答ヘニ躊躇スルトナク答フ然リト云ハチハナラヌ斯ノ如キヲ名テ一向記答ト云フ

(第二) 分別記ト云ハ問者ノ云トコロニ於テ其一部分ハ道理アリ其一部分ハ道理ナシト見ルトキハ答者ハ之ヲ一刀裁斷スルトテ得ス必ス分

因明學

別シテ答辨ヲナスモノ是ナリ例ヘハ死スル者ハ復タ必ス生スルトアル乎ノ問ヲ答ヘテ煩惱未斷ノ者ハ死スレハ復タ必ス生スルトアリ煩惱已斷ノ者ハ死スレハ再ヒ生スルコトナシト云カ如キヲ分別記ノ例トス此ハ佛法ニ就テ例ヲ出ス近クハ耶蘇教徒ヨリ佛教者ニ向テ汝カ佛陀ハ凡テノ衆生ヲ自在ニ救濟スル全能力ヲ有スル乎ト問ヘハ佛教者ハ分別ノ之ヲ答ヘテハナラヌ如何カ分別スル乎曰ク有縁ノ衆生ナレハ佛陀能ク之ヲ救濟ス無縁ノ衆生ナレハ佛陀之ヲ救濟スルコト能ハスト分別ノ答フヘキナリ此ノ如キヲ名クテ分別記答ト云フ

(第三) 反問記ト云ハ第二分別記ト同種類ノ問ヒアルトキニ之ヲ反問セズニ分別解釋シテ答辨ヲナスコト又先ツ問意ヲ反詰シタル後之ヲ分別解釋スルコト答辨ノ仕方ニ兩様アリ其前者ヲ分別記答ト名ク其ノ後者ヲ反問記答ト名ク蓋シ經文論說皆別ニ問難ヲ作リテ反問ノ法

序

論

ヲ示シテアリ例ヘハ人類ハ高勝ナルモノハ將タ卑劣ナルモノハカト問ヒテ立ルトキ先ツ反問ノ汝ハ誰ニ對望ノ此問ヲ立ル乎若シ畜生等ニ對望スレハ人類尙尊高ナリトイハサルヘカラス若シ佛菩薩等ニ對望スレハ人類尙卑劣ナリトイハサルヘカラスト答ルカ如キモノトス又答者ノ方ニ於テ分別解釋スルコトナク只問者ヲ反詰スルノミニテモ能ク問者ノ録ヲ挫クコトヲ得レハ之ヲ反問記答ト名ク例ヘハ耶蘇教徒ヨリ佛教者ニ向ヒ汝カ佛法ニハ何故ニ生前ノ空想論ヲ爲ス乎ト問ヒテ立ルトキ佛教者之ヲ反詰シテ汝カ耶蘇教ニハ何故ニ死後ノ空想論ヲ爲ス乎ト云カ如キモノ是ナリ

(第四) 捨置記ト云ハ問者ノ云トコロ道理ノ範圍ヲ越ヘタルモノト見ルトキハ答者之カ應答ヲナサス其問ヲ捨テ、只默然タル乎或ハ汝カ問ヒハ理外ナレハ予此カ答辨ヲナスヘカラスト言テ問ヒテ捨テ置ク乎

因明學序

ノ二種是ナリ例ヘハ身心ト實我トハ一ナルモノ乎又異ナルモノ乎ト問ヲ立ツルモノアリトセシカ佛敎ハ無我ヲ以テ真理トナスカ故ニ此問ヲ理法外ノ問ヒト視ナシ是等ノ問ヒニ向テ一異ノ答辨ヲナスヘカラス若シ此ニ向テ一異ノ答辨ヲナストキハ答者隨テ真理ニ違害スルコトナル故ニ其答辨ヲナサ、ルヲ問答ノ規律トス今更ニ例ヲ出セハ太陽曆二月三十日ハ何曜日ニ當ル乎ト問ヒ或ハ甲斐國信濃國ニ出ル海産物ノ量ハ一歳ニ若干ナル乎ト問フコアルカ如シ又耶蘇敎徒カ佛敎者ニ向ヒ汝ハ天ノ造物主ト佛陀ト孰レカ信愛スルノ情深キ乎ト問カ如キモ此例ナリ(學者此捨置記答ノコトヲ詳カニセント欲セハ瑜伽倫記五十一紙廿九婆娑論十五十五同紙十七等ヲ見ヨ)

然リ而ノ今ノ要論ハ因明論理ハ此四記答ノ中イツレノ部類ニ於テ最モ關係深キ乎ト云フヲ極メルニアリ余ハ四記答ノ中ニ於テ第一一向

序

記答ト第二分別記答ト第三反問記答トニ於テ因明ノ論法殊ニ關係深キモノトス何トナレハ第一一向記答ノ如キ五種ノ問難中ニテ若モ試驗ノ問ヒナレハ論法ノ入用ナキカ如クナレトモ若モ不解ノ問ヒ或ハ疑惑ノ問ヒナレハ論法ノ必要ヲ見ル何トナレハ宗因喻ノ論式ヲ以テ其然ルヘキ所以ヲ説明セサルヘカラサルカ故ナリ只第四捨置記答ノミ因明ノ論式ニハ關係ナキモノ、如シ何トナレハ彼ハ默然タル乎或ハ汝ノ問ハ答ヲ要セスト云ヒ捨テアル乎ニ止ルカ故ナリ

第十章 因明ト七句答トノ關係

雜集論第十五紙ヲ見ルニ諸問ノ答ヘテ分類スルニ順前句答順後句答二句答三句答四句答述可句答遮止答ト云七種ノ答辨法アリト説ケリ而ノ余ハ此七種ノ答辨法ヲ以テ前ノ四記答ヲ出テサルモノト見ル請フ其表ヲ示サン

論

因明學

順前句答 |
 順後句答 |
 二句答 |
 三句答 |
 四句答 |

分別記答(或ハ反問記答)

述可句答……………一向記答
 遮止答……………捨置記答

余ハ此七句答ヲ一一辨明スルハ贅論煩説ノ恐ニアントモ佛典ヲ見ル
 一ノ乏シキ人ノ爲メ之ヲ一言シ置カン

(第一)順前句答ト云ハ問者狭小ノ事實ヲ前名辭トナシ寬廣ノ事實ヲ後
 名辭トノ問ヒ來ルトキハ二句云二命題ト中其前句ニ隨順ノ答辨スル
 ヲ規則トスルニアリ例ヘハ茲ニ

序

論

東京人ハ(狭)皆日本人(寬)ナル乎前若シ東京人カ皆日本人ナラハ日
 本人ハ凡テ東京人ナリト云フヲ得ル乎後

ト問ヲ立ツルコアリトセンカ此時ハ前句ニ順テ左ノ如ク答フヘシト
 云カ順前句答ノ規則ナリ

東京人ハ皆日本人ナリ前但シ日本人ニシテ東京人ニ非ルアリ
 地方人民ノ如キ是ナリ故ニ汝カ後句ハ非ナリト云カ如シ

(第二)順後句答ト云ハ問者寬廣ノ事實ヲ前名辭トナシ狭小ノ事實ヲ後
 名辭トノ問ヒ來ルトキハ二句ノ中其後句ニ順シテ答辨スルヲ規則ト
 スルニアリ例ヘハ茲ニ

日本人(寬)ハ皆東京人(狭)ナル乎前若シ日本人カ皆東京人ナレハ東
 京人ハ凡テ日本人ナリト云フヲ得ル乎後

ト問ヲ立ルコアリトセンカ此時ハ後句ノ方ニ順シテ左ノ如ク答フヘ

シト云カ順後句答ノ規則ナリ

東京人ハ日本人ナリ句順後然レトモ日本人ハ皆東京人ナリト云フ
ヲ得ス故ニ汝カ前句ハ非ナリト云カ如シ

(第三)二句答ト云ハ其區域既ニ劃然ト分レ居ルヲ合併セントスル問ヒ
ニ應答スルモノ是ナリ例ヘハ茲ニ

有機物ハ亦無機物ナル乎或ハ無機物ハ亦有機物ナル乎

ト云問ヒテ發スルヲアリトセンカ此時ハ二句答ノ規則ヲ應用シテ答
辨ニ供セサルヘカラス其規則左ノ如シ

或ル物ハ有機物ニシテ無機物ニアラス(動物ノ如キ是ナリ)

或ル物ハ無機物ニシテ有機物ニアラス(石瓦ノ如キ是ナリ)

(第四)三句答ト云ハ其一部分ハ區域分レ其一部分ハ區域分レサルモノ
ニ就テ問テ立ルトキニ際シテ應答スル規則ナリ例ヘハ茲ニ

男子ハ亦女子ナル乎女子ハ亦男子ナル乎

ト問テ立ルヲアリトセンカ此時ハ三句答ノ規則ヲ應用シテ答辨ニ供
セサルヘカラス其規則左ノ如シ

或ル者ハ男子ニシテ女子ニアラス(通常ノ男子是ナリ)

或ル者ハ女子ニシテ男子ニアラス(通常ノ女子是ナリ)

或ル者ハ男子ニシテ亦女子ナリ(男根女根并生ノ者是ナリ)

(第五)四句答ト云ハ其一部分ハ甲寛ニ乙狭ナリ其一部分ハ乙寛ニ甲狭
ナリ其一部分ハ今ノ論點ニ無關係ナル事柄ニ就テ問テ立ルトキニ臨

ミテ答辨スル規則ナリ例ヘハ茲ニ

眼力アル者ハ必ス耳力アル乎又耳力アル者ハ必ス眼力アル乎

ト問テ立ルヲアリトセンカ此時ハ四句答ノ規則ヲ應用シテ其答辨ニ
供セサルヘカラス其規則左ノ如シ

或ル者ハ眼カアリテ耳カナシ(聾者ノ如キ是ナリ)
 或ル者ハ耳カアリテ眼カナシ(盲者ノ如キ是ナリ)
 或ル者ハ眼カアリ亦耳カアリ(五官完全スル人間ノ如キ是ナリ)
 或ル者ハ眼力ナク亦耳力ナシ(盲者ニシテ亦聾者ノ如キ是ナリ)
 已上五種ノ答辦法ハ即チ四記答中ノ分別記答ナルモノナリ又時ト場
 合ニ依リテ反問シタル後ニ此答辨ヲナスコトアルハ即チ此カ亦反問記
 答トナル故ニ余ハ之ヲ分別記ト反問記トニ屬當スヘキモノトス
 (第六)述可句答ハ前ノ一向記答ニ准メ知ルヘク(第七)遮止答ハ前ノ捨置
 記答ニ准メ知ルヘシ
 爰ニ於テ因明ノ論式ハ此七句答ノ中イツレニ最モ關係ヲ有スル乎ト
 尋レハ余ハ前六種ノ答ハ凡テ因明ノ論式ガ關係スル皆因明ノ論法ガ
 入用テアルト云ハサルヲ得ス其旨前章ニ准メ知レ

余斯ノ如ク五問并ニ四記答七句答ノコト喋々スルハ頗ル贅論ニ似
 タントモ余ハ(一)讀者ヲシテ印度國古代ニ溯レハ學問宗教ノ隆盛ナ
 ルト共ニ又論議ノ頗ル流行セリト云情況ヲ想像セシメシカ爲メ(二)
 今講述スル因明學ハ斯ノ如キ論議國ニ興リシ論理學ナルニエ此ハ
 問答對論ノ方式ヲ訂シタルモノナリト云フ考ヘテ一層確カナラシ
 メシカ爲メト想フ意ヨリシテ遂ニ此事ヲ記スルニ至ル余豈ニ空シ
 ク贅説ヲ好ム者ナランヤ

第十一章 論議ノ七大條件(七因明)

瑜伽論第十五四紙雜集論第十六七紙顯揚論第十一初紙ヲ見ルニ論議
 ノ法則ニ就テ七大條件アルコトヲ説クリ古來此ヲ呼テ七因明ト名ク此
 七因明ハ余カ本論ニ入テ陳述セントスル因明百般ノ事柄ヲ凡テ概括
 スルモノナリ凡ソ論ヲ作ス者ハ必ス心得オクヘキ緊要ノ事件ナリ然

因 明 學

レトモ余ハ紙數ノ増加ヲ恐レテ爰ニ其大要ヲ一言シテ止ントス請フ
 志シアル者ハ原書ニ就キ之ヲ盡セ
 第一件論體。此ハ論議ノ性質ヲ定ルニアリ凡ソ論議ノ中ニ於テ有用
 ノ論アリ又無用ノ論アリ而シテ因明學ハ本ト論議スル爲ノ學問ニ違ヒ
 ナケレトモ無用ノ論ヲ爲ストハ因明ノ制禁スル所ナリ故ニ凡ソ論ヲ
 爲サント欲スル者ハ先ツ吾論ハ如何ナル利益アル乎能ク眞理ヲ開顯
 スル乎能ク世間ヲ潤益スル乎ヲ考ヘテ若シ有益ト見レハ論議スヘク
 若シ無益ト見レハ論議ヲ止ムヘシト云カ第一條件ナリ
 第二件論處。此ハ論議ノ場處ヲ定ルニアリ曰ク縱ヒ有益ノ論ト認ム
 ルモ論議其効ヲ見ントスルニハ先ツ其場處ヲ撰ハサル可ラス至當ノ
 處ヲ撰ヒタル上ニ立敵ノ論證ヲ能ク判定スルニ堪ヘタル者ヲ選ンテ
 證義者ト爲サル可ラス其證義者ヲ得タル上ニ敵者并ニ傍聽者ノ中

序

論

ニ僻執偏黨ノ者ナク皆淳朴ニシテ事ヲ公平ニ理解スル者ナラサルヘカ
 ラス若シ此事ヲ満足セスハ論ヲ止メヨト云カ第二件ナリ
 第三件論據。此ハ論議ノ據ロカ確メルニアリ曰ク縱ヒ前二件ハ完全
 ストモ吾論ノ據ロカ確ガナラサレハ議論ヲ發スヘカラスト云條件ナ
 リ然ラハ如何ナル事ヲ論據ト云乎答テ云ク余カ本論ニ入テ陳ントス
 ル宗因喩ノ如キ是ナリ請フ第三篇ニ入テ之ヲ知レ
 第四件論莊嚴。此ハ論議ノ莊嚴ヲ示ス曰ク縱ヒ前三件ハ完全ストモ
 論議ヲナスニハ論者ノ莊嚴ヲ要ス何ヲカ論者ノ莊嚴ト云乎曰ク六種
 アリ(一)自他ノ學理ニ通曉スル(二)語韻ノ調子完全ノ野卑ナラサル(三)
 其容貌自ラ威嚴ヲ呈シ公衆ヲ恐ル、ノ色ナキ(四)其辨舌流暢ニシテ
 訥ナラサル(五)發言ノ緩急其宜シキヲ得ル(六)語言ノ麁暴ニ亘ル過
 チ之ナキ(一)已上六種ヲ以テ論者ノ莊嚴ト定メ之ヲ具スル者ハ進テ論

因 明 學

チナスヘク之ヲ欠タル者ハ論ヲ控ユヘシト云カ第四件ナリ
 第五件論負。此ハ論議ニ墮負アルコトヲ示ス曰ク前四件ヲ完全セル
 者ナレハ論ニ負ル等ハナキナリ但シ之ヲ完全セサル者ニ限り負ル
 アルヘシ孰レニシテモ一方勝チヲ得レハ一方必ス負ケルト云フハ論
 場ノ定則ナリ此ニ就キ如何ナル點アルヲ以テ論ノ墮負シタル徵シト
 ナスカ曰ク三點アリ(一)曾テ反對ノ意見ヲ懷キシ者カ今ノ論ニ依テ他
 論ニ同意ノ語ヲ發スル(二)其言語窮シ或ハ本説ノ幾分ヲ轉セント計
 ル(三)其言語上ニ種々ノ過誤下ニ陳ル三十發生スルト是等ノ點ヲ見
 レハ則チ議論ニ負ケタル徵證ナリト思ヘト云フカ第五件ナリ
 第六件論出離。此ハ論前ノ觀察ヲ示ス凡ソ論場ニ臨マントスル者ハ
 先ツ三種ノ觀察ヲナシ以テ論ノ進退ヲ決セシコトヲ要ス一ニ第一則ニ
 照ノ吾レ此論ヲナセハ自他ノ上ニ其効益アルカ否カヲ觀察スヘシニ

序

論

ニ第二則ニ照ノ論ノ場處ト證義者ト敵者并ニ傍聽者ノ得失ハ如何ノ
 觀察ヲナスヘシ三ニ第三則ニ照シテ吾論ノ憑據トナル理由事實即チ
 宗因喩ノ確否巧拙ハ如何ノ觀察ヲナスヘシ是等ノ觀察ヲナシ若シ欠
 典ナシト見ルトキハ進テ論壇ニ登ルヘシ若シ其欠典アルヲ見付ルト
 キハ退テ已レテ守ルヘシト云カ第六件ナリ
 第七件論多所作法。此ハ論ノ勝利ヲ示ス曰ク既ニ第六則ノ如キ觀察
 ヲナシテ論壇ニ登ルトキハ則チ論躰ト論處ト論據ノ三種ハ完全セリ
 此上更ニ第四則ノ如キ論ノ莊嚴ヲ具スレハ其論ヤ負クントスルモ負
 クルト能ハス百萬ノ強敵ヲ塵ロシニスト云カ如キ大勝利ヲ得ルト空
 シカラス隨テ作シ得ル所ノ利益亦大ナルモノナリト論ノ勝利ヲ示ス
 カ此第七件ナリ
 已上余ノ見識ヲ以テ瑜伽雜集顯揚ノ三論ニ出テタル因明段ノ大意ヲ

ハ諺譯シタモノナリ古來ハ之ヲ七因明ト名ク余ハ之ヲ論議ノ七大條件トイフ且ツ余ハ七大條件中ノ第六論出離ノ觀察ト云ハ初ノ三大條件ヲ觀察スルニアリト見タリ又余ハ第七論多所作法ト云ハ第四論莊嚴ニ由テ得ルトコロノ結果即チ論ノ勝利ヲ示シタモノト見ル余ハ斯様ニ見サレハ此七大條件ニ煩重ノ過アリトイハサルヲ得ス請フ學者原書ヲ披テ之ヲ正セ

第十一章 結論

余本篇ヲ因明序論ト題シ數章開陳シ來レハ今ヤ其結ヲ取リ將ニ本論ニ移ラントスルニ前章尙餘セル論アリ曰ク因明學ノ定義并ニ因明學ノ目的并ニ因明學ノ效能ノ如キ是ナリ但シ余ハ之ヲ別章トシテ講述セサントモ前數章中ニ之ヲ籠メテ講述シタル心得ナリ然ラハ讀者前數章ヲ閱シ來レハ是等ノ點モ粗々悟了アルト信ス要スルニ因明學

因 明 學

序

ハ思想言語ノ兩方ニ關係ストハイトモ因明特殊ノ點ニ就テ論セハ問答往復ノ言語規律ヲ訂正スルモノ也定而シテ言語ノ規律ヲ訂正スルノ目的ハ真理ヲ昏マズ邪論ヲ碎キ真理ヲ顯ハス正論ヲ立センカ爲ナリ目其效能ヲ論スレハ人能ク之ヲ學ヒ之ヲ熟シ之ニ徴シテ論ヲナストキハ恰モ武術ニ達スル者ハ能ク賊難ヲ避ルノ効アルカ如ク論壇上邪論ニ勝利ヲ得セシムルヲナキト共ニ正論者ニ必ス勝利ヲ得セシムル效能アリト云ニ皈ス

抑モ印度國ハ全世界中文學ニ就テノ率先國ナルト共ニ又々宗教ニ就テノ率先國ナリ故ニ印度古代ニ於ケル内地ノ情況ハ種々ノ學派種々ノ宗教競諍勃起ノ互ニ彼ヲ非トシ此ヲ是トスルノ討論軋轢アリテ暫時モ止マサルモノト見ユル但シ彼國ニハ干戈ヲ以テ諍フ稀ニ只言論ヲ以テ諍ヘルニ之ニ由テ時ノ帝王ヨリ國中ニ命令ヲ下シテ異學

論

因明學

異宗ノ徒ヲ同一處ニ徵集シ問答對論ノ筵ヲ開カシムルト云フモ時々
 之アリシト載テ史乘ニアリ亦以テ舌戰口鬪ノ熾ンナルヲ想フニ足ル
 既ニ然ラハ問答ノ法則ニ係ハル學問亦隨テ熾ンナルヘキハ數ノ免ル
 ヘカラサル所ナリ此ニ由テ五問ノ如キ四記答ノ如キ七句答ノ如キ法
 則モ具ハルト見ユル殊ニ因明論理學ノ如キ各學派各宗教ノ隔ヲナ
 ク彼此同ク之ヲ修メテ雙方共ニ問答對論ノ場ニ於テハ必須欠クヘカ
 ラサル言論ノ規矩準繩トハナセルモノト見エタリ而シテ世親已前ノ
 ハ知ルニ由シナケレトモ陳那已後ニ來リテハ因明學ノ太斗ハ陳那ナ
 ルト共ニ又因明學ヲ完全整頓セシ効モ佛敎家ノ手ニ成ルモノト見ユ
 ル蓋シ佛敎家カ此因明學ヲ研究シ之ヲ整頓シタルハ何ノ爲メナルカ
 曰ク其目的他ナシ只是ニ婆羅門各種ノ邪說ヲ辨駁シテ佛陀遺教ノ正
 法ヲ傳布センカ爲メナリ故ニ余茲ニ慈恩ノ一言ヲ引テ因明學序論ノ

序

論

結言ニ供セントス曰ク求因明者爲破邪論安立正道大疏トイヘル十二
 字是ナリ

第二篇 因明學史論

第一段 足目ノ因明論

余ハ因明學ヲ講述セントスルニ就キ因明史ト因明論ノ二大部ニ分
テ講述セント欲ス其因明史ト云ハ印度古代ニ於ケル因明學ノ系統
ヲ歴史的ニ講述スルニアリ其因明論ト云ハ陳那ト天主ノ説ヲ根據
トナシ因明學ノ論式ヲ理論的ニ攷究スルニアリ其歴史的ニ之ヲ講
述セントスルニ就キ印度ノ因明學ハ本ト足目ニ創マルマトヒ因明
ノ學派百家ニ分出ストモ其濫觴ハ足目ニアリ釋迦モ彌勒モ世親モ
陳那モ皆其後ニ出テタル者ナレハ足目ノ因明ヲ繼續シタルモノト
謂ハサルヘカラス故ニ余ハ足目ノ因明ヲ以テ因明史ノ第一段ト爲
セリ

因明學

足自ノ世ニ出タル年代ハ今之ヲ知ルニ由シナシ但其傳ルトコロハ劫初ニ出世ストイヘルノミ大疏初既ニ然ラハ姑ク普通ノ語ヲ借テ之ヲイハ、印度國太古ノ時代ニ出タル者ト謂ハサルヘカラス孰レニシテモ釋迦佛ヨリ遙カ古ヘニ出シ者タルニ相違ナシ而ノ其人跡ニ就キ種々異説アリテ或ハ勝論學派ノ開祖其人ナリトイヒ或ハ數論學派ノ開祖其人ナリトイフ(尙多説アリ)孰レモ確乎タル證據ノ史乘ニ存スルニアラス只後人ノ想像論ナルノミ蓋シ其何人タルニ係ラス古代ニ希有ナル聰明睿智ノ人タルニ相違ナキナリ而ノ其人如何ナル因明ノ規則ヲ考ヘ出シタル乎ト尋ルニ是亦其詳細ヲ知ルニ由シナシ只之ヲ知り得ヘキハ九句因ト十四過類ノミ此九句因ト十四過類ハ本ト足目ノ考按ニ出テ、世親モ(如實論)陳那モ祖述スルトコロナレハ余ハ此二部ヲ以テ足目ノ因明トナス十四過類ハ本ト足目ノ考按ナリ

ト云フハ理門論ニ出タレトモ九句因モ足目ノ考按ニ出ヅト云フハ余未タ確證ヲ見ス但慈恩ノ語ニ足目標眞似トアルノミ然レトモ今ハ古來因明家ノ傳ルトコロニ據ル

第一部九句因

九句因ト云ハ宗因喻ノ中ニテ第二因ノ正不正ヲ判定スル方法ナリ凡ソ吾人カ何等ノ事件ヲ推斷スルニモ凡テノ推斷ニハ必ス其理由ヲ陳述センコトヲ要ス其理由ヲ呼テ因ト名ク(蓋シ推斷ノ結果ヲ見ルヘキ原因ナリトノ意味ナリ)而ノ既ニ理由ヲ陳レハ此理由ハ甲チシテ乙ナレハ乙或ハ非乙ナレハ非乙トノ斷定ヲ下スヘキ因ニ相違ナシト云フテ證明スル爲メニハ更ニ其比例ヲ舉ンコトヲ要ス其比例ヲ呼テ喻ト云然リ而ノ其第三段ニ舉タル比例ヲ以テ因ヲ調フルニ或ハ因ニノ比例ノ方ニ關係スルアリ或ハ因ニノ比例ノ方ニ關係セサルアリテ遂ニ其類九種ニ分レ來ル其九種ニ分レ來ル中ニテ第二種第八種ニ相當スル

史論

モノナレハ正因トナスヘク第二第八ノ外ハ皆不正トナスヘシト云カ
足目已來九句因ヲ以テ因ノ正不正ヲ判斷スルノ規則トナレリ請フ先
ツ九句ノ目ヲ標シテ後之ヲ略述セン

- 第一 同品有異品有……………不定過
- 第二 同品有異品非有……………真。正。
- 第三 同品有異品有非有……………不定過
- 第四 同品非有異品有……………相違過
- 第五 同品非有異品非有……………不定過
- 第六 同品非有異品有非有……………相違過
- 第七 同品有非有異品有……………不定過
- 第八 同品有非有異品非有……………真。正。
- 第九 同品有非有異品有非有……………不定過

因 明 學

史

論

斯ノ如ク比例ノ喩ヲ以テ因ヲ調フルニ九トイフ數ノ出來ル所以ハ因
明一般ノ法則トシテ喩ニ同喩ト異喩トノ二部ヲ分ツ其同喩ト云ハ今論
決セントスル事件ニ對シ類同的ナルモノ是ナリ其異喩ト云ハ今論決
セントスル事件ニ無關係ナル部分はナリ換言スレハ天地間ニ宗ノ前
名辭ヲ以テ呼フ物躰ヲ除キタル外ニテ宗ノ後名辭ニ語ル事件ヲ有ス
ル者ナレハ凡テ之ヲ同喩同品ト名ケ又宗ノ後名辭ニ語ル事件ニ一向
關係セサル者ナレハ凡テ之ヲ異喩異品ト云フ然リ而シテ因ノ職分ハ其
同品ヲ宗ノ方ニ引合セル媒介者ナリ因ハ同品ヲ宗ノ方ニ引合セル媒
介者ナルカニエ其同品ト宗トノ兩方ニ遍通スル事件ヲナクテハナラ
ズ且ツ此ト共ニ又其異品ノ方ニハ寸分モ關係ナキ事件ヲ要ス因ニシ
テ少シニテモ異品ノ方ニ關係アリトセンカ其因ハ因ノ職分ヲ勤ムルコ
ト能ハサルモノナリ此ニ由テ宗ノ事件ヲ決斷シ得ル真正ノ因ハ同品ノ

方ニ必[○]ス關係スルト異品ノ方ニハ少[○]シモ關係ナキ事柄ニ限ルト定メ
 然リ而ノ凡テノ喩ヲ以テ凡テノ因ヲ調ルニ同品ノ方ニテモ其全部分
 ニ關係アル因ト其一部分ニノミ關係アル因ト又其全部分ニ關係セサ
 ル因トノ三類ニ分レ異品ノ方ニテモ其全部分ニ關係アル因ト其一部
 分ニノミ關係アル因ト又其全部分ニ關係セサルモノトノ三類ニ分レ
 來ル此ニ由テ其同品ノ方ニ屬スル三類ヲ以テ異品ノ方ニ屬スル三類
 ニ掛合セテ見ルト同品ノ方ナル三類各個ニ異品ノ方ナル三類アルヘ
 キカ故ニ三々カ九ノ數ヲ成スルトナレリ
 而ノ此ニ有[○]トイヒ非[○]有[○]トイヒ有[○]非[○]有[○]トイフ意ハ有[○]トハ全部分ニ遍ク
 關係スルノ意ヲ示ス非[○]有[○]トハ全部分ニ遍ク關係ナキ意ヲ示ス有[○]非[○]有[○]
 トハ其一部分ニハ關係スルトモ其一部分ニハ關係ナキ意ヲ示スニア

因 明 學

史

論

又此九種ノ正不正ヲ辨別スルニ第二ト第八ヲ真正トシ第四ト第六ヲ
 相違ノ過トシ餘ノ五種ヲ不定ノ過トスル所以ヲ辨明センカ第二ト第
 八ノ如キハ共ニ同品ノ方ニハ關係アリテ異品ノ方ニハ少シモ關係セ
 サルニ由テ之ヲ正トナス又第四ト第六ノ如キハ同品ノ方ニハ無關係
 ニノ反テ異品ノ方ニ關係アルニ由テ此ハ乙ナリトノ事件ヲ斷セント
 スル時ナレハ反テ非乙ナリト云相違ノ事件ヲ斷定スルノ結果ヲ招キ
 又非乙ナリト云事件ヲ論スル時ナレハ此ニ反シ乙ナリト云相違ノ事
 件ヲ斷定スルノ結果ヲ招ク因ナリトノ意ヲ以テ之ヲ相違ノ過アル因
 ナリトス之ヲ除外ナル五種ハ同品ト異品ト兩方ニ(全部分一部分ノ
 殊ナリハアレモ)關係アル因ナルカ或ハ兩方共ニ無關係ナルカ是ナリ
 ノ二類ニ過キサレニモ斯ノ如キ因ハ宗ノ事件ニ向ヒテ甲ナリト論斷

第一段 (足目ノ因明論)

因明學

スルカモナク又乙ナリト決擇スヘキカモナシトノ意味ニテ之ヲ不定
 ノ過アル因ナリトス尙之ヲ詳細ニ辨別スルコトハ因明論ノ中ノ三十三
 過ノ下ニ讓ルヘシ
 余ハ足目カ此九句因ヲ分類シタル意趣并ニ之ヲ分類スルノ方法及ヒ
 其正不正ノ辨別ヲハ略陳シタリ是ヨリ進メテ如何ナル論式カ此九種
 ニ相當スル乎ヲ明シムル爲メ九種一一ニ論式ノ例ヲ擧テ之ヲ辨明ス
 ヘキ場合トナレリ此ニ就キ余ハ新工夫ノ論式ヲ設テ之ヲ辨明スヘキ
 筈ナレトモ今ヤ史論ナレハ古代ノ情況ヲ顯サシカ爲ニ古代ヨリ用ヒ
 來リシ論式ノ例ヲ用ユル方却テ適當ナラント考ヘタリ故ニ余ハ陳那
 ノ正理門論ニ出セル論式ヲ爰ニ擧テ新工夫論式ハ讀者ノ攷究ニ任セ
 ントス余ノ新工夫ノ論式ハ但シ語ノ通シ難キモノハ普通ニ之ヲ改メ
 三十三過ノ下ヲ見ヨテ辨セントス

史

論

抑モ印度國古代ニアリテハ聲ハ常住カ無常カノ論諍最モ詳シク之ヲ
 目今ニ比スレハ恰モ神ノ存在不存在ヲ諍フカ如キ情況ナリキ而シテ其
 聲ハ常住ナリトノ見解ヲ懷キシ者ハ聲論學派是ナリ其聲ハ無常ナリ
 トノ見解ヲ懷キシ者ハ勝論等ノ學派是ナリ佛數亦此其聲論ト云中又
 大ニノ二派ニ分ル具ニハ八其一ハ聲ヲノ佛敎ノ眞如ニ等シク無始ノ
 存在ナリトシ未來モ永遠不滅ナルモノトス但シ事情アレハ發顯スル
 ニ由テ聽クヘク事情ナクハ隱沒スルニ由テ聞クヘカラスト説ク之
 ヲ名クテ聲顯派ト云他ノ一ハ聲ハ無始ノ存在ニアラス因縁ニ由リ始
 メテ生スルモノナリ但シ既ニ生シタル後ハ未來永久滅スルコトナシト
 説ク之ヲ名クテ聲生派ト云
 足目ハ是等ノ學派ガ互ニ聲ヲ論諍スル情況ヲハ各派ノ敎理ニ任セテ
 假リニ論式ヲ九種ニ組立テ以テ九句因ヲ辨別スルノ例ニ供シタリ請

因 明 學

フ其論式ヲ擧テ辨明セン
 第一ニ聲生聲顯ノ二派ヨリ勝論派ニ對シテ
 (宗) 聲ハ常住ナルヘシ
 (因) 吾人ノ所知トナルカ故ニ
 ト陳ルトセンカ然ラハ凡テ生滅ノ現象ナキモノハ同品トナリ凡テ生
 滅ノ象アルモノハ異品トナル而シテ吾人ノ所知ナリトノ因ハ最モ寬廣
 ニ過キテ同品異品ノ兩方ニ關係アル因ナリトイハサルヘカラス何ト
 ナレハ萬有中ニ吾人意識ノ所知ナラサルモノ一トノ之ナキカ故ナリ
 是ヲ以テ此因ヲ九句因中ノ第一同品有異品有ノ例ニ出セリ斯ノ如キ
 因ハ聲ハ常ナリトノ斷決モナシ得サレハ又聲ハ無常ナリトノ論斷モ
 ナシ得ルヨ能ハサルカ故ニ之ヲ不定ノ結果ヲ招ク邪因ナリトス
 第二ニ勝論派ヨリ聲論派ニ對シテ

更 論

(宗) 内部ノ聲ハ無常ナルヘシ
 (因) 因緣ヲ待テ發生スルカ故ニ所作性故トア
 ト陳ルトセンカ然ラハ前ニ反對シテ凡テ生滅ノ象アルモノハ皆同品
 トナリ凡テ生滅ノ象ナキモノハ皆異品トナル而シテ因緣ニ由テ發生ス
 トノ因ハ關係スヘキ同品即チ無常ノ方ニハ全部分ニ關係シ關係スヘ
 カラサル異品即チ常住ノ方ニハ少シモ關係セサルカニ此ヲ九句因
 ノ中ノ第二同品有異品非有ノ例トナセリ斯ノ如キ因ハ聲ハ無常ナリ
 ト一方ニ決斷スルヲ得ルカ故ニ之ヲ無過ノ正因ナリトス(無常トハ
 滅ノ義ニ名ク常住トハ不滅ノ義ニ名ク此ニ由テ生ノ始メアルモノハ
 必ス滅ノ終リアリ又此ニ反シ滅ノ終リナキモノハ必ス其生スル始メ
 モナシト云理法ヨリシテ此因カ真正トナルト也)
 第三ニ又テ勝論派ヨリ聲論派ニ對シテ

因明學

(宗) 聲ハ人ノ意力ト共ニ發現スルモノナリト勤勇無問所發性
 (因) 其性質無常ナルカ故ニ亦他隨アリ不成
 ト陳ルトセンカ然ラハ凡テ人爲的ナルモノハ同品トナリ凡テ天然の
 ナルモノハ異品トナル而シテ性質無常ナリトノ因ハ寬ニ過キテ其遍通
 スヘキ同品ノ全部ニ遍通スルノミナラス亦少シモ關係シテハナラヌ
 異品ノ中ニテ生滅ノ象ナキ部分ニハ關係セサントモ生滅ノ象アル部
 分ニモ關係スルカユエ此ヲ九句因ノ中ノ第三同品有異品有非有ノ例
 トナセリ此ノ如キ因ハ聲ヲシテ人爲ニ由テ發生スト極メルコトモ又然
 ラスト決斷スルコトモ出來ヌユエ之ヲ不定ノ結果ヲ招ク邪因ナリトス
 第四ニ聲論派ヨリ勝論派ニ對シ
 (宗) 聲ハ常住ナルヘシ
 (因) 因縁ヲ待テ生スルカ故ニ

史

論

ト陳ルトセンカ然ラハ第一ニ同シク凡テ生滅ノ象ナキモノハ同品ト
 ナリ凡テ生滅ノ象アルモノハ異品トナル而シテ因縁ヲ待テ生ストアル
 因ハ其關係スヘキ同品ニハ少シモ關係セス反テ少シモ關係スヘカラ
 サル異品ノ全部ニ關係スル故ニ此ヲ以テ九句因ノ中ノ第四同品非有
 異品有ノ例トナセリ此ノ如キ因ハ本ト立セント欲シタル聲常住ノ點
 ヲ立セサルノミナラス此ニ反シテ聲ハ無常ナリトノ斷決ヲ下スヘキ
 理由即チ媒介者トナル故ニ之ヲ相違ノ結果ヲ招ク邪因ナリトス
 第五ニ聲論派ガ其敵手ヲ替テ勝論ノ外ナル宗派ニ向ヒ
 (宗) 聲ハ常住ナルヘシ
 (因) 聽官ノ境界ナルカ故ニ所聞性故
 ト陳ルトセンカ然ラハ亦前例ノ如ク生滅ノ象ナキモノハ同品トナリ
 生滅ノ象アルモノハ異品トナル而シテ聽官ノ境界即チ耳ニテ聽クヘキ

因

明

學

者ト云ハ天地間ニ聲ヲ除テ他ニアルヲ見ス故ニ此因ハ同品異品ノ兩方共ニ少シモ關係セサルナリ故ニ此ヲ以テ九句因中ノ第五同品非有異品非有ノ例トナセリ此ノ如キ因ハ狹ニ失ノ常住ノ理由トモナラス亦無常ノ理由トモナラス故ニ之ヲ不定ノ結果ヲ招ク邪因ナリトスハ聲論カ相手ヲ登ヘタ時ノ既ニ勝論ニ對シタル時ノ既ニアラスト云ハ聲論勝論兩學派ノ教理上ニ就テ所以アルトナルトモ今ハ之ヲ答ス

第六ニ聲論派カ又說ヲ換ヘテ

(宗)聲ハ常住ナルヘシ

(因)人ノ意力ト共ニ發現スルカ故ニ動勇無問所發性故ノ謬譯

ト陳ルトセンカ其同品異品ハ前ニ均シ然ラハ吾人ノ意力ニ由テ發生ストノ因ハ其關係スヘキ同品ノ方ニハ關係セス却テ關係スヘカラサル異品ノ中ニテ風波或ハ電光ノ如キ部分ニハ關係セサレトモ人造的器械ノ如キ部分ニハ關係スル故ニ此ヲ九句因中ノ第六同品非有異品

史

論

有非有ノ例ニ相當セリトス此ノ如キ因ハ同品ニ無關係ニテ反テ異品ノ一部分ニ關係スルカユエ本ト立セント欲シタル聲常住ノ方ヲ立セサルノミナラス異品ノ一部分ニ關係スルカ爲メ反テ聲ハ無常ナリトノ斷決ヲ下スヘキ結果ヲ招クトナル故ニ之ヲ第四ト等シク相違ノ結果ヲ引クヘキ邪因ナリトス

第七ニ聲生派ヨリ聲顯派ニ對シテ聲ハ本有ノ發顯ニアラス本ト無カリシモノカ今新々ニ發生スルナリトノ說ヲ立センカ爲メニ

(宗)聲ハ人ノ意力ニ由テ發顯スルモノニアラス語ノ裏ニハ新

(因)其性質無常ナルカ故ニ此ハ兩俱不成ノ過アル因ナリ

ト陳ルコアリトセンカ然ラハ人ノ意力ニ由ラサル者ハ皆同品トナリ人ノ意力ニ由ル者ハ皆異品トナル而シテ性質無常トノ因ハ寬ニ過テ同品ノ中ニテ風波ノ如キ電光ノ如キ部分ニハ關係シ虚空ノ如キニハ無

因

明

學

關係ナリ又異品ノ方ニハ全部分ニ遍通スルトナル故ニ此ヲ九句因
 中ノ第七、同品有非有異品有ノ例トナセリ此ノ如キ因ハ同品中電光ノ
 如キヲ以テ比較スルトキハ聲ハ意力ノ發顯ニアラスト云フヲ立スレ
 トモ又異品ナル人造ノ類ヲ以テ比較スルトキハ聲ハ人ノ意力ニ由テ
 發顯スト云フヲモ立ス故ニ之ヲ不定ノ結果ヲ招ク邪因ナリトス
 第八ニ勝論派カ聲顯派ニ對シテ

(宗) 内部ノ聲ハ無常ナルヘシ

(因) 人ノ意力ト共ニ發顯スルカ故ニ

ト陳ルトセシカ然ラハ凡テ生滅ノ象アルモノハ同品トナリ又生滅ノ
 象ナキモノハ異品トナル而シテ人ノ意力ニ由テ發顯ストノ因ハ同品中
 ノ一部分ニハ關係セザレトモ一部分ニハ必ス關係シ且ツ異品ノ方ニ
 ハ少シモ關係セサルナリ故ニ此ヲ九句因中ノ第八同品有非有異品非

史

論

有ノ例トナセリ此ノ如キ因ハ人造ノ器械類ヲ以テ聲ハ無常ナリト比
 較斷定スルヲ得ルカ故ニ之ヲ無過ノ正因ナリトス
 第九ニ聲論派ヨリ勝論派ニ對シ

(宗) 聲ハ常住ナルヘシ

(因) 無形的ナルカ故ニ無質碍故ノ

ト陳ルトセシカ然ラハ聲論派勝論派ニテ常住ナリト極メタル極微并
 ニ虚空ノ如キハ其同品トナリ又瓦器并ニ心識ノ如キハ其異品トナル
 而シテ無形的ナリト云因ハ同品ノ一部分虚空ノ方ニハ關係アレトモ極
 微ノ方ニハ關係ナシ又異品ノ一部分瓦器ノ方ニハ無關係ナレトモ心
 識ノ方ニハ關係アル故ニ之ヲ九句因中ノ第九同品有非有異品有非有
 ノ例トナセリ斯ノ如キ因ハ既ニ同品ト異品ト兩方ニ關係アルカ故ニ
 前例ノ如ク不定ノ結果ヲ招ク邪因ナリトス

已上正理門論ニ出テタル九句因ノ例ヲ舉スリ今日ノ識者此ヲ見レハ頗ル奇怪ナル立論ナリトノ感想アラソ實ニ然リ今トナリテ之ヲ見レハ奇怪ノ立論ニ相違ナシ蓋シ立論ノ奇怪ナルニ係ラス此ニ依テ九句因ノ法則ヲ能ク識別セヨ然ラハ思想練磨ノ結果トソ吾人ノ思想カ比較的ニ運用スル度ヒ毎ニ多少其効ヲ見ルナラン

第二部十四過類

前ノ九句因ト云ハ立者自己ノ持論ヲ立セントスルノ論法ニ就キ立論ノ正不正ヲ辨別スル方法ナリ故ニ因明學ノ語ヲ以テスレハ彼ハ能立ノ辨別ト云ヘシ今ノ十四過類ト云ハ他論ヲ攻撃セントスル言論即チ敵者アリ先キノ九句因ノ例ニ學タル如キ立論ニ對シ辨別ヲ試ミルヤアリ其敵者辨別ノ方ニ就キ駁論ノ不正ヲ調べタモノナリ故ニ因明學ノ語ヲ以テスレハ此ハ能破ノ過誤ヲ類別スルニアリト謂ヘシ而シテ其

因明學

史

論

過誤ヲ分類スルニ十四ノ數ヲ成ス故ニ之ヲ名テ十四過類ト云請フ先ツ其目ヲ標シ次ニ之ヲ略陳セン

- 第一 同法相似過類
- 第二 異法相似過類
- 第三 分別相似過類
- 第四 無異相似過類
- 第五 可得相似過類
- 第六 猶豫相似過類
- 第七 義准相似過類
- 第八 至非至相似過類
- 第九 無因相似過類
- 第十 無說相似過類

因

明

學

- 第十一 無生相似過類
- 第十二 所作相似過類
- 第十三 生過相似過類
- 第十四 常住相似過類

此十四種ニ各々相似ノ語アル所以ハ凡ソ斯ノ如キ辨駁ト云モノハ皆非理ノ辨駁ナルカ故ニ眞ニ似テ非ナルモノナリト云意味ニテ相似ノ語ヲ須ヒタリ

(一) 同法相似過類 此ハ立者ノ論法ニアリテハ異品トナレル者ヲ敵者ハ無理ニ同品トノ攻撃ヲ試ミル過誤ナリ姑ク之ヲ九句因中第八句ニ擧タル論法ニ就テ説明センカ本ト勝論派ハ凡テ人間ノ意力ニ由テ發生スル者ハ皆無常ナリト云テ眞理トノ内聲ハ無常ナリ(宗)人間ノ意力ヨリ發生スルカ故ニ(因)ト立タモノナリ然ラハ彼レ人造的器械類ノ如

史

論

キヲ以テ同品トナシ天然の虚空ノ如キハ異品トナス言テ俟タス然ルニ敵者アリ聲ハ無形のナリ虚空モ亦無形のナリ然ラハ虚空ノ無形のナルト共ニ亦常住ナルカ如ク聲モ無形のナルカ故ニ亦常住ナルヘシト攻ルカ如キヲ同法相似過類ト云フ斯ノ如キ攻撃ハ萬有中凡テ無形的ナルモノハ皆常住ナレハ其破成セントモ既ニ心ノ如キ無形のニシテ而モ無常ナルモノアルカ故ニ其破成セス然ラハ立論ハ成メ駁論ハ成セサルカ故ニ之ヲ敵者ノ過誤ナリトス

(二) 異法相似過類 此ハ第一ニ反對ノ立者ノ論法ニアリテハ同品トナレルモノヲ敵者ハ無理ニ異法トノ攻撃ヲ試ミル過誤ナリ請フ又前ノ論法ニ就テ説明センカ抑モ勝論派ノ立意ハ人間ノ意力ニ由テ發生スルモノハ凡テ無常ナリト云ニアリテ有形無形ノ點ヲ以テ常無常ヲ論スルニアラス故ニ人造的器械類ノ如キハ確乎タル同品ナリ然ルニ敵

因 明 學

者アリ聲ハ無形的ニシテ人造ノ器械類ハ凡テ有形的ナリ故ニ器械類ノ如キ異品ニ屬スルモノガ無常ナレハトテ聲モ無常ナリト云ヘカラス彼レ有形的ノ異品カ無常ニナルニ由リ反テ此ノ無形的ノ聲ハ常住ナリト云フテ證明スヘシ汝何ソ異品ヲ取テ同品トナス乎ト攻ルカ如キテ異法相似過類ト云フ斯ノ如キ攻撃ハ萬有中凡テ無形的ナルモノハ皆常住ナリト云フテ得ス且ツ常住ニ非ルモノハ皆有形ニ非スト云フテモ得サルカ故ニ其破立セズ故ニ之ヲ敵者自己ノ過誤ナリトス

(三) 分別相似過類 此ハ立者ノ論法ニ用ヒタル同品ヲハ敵者ハ無理ニ分別シテ異品トナシ以テ攻撃ヲ試ミルニアリス第一ハ直接ニ異品トナシ其區別トナス請フ亦前ノ論法ニ就テ之ヲ説明セシ抑モ勝論派ノ立意ハ内部ノ音聲モ人造ノ器械類モ人間ノ意力ニ由テ現象スト云ノ點ハ致一ナリ故ニ器械類ヲ以テ同品トナシ聲ノ無常ヲ立セントスルニア

史

論

リ然ルニ敵者アリ他ノ事件ニ亘リテ之ヲ分別シ聲ハ元來不可見ナリ不可燒ナリ可聞ナリ而シテ器械類ノ如キハ可見ナリ可燒ナリ不可聞ナリ故ニ器械類ノ如キハ聲ノ同品ニアラス異品ナルモノナリ然ラハ其異品ニ屬スヘキ器械類カ無常ナレハトテ聲モ無常ナリト云ヘカラス彼ノ無常ハ反テ聲ノ常住ヲ證明スト云ハサルヘカラスト攻ルカ如キテ分別相似過類ト云フ斯ノ如キ攻撃ハ立者ノ論點已外ニ亘ル贅論ナルカ故ト又論理法トシテ其論點已外ノ件ヲハ分別スヘカラスト云フテ知ラサルカ故トニ原由セル誣難ナルカ故ニ之ヲ敵者自己ノ過誤ナリトス因明ニ因喻ノ法ハ分別スヘカラスト云フ規則アルハ此過類ニ基ツクモノナリ

(四) 無異相似過類 曰ク第三ハ立者ノ同品ヲハ分別シテ見テ此ハ同品ニアラス實ハ異品ナリト攻ルニアリ此第四ハ若シ眞實ニ同品ナラハ百事萬件皆均等ナラサルヘカラスト一點ノ殊異モナキ答ナリト攻ルニ

アリ請フ亦前ノ論法ニ就テ之ヲ説明セシ先ツ勝論派ノ立意ハ前辨ノ如シ然ルニ敵者アリ之ヲ攻テ既ニ同喩ト云然ラハ彼此一點ノ殊異モナキ筈ナリ而シテ聲ト器械類トテ對望スルニ既ニ可見不可見可燒不可燒可聞不可聞等ノ殊異アリ然ラハ二者同品ニアラスノ異品ナリ既ニ異品ナルカ故ニ一方無常ナレハトテ一方モ必ス無常ナリトハ斷定スヘカラスト攻ルカ如キテ無異相似過類ト云フ斯ノ如キ攻撃ハ若シ駁論者ノ說ノ如クナラハ天地間ニ比例トナルヘキ同品アルヘカラスアルカ故ト又若シ此アリトセハ則チ二物ニハアラス一物ナルヘキカ故トノ二由アルカ故ニ之ヲ敵者自己ノ過誤ナリトス

(五) 可得相似過類 前四過ハ喩ニ就テ否難スルノ過類ナリ已下第五第六ハ因ニ就テ否難スルノ過誤ナリ請フ亦之ヲ前ニ出セル論法ニ就テ説明セシカ先ツ立者ノ論法ハ前辨ノ如シ而シテ敵者アリ之ヲ攻テ抑モ

勝論派カ内聲ハ無常ナリトノ宗ヲ立タルハ當ニ人造的器械類ノミガ同品トナルニアラス亦天然の現象ノ物品モ其同品トナレリ然ラハ立者カ用ヒタル人ノ意カニ由テ發生ストノ因ノミニテ聲ノ無常ヲ立スルニアラス又他ノ因即チ現ニ見ルカ故ニト云カ如キ因ニテモ亦聲ノ無常ヲ立スルコト得ル斯ノ如ク他ノ因ニテモ聲ノ無常ヲ立シ得ヘキハ本ト立者ノ用ヒタル因ノ真正ナラサル徵證ナリトス若シ真正ナラシ平然ラハ其因ハ凡テノ同品ニ通通シ此因ノ外ニ他因ノ立シ得ヘキモノ之ナキ筈ナリト論スルカ如キテ可得相似過類ト名ク斯ノ如キ否難ハ本ト因ハ宗ノ範圍ヨリ寬キニシテ惡ルケレ宗ノ範圍ト同等ナルカ或ハ宗ノ範圍ヨリ狭キカノ二類ハ論理推斷ノ結果ヲ見ルカ故ニ論法ノ規則トシテ過失ナシト云フテ知ラサルヨリ起ル所ノ否難ナレハ敵者却テ自ラ誤認ニ墮セリトイハサルヲ得ス

因 明 學

(六) 猶豫相似過類 此ハ立者ノ宗并ニ因ヲ敵者無理ニ分別ノ否難ヲ試
 ミルニアリ請フ又前ノ論法ニ就テ説明セシカ先ツ立者ノ立論ハ前説
 ノ如シ而ノ敵者之ヲ攻ルニ抑モ汝カ宗ニ聲ハ無常ナリト云其無常ハ
 有滅ノ無ニ歸スルヲ意味スル乎又顯象ノ終ニ隱沒スルヲ意味スル乎
 且ツ汝カ因ニ人間ノ意カニ由テ發生スト云ハ本トナキモノ、今新々
 ニ現象スルヲ乎又曾テ存在スレトモ隱沒シテ見エサルモノ、今方ニ
 顯象スルヲ乎汝ハ之ヲ明言セサルニエ聽ク者ヲシテ猶豫セシム豈此
 ノ如キ猶豫ノ因ヲ以テ猶豫ノ宗ヲ立シ得ヘケンヤト攻ルカ如キヲ猶
 豫相似過類ト名ク斯ノ如キ攻撃ハ凡テノ論法ハ其因アレハ必ス其宗
 ノ隨逐シテ暫クモ離レスト云宗因ノ關係ヲ考ヘ見ルヲ必要ナリ敵者
 ニシテ此事ヲ考レハ若シ因前者ナレハ宗モ前者ナルヲ論ナク若シ因
 後者ナレハ宗モ後者ナルヲ論ヲ俟タスノ知ルヘシ然ルニ敵者此考ヘ

ナキニ由テ此證難ヲ設ケタルモノナレハ亦敵者自己ノ過誤トイハサ
 ルヲ得ス

史

論

(七) 義准相似過類 此ハ立者ノ論法ニ就キ其裏面ニ回ハリテ攻撃ヲ試
 ミルニアリ請フ又前ノ論法ニ就テ之ヲ説明セシカ先ツ勝論ノ立意ハ
 凡テ人ノ意カニ由テ發生スルモノハ皆無常ナリト云ニ皈ス是ヲ以テ
 敵者ヨリ之ヲ攻テ若シ然ラハ義准スルニ之ニ反ノ凡テ無常ナルモノ
 ハ皆人生ノ意カニ由テ發生スルモノナリト云テ得ヘシ然ルニ人造
 ニアラサル物品アルカ故ニ此ノ如キ命題ヲ下スト能ハサルナリ此ニ
 由テ之ヲ見ルニ汝カ推斷ノ命題モ亦立セサルヘシト攻ルカ如キヲ義
 准相似過類ト云他語以テ之ヲイハ、甲ハ乙ナリト云カ眞ナラハ又乙
 ハ甲ナリト云テ得ヘシ若シ乙ハ甲ナリト云テ得サレハ亦甲ハ乙
 ナリト云モ否ナルヘシト云攻撃ナリ此ノ如キ攻撃ハ第五過ト同シシ

宗因寬狹ノ規則ヲ心得サルニ原由スル証難ナルカ故ニ亦敵者自己ノ過誤ナリトイハサルヲ得ス

(八)至非至相似過類 此ハ宗ト因トヲ對望シテ一トセシカ異トセシカト攻撃スルニアリ敵者アリ抑モ立者ノ陳ヘタル因ハ宗ノ中ニ至リ宗ト一昧ナルモノトセシカ然ラハ汝カ因ハ即チ宗ト云モノナリ然ラハ刀刀ヲ切ラス手手ヲ執ラサルカ如ク宗ヲ立スヘキ筈ナシ此レニ由テ又因ハ宗ノ中ニ至ラス宗ト異ナルモノトセシカ然ラハ汝カ因ハ宗ヲ立スルヲ能ハサルヘシ何トナレハ宗ト因トハ無關係ナルモノトスルカ故ナリト攻ルカ如キヲ至非至過類ト云斯ノ如キ攻撃ハ本ト宗トイヒ因トイフモノハ凡テ一事物中ニ合藏スル兩事件ニ就キ其一ハ宗トナリ他ノ一ハ因トナルモノナリト云フヲ心得サルニ原由スル証難ナルカ故ニ亦敵者自己ノ過誤ナリトイハサルヘカラス

因明學

史

論

(九)無因相似過類 此ハ宗ト因トノ二者ハ何レカ先キ何レカ後ナル乎トノ攻撃ナリ敵者アリ抑モ汝カ因ハ宗ノ先キヨリ存在スル乎然ラハ未ダ所立ノ宗ナキカ故ニ其因ハ因ニ非ルヘシ例セハ子ナクレハ親ニ非ルカ如シ此ニ由テ又因ハ宗ノ後ニアリトイハシカ然ラハ因ヲ俟タスノ宗ハ已ニ成就セリ何ソ更ニ因ヲ説クヲ煩ハサン之ニ由テ又因ト宗トハ前ナラス後ナラス同時ノ存在ナリトイハシカ然ラハ既ニ同時ナルカ故ニ因ニ由テ宗ヲ立スト云ヘカラス是ヲ以テ汝カ因ハ終ニ因ノ義ヲ打破セリ既ニ因ノ義ヲ打破スルカ故ニ亦其宗ノ立スヘキ筈ナシト攻ルカ如キヲ無因相似過類ト云斯ノ如キ攻撃ハ宗ハ立敵ノ間ニ於テ一許一不許ナルモノナリ而シテ因ノ宗ヲ立スト云ハ立敵共許ナラ令ルニアリト云フヲ考ヘサルニ原由スル証難ナルカ故ニ亦敵者自己ノ過誤ナリトイハサルヲ得ス

因明學

(十) 無說相似過類 此ハ立者發言ノ已前ニ就テ否難ヲ試ミルニアリ敵者アリテ抑モ汝カ論法其因ニ由テ其宗ヲ立ストイハ、發言後ハ姑ク之ヲ許スヘキモ發言前ニ就テ之ヲ論スルニ未タ其因ナキカ故ニ宗モ未タ立セス宗未タ立セサルカ故ニ其時ノ聲ハ常住ナリト云ハサルヘカラスト攻ルカ如キヲ無說相似過類ト云フ斯ノ如キ攻撃ハ真理ハ本來存在セリ而ルニ立者ノ發言ニ由テ之ヲ立スト云ハ恰モ月アレヒ未タ之ヲ見サル者アルカ故ニ此カ爲メ指以テ月ヲ見セ令ルカ如シト云フテ心得サルニ原由スル誣難ナルカ故ニ此亦敵者自己ノ過誤ナリトイハサルヲ得ス

(十一) 無生相似過類 曰ク前ハ發言已前ニ就テノ否難ナリ今ハ發生已前ニ就テ否難ヲ試ミルニアリ即チ先キノ論法ニ就テ說明センカ抑モ內聲ハ其發生スル時方ニ意カニ由テ發ルト云因アリ既ニ此因アルカ

史

故ニ已生ノ聲ハ是レ無常ナリト云ヘクントモ若之ヲ發生前ニ就テ論セハ汝カ陳ヘタル因アルコトナシ既ニ其因ナキカ故ニ未生ノ位ニアル聲ハ常住ナリトイハサルヘカラスト攻ルカ如キヲ無生相似過類ト云フ斯ノ如キ攻撃ハ立者ノ論法ハ已生ノ聲ニアリテ未生ノ聲ニアリサルコト論ナシ凡ソ未生ノ聲ト云ハ聲顯派一家ノ許ストコロニノ他家凡テ之ヲ知ラスト云フテ思ハサルニ原由スル誣難ナリ故ニ亦敵者自己ノ過誤トイハサルヲ得ス

論

(十二) 所作相似過類 此ハ先キノ九句因中第二ノ論法ニ就テ攻撃ヲ試ミルニアリ然ラハ此ハ九句因中第二ノ論法ニ就テ之ヲ說明セサルヘカラスト第二ノ論法ト云ハ勝論派カ聲ハ無常ナリ(宗)所作性ナルカ故ニ(因)ト説クニアリ所作性ト云ハ凡テ因緣力ニ由テ作爲セラレタル性質ノモノト云意味ナリ然ルニ敵者ヨリ此所作ト云語ヲ無理ニ分別シテ

因 明 學

抑モ勝論汝ハ瓦器ノ如キヲ同例トナシ聲ハ因縁力ニ由テ作ス所ナル
 カ故ニ無常ナリト云ントス然ルニ瓦器ヲ作リナス因縁ト聲ヲ發スル
 ノ因縁トハ所作ノ因縁ヲ論スルニ二者大ニ殊別アリテ一ハ外部ニ屬
 スル因縁ナリ一ハ内部ニ屬スル因縁ナリ然ラハ瓦器ノ如キハ泥團繩
 輪等ノ因縁ニ由テ作ス所ナルカ故ニ彼レ無常ナレハトテ内部ノ咽喉
 意志等ノ因縁ニ由テ作ス所ノ聲ヲモ同一無常ナリトハ決斷スヘカラ
 スト攻ルカ如キヲ所作相似過類ト云フ斯ノ如キ攻撃ハ因ハ甲者(宗)ト
 乙者(同喩)トニ貫通スヘキ或ル事件ヲ總該合說スルモノナレハ此カ中
 ニテ事實ノ辨別ハナスヘカラスト云フヲ知ラサルニ原由スル誣難ナ
 リ故ニ亦敵者ノ自誤ト云ハサルヲ得ス

(十三) 生過相似過類 曰ク此ハ喩ヲ證明スルヲナキニ就テ攻撃ヲ試ミ
 ルニアリ敵者アリテ抑モ立者汝カ論法ヲ見ルニ宗ヲ立スルニハ因縁

史

論

ノ證明ヲ要ス因縁證據アルカ故ニ吾宗立セリト誇レトモ汝カ論法ヲ
 見ルニ喩ニ就テハ別ニ其證明ナシ其證明ナキカ故ニ汝カ喩立セス汝
 カ喩既ニ立セサルカ故ニ亦汝カ宗モ立スルヲ能ハサルヘシト攻ルカ
 如キヲ生過相似過類トイフ斯ノ如キ攻撃ハ宗ハ立敵ノ間ニテ一許一
 不許ト定ルカ故ニ同喩ノ證明ヲ要スレトモ喩ハ立敵同許ノ者ニ限ル
 カ故ニ其證明ヲ要セスト云フヲ悟了セサルニ原由スル誣難ナリ故ニ
 亦敵者ノ自誤ト爲サルヲ得ス

(十四) 常住相似過類 此ハ先キノ九句因中無常ノ宗ヲ否難スルニ限リ
 テ之アルヘキ攻撃ナレトモ通常ノ立論ニハ斯ノ如キ攻撃ハアルヘカ
 ラス其難意ハ勝論派汝ハ聲ヲ無常ナリトス然ラハ聲自身ノ上ニ無常
 ト云フ屬性ハ常ニ保存ノ絶ヘサルナラン既ニ聲自己ノ上ニ無常ト云
 丁ノ絶ヘス止マサルトコロハ即チ常住ト云モノニハアラサル乎ト攻

ルカ如キテ常住相似過類ト云斯ノ如キ攻撃ハ本ト立者ノ方ニテ本無
今有暫有還無是レ聲ノ自性ナリト論スルニ敵者ハ聲ヲシテ三世ノ長
途ニ存在セルモノト極メテ此否難ヲナスカ故ニ其難當ラス却テ敵者
ノ自誤トナルナリ

已上十四過類ト云モノハ足目カ先ツ九句因ヲ制定シテ其正不正ヲ判
斷シ第二句ト第八句ニ相當スルモノナレハ正トイハサルヘカラス其
餘ハ不正トイハサルヘカラスト比例法ノ規則ヲ定メ而シテ此際天下殊
ニ聲ノ諍論喧シキカユエ勝論派ノ聲ハ無常ナリト云立論ハ第二第八
ニ相當スル正論ナリ故ニ聲論派ヨリ百方攻撃ヲ試ミルトモ聲論派ハ
益々自家ノ過誤ヲ呈出スルノミ元來正ナルモノヲ摧クコトハ鬼神モ及
ハサルトコロ也ト云フヲ顯示シタルカ此十四過類ナラン尙此詳細ヲ
討子ントスル者ハ因明正理門論十一紙因明瑞源記第八紙四十六下六ヲ見ヨ

此十四過類ハ因明家ノ難解トスル所ナリ殊ニ余ハ最モ簡單ナ
旨トシテ説明スルコトナレハ讀者或ハ了解シ難カラシク恐レル
此ノ如キ九句因ト十四過類トハ印度國因明學ノ起ル濫觴ナリ百家ノ
因明論ハ皆此足目ノ末流ナラサルハナシ故ニ余ハ足目ヲ以テ因明學
ノ元祖ナルモノトス

第二段 釋迦ノ因明論

足目已來釋迦佛ニ至ル迄ノ因明學ハ其系統知ルニ由シナシ故ニ余ハ
足目ニ次キ釋迦佛ノ因明ヲ以テ第二段トナス
而シテ余ハ因明ノ學科ニ就キ此ガ釋迦ノ改正シタルトコロナリ此ガ釋
迦ノ發明セントコロナリト云フヲ未ダ見出シ得サル者ナリ大疏ノ中
ニハ因明論道者唯佛說ト云語モアリ又佛說因明ト云句モ出マリ
之ニ由テ因明ノ學徒ハ之ヲ一問題トナシ終ニ因明學ハ佛ノ始創セシ
モノ、如ク主張スル者アリト雖モ彼等カ因明學ハ佛說ナリトスルノ

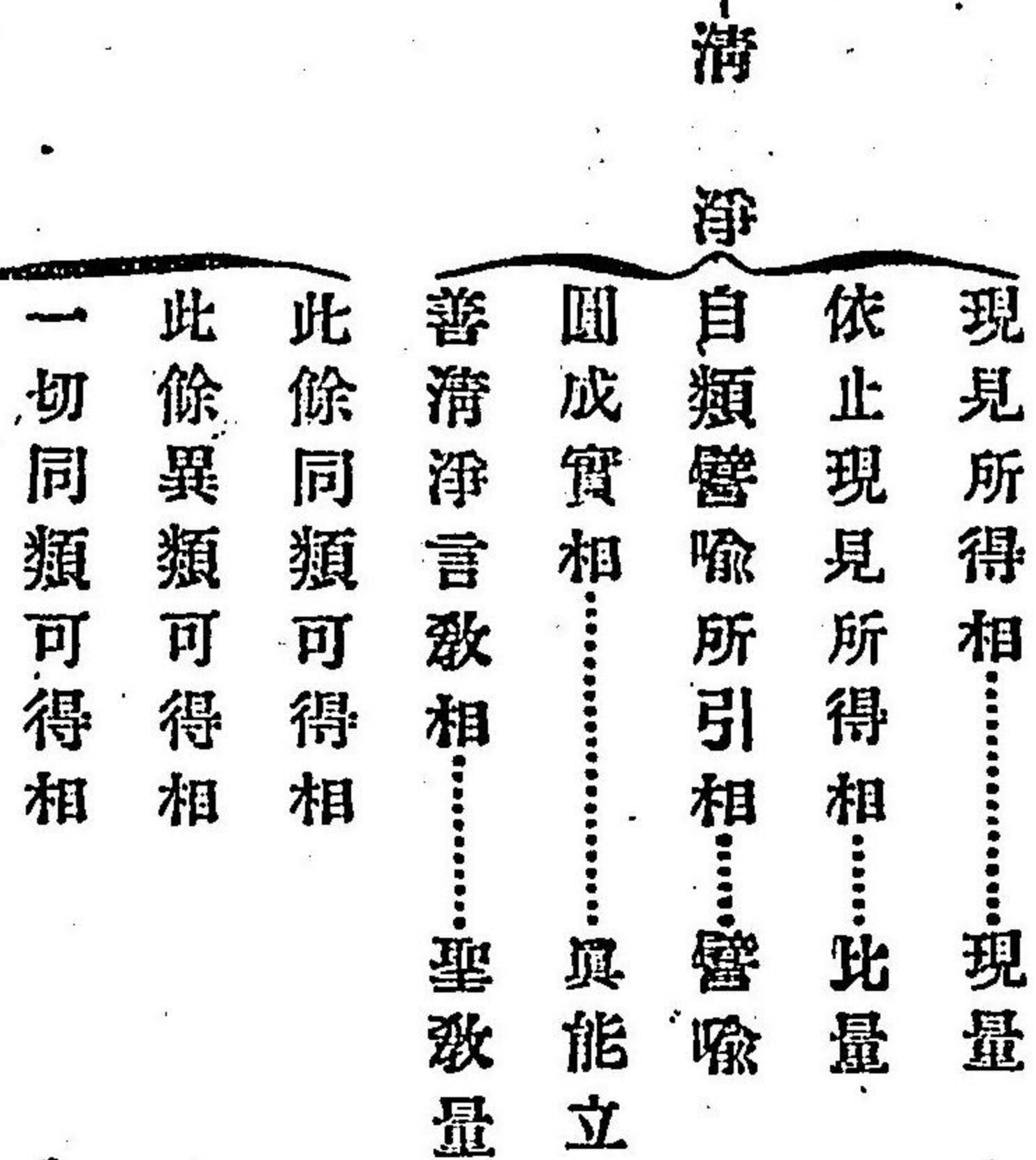
的證ヲ尋シハ只解深密經五紙ニ經文アルノミ豈此經文ヲ以テ佛カ
 因明學ニ改正ヲ加ヘタリトノ證據トナスヘクンヤ既ニ釋迦佛ノ出世
 已前ニ於テ足目ノ因明アルヲ如何カスル乎又陳那ノ正理門論ヲ見ル
 モ主トシテ足目ノ因明論ヲ潤色シ之ヲ敷衍スルノ傾キアルヲ如何カス
 ル乎
 爰ニ尙說ヲ立ル者アリ曰ク因明ハ佛說ナリトハ釋迦佛ヲ指スニアラ
 ス釋迦已前ニ出テタル過去佛ヲ指スモノナリト智周ノ前記余輩ハ此
 說アリト雖モ其論ヤ普通人種ノ耳朶ニハ最モ入り難キ論ナレハ余敢
 テ之ヲ取ラス且ツ夫レ瑜伽論ニハ因明ヲ判定シテ一切外道論ナリト
 スルヲ如何カセン此ニ由テ余輩ハ前論ノ如ク因明ハ足目其端緒ヲ發
 キシヨリ印度國ノ諸學派諸宗教ノ輩ヲ競テ之ヲ研究シ互ニ問答討論
 ノ法則トナシ來レルモノト信ス而シテ釋迦佛ハ既ニ此因明論理法ノ流

行セル中ニ出世シタリ釋迦佛ハ此中ニ出テ、而モ彼レ諸學派諸宗教
 ノ輩ヲ對手トシテ或ハ說法シ或ハ問答スルヲ事トナセリ既ニ然ラハ
 釋迦佛自ラ因明論理法ヲ發明スルヲナキモ又自ラ之ヲ改正スルヲナ
 キモ其說法并ニ問答ヲナスニ於テ豈因明論理法ヲ利用セサルヘケン
 ヤ佛ハ彼輩ニ對シテ說法シ亦彼輩ト共ニ問答スルニハ必ス因明論理
 法ニ依リシモノナラン故ニ慈恩ハ文廣義散備在衆經ト言ヘリ余ヲ以
 テ此言ヲ解セシムレハ左ノ如クイハントス夫レ佛ハ因明學ヲ發明シ
 タルニアラス又之ヲ改正シタルニアラス只佛ハ真理ノ大悟者ナリ宗
 教ノ革命者ナリ佛ハ滿天下皆敵ノ中ニ現ハレ唯我獨尊ト呼ヒ自己ノ
 發明シタル真理ヲ說キテ彼ノ敵黨ヲ盡ク自身ノ麾下ニ從屬セシメ印
 度全國ノ宗教ニ於テ一大革命ヲ與ヘタリ此事ヤ若シ因明學ヨリ之ヲ
 見レハ即チ因明論道ニ於ケル悟他ノ最大運用ナリトイハサルヘカラ

故ニ因明論道ノマハ一代經中至ルトコロニ散在セリト云モ亦敢テ
 過言ニハアラサル乎且ツ夫レ慈恩ノ取ルトコロハ陳那天主ノ因明ナ
 リ而シテ陳那天主ノ因明ハ外道ノ方ニ傳ヘタル因明ニ非ス源ト佛ヨ
 リ彌勒無着世親ト傳ヘ來ル佛敎者ノ方ニ因明ヲ更ニ一層精シクシテ
 ル因明ナリト云ノ意味ニテ源唯佛説ト言フナラン若シ此見解ヲ否ナ
 リトシ因明ノ始創者ハ佛其ノ人ナリト云ノ意味ナリトセバ余ハ慈恩
 ノ言ニ就キ其不當ヲ攻ントスル者ナリ
 孰レニシテモ因明ノ規則ヲ説キタル處ハ解深密經ヨリ外ニナキカエ
 ニ余ハ解深密經ノ説意ヲ略述セン
 本經第五^二紙佛ノ説法ニ契經調伏^戒律^本母^論ノ三類アルトテ陳ヘ其本
 母ノ部類ヲ説明スル中ニ至リテ證誠道理ト云フ出タリ證誠道理ト云
 ハ事ヲ説明スルニ就キ其證據トナルヘキ道理ニ名ケタル語ナリ而ソ

其證誠道理ニ二種ヲ分テリ其一ハ清淨ナルモノ是ナリ其二ハ不清淨
 ナルモノ是ナリ其清淨ト云ハ真正ヲ意味スル語ナリ其不清淨ト云ハ
 不正ヲ意味スル語ナリ其清淨ニ就テ又五種ヲ分テ其不清淨ニ就テ又
 七種ヲ分テリ其表左ノ如シ

證誠道理



不清淨

一切異類可得相

異類譬喩所得相

非圓成實相

非善清淨言教相

經文ハ總テ其語縱容ニシテ其意味深長ナレハ甚々解シ難キモノトス
 今此經說ノ如キ亦其一例ナリ然レトモ余試ミニ之ヲ約言セシカ先ツ
 清淨ノ中ニ五種ト分レタル中第一ニ現見所得相ト云ハ實驗ノ事實ニ
 當レリ之ヲ因明ニテハ現量ト名ク第二ニ依止現見所得相ト云ハ實驗
 ヲ根據トシテ得タル推理ニ當レリ之ヲ因明ニテハ比量ト名ク第三ニ
 自類譬喩所引相ト云ハ其言ノ如ク同喩ナリ第四ニ圓成實相ト云ハ此
 ノ如ク實驗ノ事實并ニ其實驗ニ依テ得タル推理ノ思想ト更ニ其例證
 トナルニ堪ヘタル同喩トテ以テスルトキハ其成立セント欲スル事件

因明學

史

論

カ少シノ缺典モナク圓カニ成立シ得ルトノ意味ナリ之ヲ因明ニテハ
 無過ノ眞能立ト云フ第五ニ善清淨言教相ト云ハ万人ノ信憑スルニ堪
 ヘタル賢聖ノ言語是ナリ凡ソ聖人ノ語ハ亦事ヲ立スルニツキ一ノ證
 據トナルヲ顯ハシタモノ也
 次ニ不清淨ノ中ニ分レタル七種ハ甚々意ヲ得カタシ此ハ第一此餘同
 類可得相ト第四一切異類可得相トテ一組ニ解スヘシ其意ハ今立セ
 ントスル此者ヲ除キ餘ノ者ヲ同品トノ擧タル中ニ於テ若シ異類トノ
 見ルヘキ點ガ少シテモアリタル事ヲ決定スルハ能ハスト云ニアリ
 要言スルニ因同品ノ中ニ宗異品ヲ見ルトガアリテハ其宗立セスト云
 意ナリ又々第二此餘異類可得相ト第三一切同類可得相トテ一組ニシ
 テ解スヘシ其意ハ今立セントスル此者ヲ除キ餘ノ者ヲ異品トノ擧タ
 ル中ニ於テ若シ同品トノ見ルヘキ件カ少シテモアルナレハ事ヲ決定

スルハ能ハスト云エアリ要言スルニ宗異品ノ中ニテ因明同品ヲ見ル
 ガアリテハ其事決定セスト云意ナリ第五ニ異類譬喩所得相ト云ハ前
 ノ四種ハ喩喩ノ方ニ就テ過誤ヲ示シ第五ハ喩依ノ方ニ就テ過誤ヲ示
 ス喩依ニ同品異品アリト雖モ同品ハ正面的能立ナリ異品ハ反面的能
 立ナリ故ニ正面的同喩ノ方ニツキテ論ヲナシ其實異類ナル者ヲ妄リ
 ニ同品トシ譬ヘニ舉ルトアルヲ異類譬喩所引相ト説ケリ然ラハ初ノ
 四種ハ清淨中ノ第一第二ヲ誤リタル似現量似比量ヲ顯ハシ第五ハ清
 淨中ノ第三ヲ誤マリタル似喩ヲ示シタルモノナラン第六ニ非圓成實
 相ト云ハ前ノ圓成實相ニ反對シテ意ヲ得ヘク第七ニ非善清淨言教相
 トアルモ前ノ善清淨言教相ニ反對シテ意ヲ得ヘキナリ此ハ陳那ノ究
 ノ如キ解釋ヲナス然ラスハ
 意ヲ得ルニ由シナキナリ
 已上經文中ニ出タル因明ノ規則ヲ辨明シタリ之ヲ讀ム者ハ佛因明ヲ

説ク何ソ其ノ斯ノ如ク簡單ナル乎ノ感アラシク然リ實ニ簡單極マル
 モノナリ之ニ由テ余益々信ス佛ハ因明ヲ利用シタルニ相違ナシ之ヲ
 利用シタルニ由テ始創者ニハアラス亦改良者ニモアラスト云フテ
 人或ハイハシ支那譯ノ經文ニハ因明ノ詳説ナクレトモ印度ノ原書中
 ニ或ハ佛說因明經ト云如キモノアリシ哉モ測リ難シト余云ク然リ實
 ニ測リカタクナリ然レトモ若シ此アラハ立辨何ソ之ヲ傳ヘ來ラサル
 乎慈恩何ソ此事ヲ聽カサル乎又陳那天主ノ論ニ何ソ之ヲ引カサル乎
 以テ知ヌ佛說因明經ト云カ如キ者モ之ナシト云フテ

第三段 龍樹ノ因明論

釋迦佛ノ後ヲ繼ギ因明法ヲ説キタルモノハ龍樹論師其人ナリトス龍
 樹ハ釋迦佛ヨリ後ル、凡ソ七百年ニ當リテ世ニ出テ、一旦廢レタ
 ル大乘佛教ヲ五印度中ニ復興シタル最大勇將ナリ畢生ノ著書最モ多

因明學

ク世ニ稱シテ千部ノ論主ト仰キ或ハ號シテ八宗ノ祖師ト崇メ奉ル碩
 德ナリ
 而ノ龍樹ノ著書頗ル多キ中ニ方便心論ト云モノ一卷アリ是レ龍樹カ
 釋迦ノ後ヲ繼テ因明ヲ説クトコロ也(釋迦ヨリ龍樹ニ至ルノ時代ニ因
 明ヲ説キタル人亦他ニ之アルヘキナレト支那譯ノ書中ニハ余未ダ見
 當ラス故ニ余ハ龍樹ヲ以テ釋迦ノ次ニ置ク)
 然ルニ余不審ニ堪ヘサルコトハ古今ノ因明家ガ因明學ノ來歴ヲ穿鑿ス
 ルニニツキ源唯佛説ト云フテ喋々辨論スルニモ係ラス未ダ論ノ龍樹
 及ハサルコト是ナリ古今ノ因明家ハ因明學ノ系統ニツキ釋迦ノ後ヲ
 繼キシ者ハ一概ニ彌勒無着ト定メタリ何ソ其見ルコトノ狹且ツ僻ナル
 歟余ヲ以テ之ヲ論スルニ釋迦ヲ因明學ノ利用者タラシメハ龍樹モ
 亦因明學ノ利用者ト爲サ、ルヘカラス若シ釋迦ヲシテ因明學ノ唱導

史

論

者ナラシメハ龍樹モ亦因明學ノ主唱者ト爲サ、ルヘカラス若シ余ノ
 論ヲ否ト云人アラハ請フ龍樹ノ方便心論一卷ヲ披閱セヨ然ラハ論者
 モ亦必ス余ト意見ヲ同スルナラン
 余カ龍樹ヲ以テ因明學ノ系統ニ加フヘキ關係アル人ナリト見付タル
 ハ方便心論ヲ繙クニ由ル故ニ余ハ茲ニ方便心論ノ方隅ヲ示サ、ルヲ
 得サル場合トナシ
 方便心論ト云ハ明造論品、明負處品、辨正論品、相應品ノ四大段ヲ以テ論
 理ノ正不正ヲ説明シ以テ論理法ヲ修ムルコトノ必要ヲ論シタル者ナリ
 其第一明造論品ノ中ヲ見ルニ凡ソ論ヲ立ル者ハ先ツ論式ヲ構造スル
 ニ就キ必要ノ條件八種アリト云フテ明セリ
 第一譬喩 凡ソ議論ニ喩ヲ必要トスル所以ハ敵者ニ自己ノ立義ヲ速
 カニ悟了セシムル効能アルカ故ナリ而シテ其喩ハ立敵二者ノ間ニ會

因明學

テ承諾シ居ル事件ナラサルヘカラスト云テ規則ト説ケリ且ツ其喩ヲ分ツニ同喩異喩ノ二種アリ其二種ノ喩ニ就テ又具足喩ト少分喩ノ二種アリト説ケリ其具足喩ト云ハ完全無過ノ譬喩ニ名ケ其少分喩ト云ハ何乎欠點アリテ喩ノ効力ヲ爲シ難キモノニ名ケテモノ也

第二隨所執 凡ソ議論ヲ發スルハ必ス立敵執ル所ノ主義殊ナルニ由ル故ニ甲乙執ル所ノ主義殊ナルニ隨テ各自之ヲ立セントスルモノ也而シテ其各自ニ執ル所ノ主義ノ中ニ於テ四種ノ知見ニ由ル者ハ真正ナリ四種ノ知見ニ由ラサルモノハ不正ナリトスト説ケリ其四種ノ知見ト云ハ(一)現見ノ事實即チ現量是ナリ(二)比知即チ現見ノ事實ヲ根據トシテ他ノ事件ヲ推續スル思想ノ比量是ナリ(三)譬喩即チ例證是ナリ(四)聖教即チ典籍是ナリ余ヲ以テ見ルニ陳那天主出テ、宗ヲ解シ隨自樂爲所成立性トイヘルハ恐クハ龍樹ノ隨所執ヲ承ズルモノナラン

史

論

第三語善 凡ソ議論ヲナスニハ言語ノ完全ナラノヲ要ス假令其立論ハ真理ニシテ其證據ハ正確ナリトモ之ヲ説明スル言語完全ナラザレハ對手ニ之ヲ悟了セシムルヲ能ハサルモノ也之ニ由テ(一)因ニ増減ノ過ヲ離レサルヘカラスト(二)喩ニ増減ノ過ヲ離レサルヘカラスト(三)全昧ノ上ニ於ケル言語ニ増減ノ過ヲ離レサルヘカラスト説ケリ而シテ其因ノ増減トハ非理ノ因ヲ妄リニ増説スルヲ因ノ増論トナシ又因ノ説明ヲ缺タルモノヲ因ノ減過トナス喩ノ増減ハ之ニ准メ知ルヘシ又全昧ノ上ニ於ケル言語増減ノ過トハ總テノ言語不規則ナルカ爲メニ其言ノ減少ナル者モ其言ノ增多ナル者モ共ニ對手ヲシテ吾カ持論ヲ快ク悟ラ令ルヲ能ハサルモノ是ナリ斯ノ如キ三過ヲ離レタルモノ之ヲ名テ語善ト云ト説ケリ

第四言失 此ハ第三語善ニ反對シテ知ルベシ

第五知因 凡ソ議論ハ言語ヲ要スルト共ニ亦思想ヲ要スル者ナリ而
 ノ其思想ノ要務ハ其因ヲ知ルニアリ故ニ第三第四ニテ言語ノ有過無
 過ヲ判シタル次ニ此知因ヲ出セルモノナラン而ソ凡ソ因ニ二ノ別ア
 リ一ニ生因^〇二ニ了因^〇是レナリ其生因ト云ハ立者ノ方ニ屬シ其了因ト
 云ハ敵者ノ方ニ屬ス^{之因明論ノ中ニ至テ}而ソ其因ノ正不正ヲ知リ分ル
 方法ニ四ツアリトス一ニ現量ニ順スル乎否乎二ニ比量ニ應スル乎否
 乎三ニ正當ノ例證アル乎否乎四ニ其典據アル乎ナキ乎ノ四法是ナリ
 ト説ク^{此四種ハ即チ現量比量譬喩量}斯ノ如キ生因了因并ニ現量等
 ノ四法ハ皆陳那ノ因明論ヲ惹起ス濫觴ナリトイハサルヘカラス
 第六應時語 凡ソ事ヲ説明スルニハ其順序次第ヲ考ル^ト最モ必要ナ
 リトス順序其當ヲ得サランカ説明其効見エ難ク順序正當ナランカ對
 手之ヲ悟了スルニ易々タリ例セハ茲ニ甲乙兩事件ノ説明ヲ要スル^ト

アリトセンカ二者孰レヲ先キニ説明スレハ對手ニ悟了セシメ易キ乎
 ト云^トヲ考ヘタル後ソノ先ニスヘキ事件ハ先ニ論シ其後ニスヘキ事
 件ハ後ニ演ルカ如キモノ是ナリ例セハ明日ハ雨天カ晴天カヲ論セン
 トスルニハ先ツ雨天ノ前日ニハ如何ナル徵効カアルト云^トヲ定メオ
 カサルヘカラサルカ如シ斯ノ如キヲ名ケテ應時語ト云^ト説ケリ
 第七似因 或ハ現量ニ合セス或ハ比量ニ應セス或ハ譬喩ニ乖キ或ハ
 聖教ニ違フ如キ因ヲ凡テ似因ト名クト説ク^リ是レ因ニ似テ因ニ非ス
 ト云意味ナリ
 第八隨語難 若シ第七似因ノ如キ立論ナレハ陳ルトコロノ言語ニ隨^〇
 ヒ種々ノ過難ヲ招キ到底其論ノ立スル^トナシトセリ此ニ就テ八種ノ
 過難ヲ出セリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ八科ノ中前六科ハ能立ニ屬シ見ル
 ヘク後二科ハ能破ニ屬シテ解スヘキ歟

已上ハ余方便心論ノ一隅ヲ揭示シタルモノ也而シテ余茲ニ之ヲ揭示スル意趣他ニアラス龍樹論師ハ因明學ニ關係アル人ナリ因明學ノ系統中ニ加ヘサルヲ得サル人ナリ後代ノ各因明家モ龍樹ヲ承ケタルヲ最モ多シト云フヲ説示センカ爲メナリ既ニ斯ノ如ク因明法ヲ説示スル者ヲ豈其關係ナシト云フヘケンヤ豈之ヲ系統ニ加ルヲ否スヘケンヤ學者其之ヲ思ヘ

第四段 彌勒ノ因明論

彌勒大士ハ釋迦佛ト同代ニ跡ヲ示シ佛説法ノ時ノ對手トナリシ大菩薩ナレトモ佛陀入滅後凡ソ九百年ヲ隔テ、無着論師ノ祈願力ニ感應シ無着一人ヲ對手トシテ説法セリト傳フルモノガ即チ瑜伽論百卷是ナリトス而シテ其瑜伽論第十五卷ニ因明ノ論法ヲ説明ノアルヲナレハ之ヲ説ク年月ノ順序ヲ以テスルニ彌勒ハ龍樹ノ後ヲ繼キタルモノト

爲サ、ルヲ得ス故ニ余之ヲ龍樹ノ次ニ按ス而シテ瑜伽論第十五卷ノ因明段ト云ハ已ニ序論ニ述ヘタル七因明是ナリ其七因明論中ニテ論法ノ組織方ヲ説キタルハ第三論據ノ一段ニアリ故ニ今第三論據ノ一段ヲ略述セントス凡ソ立論ヲ分界スルニ十條ノ分子アリ總テノ論法ハ此十條ノ分子ヨリ成リ立ツモノナリトス其十條トハ所成立ニ二種アリ能成立ニ八種アリ故ニ合スレハ十條トナル其所成立ノ二種トハ立敵相對ノ諍フ所ノ言論ハ是レ能成立ナリ言論以テ相諍フ所ノ事件ノ如キ是レ所成立ナリトス而シテ其所成ニ二種ヲ開キタル所以ハ凡テノ立論ヲ見ルニ物牀ノ在不ヲ諍フモノト又物牀上ノ義理ヲ諍フモノト大ニシテ此二類ニ分ル、モノナリ例セハ獨一神ノ存在不存ヲ論諍スルカ如キハ前者ニ相當スルモノナリ因明ニハ之ヲ體ヲ諍フ立論ト名ク又獨一神ノ

作用ノ如キ其慈愛ノ如キ其威嚴ノ如キヲ論證スルモノハ後者ニ適當
セリ因明ニハ之ヲ義ヲ證フ立論ト名ク而シテ瑜伽論ニハ前者即チ體ノ
方ヲ呼テ自性ト名ク後者即チ義理ノ點ヲ呼テ差別トイヘリ是レ所成
立ニ二種ヲ開ク所以ナリ
次ニ其能成立ニ八種ヲ開ク所以ハ所成立ノ中ニテ體ノ自性義ノ差別
何レノ點ヲ論スルニモ立敵ノ對論ニハ必ス先ツ立者自己ノ懷包スル
意見ヲ敵者ニ向テ告白スルモノナリ之ヲ名テ第一立宗ト説ク既ニ自
己ノ意見即チ宗ヲ告白シタルハ必ス此ニ次テ其理由ヲ辨明セサルヘ
カラス之ヲ名ケテ第二辨因ト説ク既ニ理由即チ因ヲ説クトモ之ヲシ
テ確乎不拔ノ正因ナリト云フヲ知ラシメ初メ告白シタル宗ノ義ヲハ
青天白日ノ如ク對手ニ一點ノ疑霧ナカラシメントスルニハ更ニ一般
ノ既知界事件ヲ舉ク以テ比況推演ノ見セサルヘカラス之ヲ名ケテ第

因 明 學

史

論

三引喩ト説ク蓋シ此既知界ニ需メタル比況即チ喩ヲ分界スルニ類同
的ト異類的ノ二部アリ故ニ總ノ中ヨリ別ヲ開出シテ第四同類第五異
類ト説ク而シテ此ノ如キ因ト此ノ如キ喩ハ論者何ニ由テ知り得タル乎
ト尋ルニ或ハ現見ノ事實即チ直覺的ヨリ得タルアリ之ヲ名ケテ第六
現量ト説ク或ハ直覺セザントモ思想ノ觀察ヨリ得タルアリ之ヲ名ケ
テ第七比量ト説ク或ハ其直覺モナク又觀察モ及ハザントモ確カナル
典籍ガ聖賢ノ書中ニアルヲ見付タルヨリ得ルアリ之ヲ名ケテ第八正
教ト説ク已上ノ八種ハ凡テ先ニ學タル二種ノ所成立ヲ能ク立スルニ
就キ其功能アルカ故ニ瑜伽論ニハ之ヲ能成立ノ八種トナセルモノ也
余ハ茲ニ瑜伽論因明段ノ全部ヲ表シ以テ讀者ガ原書ヲ調ブル爲メノ
便覽ニ供セントス

言論

第一論體

尙論
諍論

毀謗論

順正論

教導論

國王前

執理前

公衆前

賢哲者前

沙門婆羅門前

樂法義者前

自性

第二論處

第三論據

所成立二種

差別

立宗

辨因

引喻

能成立八種

同類此有五種相似

異類此有五種不相似

現量此有種種分別

比量此有五種

正教

善自他宗

言具圓滿

第四段 (彌勒之因明論)

第四論莊嚴無畏

敦肅

應供

捨言

第五論墮負言屈

過言

視察得失

第六論出離視察時衆

視察巧否

善自他宗

第七論多所作法勇猛無畏

辨才無竭

讀者開テ得レハ原書ニ就テ之ヲ正セ瑜伽論第十五卷四紙ヨリ十ニ出タリ余此七段ニ就キ凡テノ大意ヲ略陳スルトハ前ノ序論ノ如シ今ハ七段中ノ第三論據ノ大意ヲ略陳スルモノナリ

第五段 無着ノ因明論

無着論師ハ釋迦佛ヨリ後ル、ト凡ソ九百年ニ當リテ世ニ出テタル人ナリ殊ニ彌勒ヲ信仰シテ大乘佛教弘布ノ爲メニハ前後數多ノ書ヲ著ハセリ中ニ於テ顯揚論第十卷ト維集論第十六卷ニ因明ノ論議法出タリ故ニ無着ハ彌勒ノ後ヲ繼續セシ因明ノ系統者ナルト論ヲ俟タス顯揚雜集ノ二書共ニ瑜伽ノ七因明ヲ傳ヘタルモノナリ殊ニ顯揚論ノ方ハ瑜伽ノ說ト一點ノ異ナルトコロモナケレハ余ハ之ヲ彌勒ノ中ニ屬シ茲ニ贅辨ヲ費サス但茲ニ聊カ辨論ヲ要スルトハ雜集論ノ一方ニアルノミ

雜集論モ瑜伽ト異ナル所ハ八種ノ能立ニアルモノナリ故ニ先ツ雜集
ノ八種能立ト瑜伽ノ八種能立トヲ對表ノ後之ヲ辨論セン

- 第一 立宗
- 第二 立論
- 第三 立喻
- 第四 合(瑜伽作同類)
- 第五 結(瑜伽作異類)
- 第六 現量
- 第七 比量
- 第八 聖教量

圖ノ如ク瑜伽ノ八能立ト雜集ノ八能立ト其殊ナルトコロハ只第四第
五ニアルノミ瑜伽ニハ喻ニ就テ總別ヲ分テ第三引喻ノ總中ヨリ同類

雜集八能立

因 明 學

史

論

異類ヲ別開シテ第四第五ノ數ヲ成セリ雜集ハ同類異類ノ別ヲ見ス總
合シテ之ヲ第三ノ立喻トナシ更ニ合ト結トヲ分立シテ第四第五ノ數
ヲ成セリ無着ガ彌勒ノ上ニ一段ノ改良ヲ試ミタルハ只此合ト結トノ
分立ニアルノミ

而ノ余ガ爰ニ一辨論ヲ試ミントスルモ亦此合ト結トアルモノナリ抑
モ古今ノ因明家口ヲ開ケハ則チ云フ古因明家ハ五分作法ナリ新因明
家ハ三支作法ナリト而シテ其新因明家トハ陳那已後ノ因明ニ名ケ其古
因明家トハ世親已前ニ名ケタルモノナリ此ニ就キ雜集ノ八能立中初
ノ五種ハ即チ通常語ル古因明ノ五分作法ナルモノカ否ヤト云フ是レ
余カ辨論ヲ試ミントスルトコロ也其之ヲ辨論セントスルニハ先ツ五
分作法ノ論式ヲ示シオカサルヘカラス五分作法ノ論式ハ左ノ如シ
第一分宗 今日存在セル人ハ皆死ニ就クベシ

因明學

第二分(因) 曾ア生レタル者ナルカ故
 第三分(喻) 譬ハ故人ノ如シ
 第四分(合) 故人ハ曾ア生レタル者ナルカ故ニ彼皆死セリ今日存在セル人モ曾ア生レタル者ナルカ故ニ亦皆死スヘシ
 第五分(結) 故ニ知ヌ今日存在セル者ハ必ス皆死ニ就クト云フヲ斯ノ如ク組織スルヲ古因明ノ五分作法トス而シテ雜集ノ論法ハ即此五分作法ナル乎如何ト云ニ就キ大疏一紙ヲ見レハ慈恩ハ雜集ノ論法ヲ以テ此五分作法トナス意見ト見エタリ依テ其文ニ合ト結ト雖離因喻非有令所立義重得増明故須別立トイヘリ然ルニ余雜集論ヲ見ルニ彼ニ合トイヒ結ト云ハ前表ノ五分作法ノ如キ合并ニ結ニハアラサルヲ見ル彼ニ合トイヒ結ト云ハ前表ノ立論ニタイハ、左ノ如キモノナリ
 宗 今日存在スル人ハ皆死ニ就クヘシ

史論

因 曾ア生レタル者ナルカ故ニ
 喻 曾ア生レタル者ハ必ス死ニ就クモノナリ譬ハ故人ノ如シ
 合 人生ハ斯ノ如ク死生ヲ免レサル者ナルカ故ニ又皆無常ナルモノナリ
 結 是故ニ死生アル者ハ皆無常ナリ無常ナル者ハ皆死生アリト知レ然ルニ慈恩之ヲ通常ノ五分作法ト見タルハ抑モ誤レルニハアラサル乎或ハ別意趣ノ存スルコト乎又タ古今因明ノ學徒ハ一犬盧ヲ吠ルヲ聽テ實ト傳ルニハアラサル乎是レ余輩カ因明學徒ノ攻究ヲ煩サント欲スルトコロ也若シ余輩ノ見解ヲ不當トスル者アレハ請フ雜集論第十六紙ニ合者爲引所餘此種類義令就此法正說理趣謂由三分成立如前所成義已復爲成立餘此種類所成義故遂引彼義令就此法正說道理是名合結者謂到究竟趣所有正說由此道理極善成就此事決定無異結會究竟

第五段 (無着ノ因明論)

是名結トイヒ同紙十ニ至リテ次説下如是遮破我顛倒已即由此道理常等亦無此言合後説下由此道理是故五蘊皆是無常乃至無我此言是結トイヘル文ヲ見ヨ然ラハ余輩カ見解ノ當否方ニ知ルヲ得ルニ近カラシ

第六段 有人ノ因明論

其何人タルヲ知ルニ由シナケントモ大疏紙十二有説トシテ一類ノ因明説ヲ擧タリ察スルニ此ハ玄奘カ印度ヨリ傳ヘ來ルモノナラン故ニ余之ヲ有人ノ因明トシテ系統ノ一ニ加ヘタリ此説ニ曰ク彌勒無着ノ如キハ八能立トスレトモ論場直接ニ能立ノ効アルモノハ宗ト因ト同喩ト異喩ノ四種言論ニアルノミ其現量ノ如キ其比量ノ如キ其聖教量ノ如キ又其合ノ如キ其結ノ如キハ間接ニ能立ノ効アリト雖モ直接ニ其効ヲ見ル者ニアラス何トナレハ言論ニ掛ラサレハ對手ニ持論ヲ悟ラセシムルノ結果ヲ見ルヲナキカ故ナリ是ヲ以テ直接ノ能立ヲ分界ス

レハ四種ニ過キス曰ク第一宗第二因第三同喩第四異喩是ナリト云説ナリ古今之ヲ四能立家ト呼ビ來ル蓋シ因明論ノ一段改進シタルトコロトイハサルヘカラス

第七段 世親ノ因明論

世親論師ハ無着論師ノ實弟ナリ而シテ其學力其才名其德望前後ニ比類ナク其兄無着ノ聲望ヲモ凌ントスル程ノ勢ヒナリキ其著ハス所ノ書亦頗ル多ク世之ヲ稱シテ千部ノ論主ト云フ且ツ又世親ハ前者ニ殊ナリテ因明論理ノ規則ヲ大成シテ論軌論式論心トイヘル三部ノ書ヲ製作シ大ニ因明學ヲ興起シタル人ナリ然ルニ其書ハ玄奘カ曾テ印度ニ至リシ時之ヲ見タルノミ譯シテ此ニ之ヲ傳ヘサレハ吾人之ヲ見ルニ由シナシ是レ因明學徒ノ大ニ憾ミトスルトコロ也今世親ノ作トシテ世ニ傳ハリ吾人モ見ルヲ得ヘキ因明關係ノ書ト云ハ如實論一卷ア

ルノミ然レトモ如實論ノ書タル本ト因明ノ規則ヲ説明シタルモノニ
 アラス此ハ外道ヨリノ難問ヲ反詰シテ彼ハ無道理ナリ此ハ有道理ナ
 リト云フヲ辨論シタルモノナリ故ニ因明ニ關係アルトハ無論ナレト
 モ因明ノ規則ヲ旨トシ記セル書ニハアラサル也蓋シ大疏ヲ見ルニ世
 親ハ因明法ニ於テ其規則ヲ精密ニシ幾分ノ新機軸ヲ考ヘ出セリト云
 フハ事實ナルモノ、如シ故ニ今大疏ニ依テ世親ノ因明ヲ陳シカ
 世親ハ瑜伽雜集等ニ八能立ト説ケル中其非要ヲ除キ其要ヲ取テ能立
 ノ數ハ唯三ト極メタルモノナリ換言スレハ問答ニ於テ自己ノ意見ヲ
 立スルニ就キ必須缺クヘカラサル言論ハ之ヲ分ツニ只三段アルノミ
 ト定メタリ然ラハ因明ノ論式ヲ三支作法ト極メタル者ハ此世親ナリ
 ト云ヘシ之ヲ世親ノ一大改革ト爲サ、ルヘカラス
 蓋シ世親カ此改革ヲ唱ヘタル意見ヲ討ヌルニ現量ノ如キ比量ノ如キ

正教ノ如キ之ヲ立者ノ方ニテ論セシカ間接ニハ悟他能立ノ効ナキニ
 非レトモ直接ニ悟他能立ノ効ヲナスモノニアラス何トナレハ直接ニ
 悟他ノ作用ヲナスモノハ言語ニ限ルカ故ナリ又之ヲ敵者ノ方ニテ論
 セシカ彼レ敵者ガ自悟スル爲ノ材料トナルノミ少シモ悟他ノ作用ヲ
 ナスモノニアラサルナリ而シテ能立ハ本ト悟他ノ益ヲ見ルトコロニ名
 シ既ニ然ラハ直接ニ悟他ノ効ナキモノ豈奚ソソ言語ト同等ニ能立ノ
 資格ヲ有スルモノトナスヘケンヤ
 又彼ノ合ノ如キ結ノ如キ之ヲ通常五分作法ニ就テ論セシカ合ト云モ
 結ト云モ其性質ヲ調フルニ之ヲ宗因喩ノ外ニ置クヘキモノニアラス
 合トハ抑モ何ヲ合スル乎曰ク同喩ニ擧タル餘物ノ事件ト今論斷セシ
 トスル此物ノ事件ト兩方ノ事件ヲ合同スルニアリ又結トハ何ヲ云乎
 曰ク既ニ兩方ノ事件ヲ合同シ終レハ彼ノ如ク此モ然ナリト決斷スル

因明學

モノ之ヲ名テ結ト云ニアラスヤ既ニ然ラハ因喩ノ外ニ此トテ別ニ事替リテ能立ノ作用ヲナスヘキ性質ノモノ存在セルニアラス故ニ之ヲ能立中宗因喩ノ格外ニアリテ宗因喩ト等シキ頭角ヲ占ムヘキモノトスルヲ得ス又之ヲ前ニ陳ヘタル如キ雜集論ノ合[○]并ニ結トセンカ其ハ間接的ノ傍論トハ云ヘキモ直接的ノ正論ニハアラサルナリ何トナレハ彼ハ甲事件ヲ立シ得レハ亦其甲事件ト密着セル乙事件ニ甲事件ヲ合[○]ノ甲事件ヲ立シ得タル因ミニ乙事件ヲモ立セントスルヲ合[○]結トセルカ故ナリ既ニ斯ノ如キ間接的ノ傍論ナレハ之ヲ能立ノ資格ヲ有スルモノトスルヲ得ス

又彼ノ同類ノ如キ異類ノ如キ表裏正反ノ區別ハアントモ二者能立ノ効ヲ呈スルトコロハ共同致一ナリ何トナレハ二者其効力ヲ論セハ只是レ既知界已顯了ノ事實ヲ以テ未知界未顯了ノ部分ニ及ホシ凡テ丙

史

論

ナルモノハ皆甲ナリトノ推斷ヲ下スニアルカ故ナリ是ヲ以テ之ヲ第三段喩ノ中ニ合併シテ別段トハ爲サ、ル也(已上大疏一紙ノ意ヲ取ル)之ヲ世親ノ因明學改良論トス

五分作法ト三支作法ノ對辨

說ヲ爰ニ來レハ古因明ノ五分作法ト新因明ノ三支作法ヲ對辨スル一ノ必要ヲ感スルニ至ル故ニ先ツ五分作法ノ出處ヲ示シ後之ヲ辨論セン

五分作法ノ出處ハ如實論^二紙^十ナリ其論法左ノ如シ

第一分 聲は無常(宗)

第二分 依因生故(因)

第三分 若有物依因生者是无常譬如瓦器(依因生故無常喩)

第四分 聲亦如是(合)

第五分 是故聲無常(結)

又大疏三七紙瑞源記三六十八紙ニ依ルニ左ノ如ク作ル

第一分 聲は無常(宗)

第二分 所作性故(因)

第三分 譬如瓶等(喩)

第四分 瓶有所作性瓶は無常聲有所作性聲亦無常(合)

第五分 是故得知聲は無常(結)

已上如實論ト大疏トニ出タル五分作法之ヲ一見スレハ其論式異ナルカ如シト雖モ之ヲ再見スレハ兩方一致ナルヲ見ル何トナレハ如實論ハ第三分ノ喩ヲ具陳シテ第四分ノ合ヲ略説シ大疏ハ喩ノ方ヲ略陳シテ合ノ方ヲ具説スルノ異狀ハアレトモ其意義ニ於テハ雙方一致ナルカ故ナリ

因 明 學

史

論

問テ云ク世親ハ論法ニ改革ヲナシテ三支作法ト極メタルニアラスヤ然ルニ如實論ニ五分作法ヲ出セルハ如何
答テ云ク如實論ハ論軌論式論心ヲ未ダ製作セサル已前ニ著ハセル書ニノ世親未ダ論法ノ改良ヲ爲サ、ル時ナルカユエ古來慣用ノ五分作法ヲ出セルモノ歟蓋シ余ノ想像ナルノミ
問テ云ク然ラハ世親改革後ノ三支作法ハ如何
答テ云ク之ヲ知ルニ由ナシ之ヲ知ルニ由ナクントモ如實論前後ニ出タル論法ニ由テ之ヲ見ルニ前ニ出セル如實論ノ五分作法ノ中ニテ第四分第五分ヲ省略セルモノ是レ改革後ノ三支作法ナル歟
問テ云ク然ラハ如實論五分作法ノ中ニテ第四第五分ヲ省略シタルハ即チ之ヲ新因明ノ三支作法ト名クテ然ルヘキ乎
答テ云ク豈夫レ然ラニヤ抑モ新因明ト云ハ陳那已後ノ因明ニ名ク

世親ハ幾分ノ改革ヲ作シタルニ相違ナク、トモ尙是レ古因明ノ中ニ屬ス其古因明ノ中ニ屬スル所以ハ世親ノ論法立敵對論ノ場ニ臨ミ尙不完全不規則ヲ告ルテ多々之アルカ故ナリ漸ク陳那ノ改良ヲ俟テ其規則完全ヲ告ルニ至レリ是ヲ以テ陳那已後ヲ總ノ新因明ト唱ヘ來ルコトナリ請フ次段ノ說明并ニ第三篇ノ講義ヲ俟テ之ヲ知レ

第八段 陳那ノ因明論

陳那論師ハ出世ノ年代明瞭ナラス蓋シ釋迦佛入滅ヨリ凡ソ一千年弱或ハ強ノ時代ニ出タル人ナラン而シテ陳那ハ因明ノ學科ヲ專攻シ其古キヲ温テ其新シキヲ知リタル人ナリ故ニ余ハ足目ヲ以テ古因明ノ鼻祖トナシ陳那ヲ以テ新因明ノ革命主トイハントスル者ナリ抑モ陳那ハ何ノ見ルトコロアリテ此因明學ヲ專攻シテ之ヲ改メ之ヲ興シタル乎曰ク他ナシ當時印度國ノ景況ヲ見ルニ非眞理黨ノ外道或

ハ勝利ヲ得テ眞理ノ月ヲ昏マサントスル事跡アルト共ニ眞理黨ノ佛法或ハ墮負シテ非眞理ノ雲ニ覆ハレントスル情況アリ蓋シ是レ立敵ノ間ニ論議ノ法則未ダ完全セサルカ致ストコロナリ故ニ彼レ外道ノ邪雲ヲ排キ此レ佛法ノ眞月ヲ耀サントスルニハ先ツ論議ノ法則即チ内道外道普通ノ因明學ヲ興シ其不完全ナル點ハ之ヲ革メテ完全ナラシメサルヘカラスト考ヘザリ陳那ハ此考ヘテ懷包シテ銳意熱心專ラ此學ヲ攷究シ其足ラサル所ハ之ヲ補ナヒ其正シカラサル所ハ之ヲ改メテ改革遂ニ其功ヲ果シ得タリ（已上六疏一故ニ世之ヲ新因明ノ開祖ト尊稱スルニ至ル然ラハ陳那ハ破邪顯正ハ爲メニ此學ヲ攷究シ此學ヲ改革シタルモノナリ而シテ陳那ノ著書四十餘部ニ及フト唯モ譯成リテ此ニ傳ハルモノハ因明正理門論ノ小冊一卷アルノミ陳那ノ所造四十餘部（四紙）其中最要 既ニ然ラハ陳那ハ因明論理法ニ於テ如何ナル改革

ヲ爲シタル乎曰ク余ハ姑ク六條ノ改革ヲ示サン

第一 能立ト所立ノ分界

能立所立ノ分界ニ就キ舊因明家ハ宗因喩ハ凡テ能立ニ屬スルモノナ
リ其所立ニ屬スルモノハ宗ノ言ニテ顯示スルトコロノ事件ニ限ルモ
ノトノ考ヘテ懷ケリ即チ瑜伽論雜集論ニ宗ヲモ能成立ノ中ニ屬シ其
所成立ハ万有ノ自性體ト差別理ニアリト極メタルカ如キ是ナリ陳那
之ヲ正ソ云ク能立ハ立敵同許ノ事件ナラサルヘカラス然ルニ宗ハ立
敵同許ノ事件ニアラス立ノ一方ハ之ヲ許シ敵ノ一方ハ之ヲ許サ、ル
事件ナリ豈此ノ如キ一許一不許ノ事件ヲ以テ能立トナスヘケンヤ此
ハ敵者ニ對シ後ノ因喩ヲ以テ立セントスル所ノ目的物ナルカ故ニ所
立ニ屬ストイハサルヘカラス此ニ由テ宗因喩ノ中其宗ハ是レ所立ニ
屬スヘク能立ハ只因喩ノ二段ニ限レリト世親ノ三分能立ヲハ更ニ一

因 明 學

史

論

段狭メテ因喩ノ二段ノミ是レ能立ナリト論定シタルヲ陳那改革ノ第
一點ナリトス之ニ就テ余ノ意見アレトモ今ハ慈恩ノ意見ニ任ス大疏一(十一)紙ヲ見ヨ

第二 宗牀宗依ノ辨別

宗ト云ハ甲は乙なり或ハ非乙なりト云ニアレハ前後二種ノ名辭ニ依
テ組織スルモノニ其性質ヤ立敵相諍フヘキモノナリ此ニ就キ立敵
ノ相諍フ論點ハ前名辭ノ方ニアル乎後名辭ノ方ニアル乎ト推スニ舊
因明ノ中或ハ前名辭ノ方ニアリトスルアリ或ハ後名辭ノ方ニアリト
スルアリ或ハ前後兩方ニアリトスルアリテ未タ一定セス爰ニ陳那之
ヲ正ソ云ク夫レ宗トハ立敵ノ相諍フヘキ性質ニ名ク而シテ宗ノ二名辭
ヲ分析シテ見ルニ前者モ相諍フヘキモノニアラス後者モ相諍フヘキ
モノニアラス其相諍フトコロハ前名辭ニ後名辭ヲ加ヘテ然ルヘキ乎
否乎ト云點ニアリ換言スレハ立敵ノ論諍ハ前後ノ二名辭ヲ合シテハ

因

明

學

しトカなりトカであるトカ云如キ接續詞ヲ加ヘテ然ルヘキ乎將タ否
 乎ト云トコロニアリ故ニ前後ノ二名辭ハ宗依トハ云ヘク宗依トハ云
 ヘカラス宗ノ本體ハ只是レ接續詞ヲ以テ前後兩名辭ヲ合セタル二者
 不相離ノ點ニアリト極メタルハ陳那改良ノ第二點ナリトス大疏一三十三紙
 見余ハ宗依ノ語ヲ改メテ別宗ト名ケ宗依ノ語ヲ改メテ總宗トイハ
 トス請フ第三篇ニ至テ知レ

第三 因ニ就テ三相ノ發明

因ト云ハ甲は乙なり或ハ非乙なりト云フテ得ヘキ理由ニ相違ナシ蓋
 シ其理由即チ因ナルモノハ之ヲ宗ニ望メ或ハ同喩並ニ異喩ニ望メテ
 如何ナル關係ヲ有スル乎ト尋ルニ舊因明家ハ未タ其研究充分ナラス
 爰ニ陳那出テ、因ノ三相ト云フテ考ヘタリ因ノ三相ト云ハ要スルニ
 因ヲ宗ニ望メタル關係ト又因ヲ同喩ニ望メタル關係ト又因ヲ異喩ニ

史

論

望メタル關係ハ三大關係論ニアルモノ也此三大關係論ハ陳那ノ考按
 中ニテモ最大價直アル考按ナリ凡ソ論法ノ正不ヲ見分ル方法モ一ニ
 此三相ノ規則ヲ制定スルニ由ル故ニ陳那三相ノ發明ハ因明學ニ於テ
 其効偉大ナルモノトイハサルヘカラス故ニ余ハ之ヲ陳那改革ノ第三
 點ナリトス請フ第三篇ニ移リテ陳那ノ三相論ハ其價直偉大ナリト云
 フテ知レ大疏二六六紙

第四 喩依喩體ノ辨別

喩ト云ハ因ノ能ク宗ヲ立スルニ堪ヘタルヲ證明スルノ比例ナルヲ
 論ナシ然レトモ其喩ニ就キ何々ノ如シト指示スル事物全體ヲ取テ喩
 トスル乎又其指示シタル事物中ニ合藏セル幾分ノ條件ヲ取テ喩トス
 ル乎又其幾分ノ條件ヲ取テ事物全體ヲ取ルニハアラストスルモ如何
 ナル所以アリテ此ガ喩ト成リ能立ノ効能ヲ呈スヘキ乎ト云疑問アリ

因 明 學

然ルニ舊因明家ハ未タ之ヲ研究セス只何々の如しト云モノ是レ喻ナ
 リトノ漠然論ニ過キサルナリ爰ニ陳那出テ、之ヲ研究シ言ノ三^〇支^〇義^〇
 ノ三^〇相^〇ト云フヲ考ヘタリ言ハ、三支ト云ハ言語ハ表面ヲ論スルニア
 リ、言語ノ表面ヲ論スレハ、喻ト云モノハ只何々の如しト指示シタル事
 物全躰ニ名クタルモノ、如シト雖モ言ノ三支ニハ義ノ三相ヲ具足セ
 サルヘカラス義ノ三相ヲ缺タル言ノ三支ナレハ其因モ真ノ因ニアラ
 ス其喻モ真ノ喻ニアラスト云ガ陳那ノ主唱スル因ノ三相論ナリ而シテ
 義ノ三相ト云ハ言語ノ裏面ニ見ヘタル意味ヲ論スルニアリ言語ノ裏
 面ニ回ハリテ意味ヲ論スルトキハ指示シタル事物全躰ヲ取ルニアラ
 ス其事物中ニハ宗ノ後名辭ニ呼フ事件ト又タ因ニ陳ヘタル事件トノ
 兩事件ヲ含藏シ而モ因ノ事件ニハ宗後名辭ノ事件ガ必ス就テ離レサ
 ルトコロ是レ能立ノ効ヲ奏スル喻ノ本躰ナルモノナリ何々の如しト

史

指示シタル事物ハ只喻ノ所依ヲ知ラ令ルニアリト論シダリ斯ノ如ク
 喻依喻躰ノ辨別ヲ試ミタルハ陳那改革ノ第四點ナリトイハサルヘカ
 ラス余ハ喻依ノ語ヲ改メテ事^〇喻^〇ト名ク、喻躰ノ語ヲ換ヘテ理^〇喻^〇トイハ
 シトスル者ナリ請フ詳細ハ第三篇ニ入テ知レ大疏三(三紙) 已下ヲ見

第五 缺過支過ノ改革

凡ソ論法ノ過誤ニ就テ缺過ト支過ノ別アリ其缺過ヲ論スルニ就キ舊
 因明家ハ或ハ宗ノ言缺クテナク或ハ因ノ言缺クテナク或ハ喻ノ言缺
 クテナシト云カ如キ言語ニ缺少アルモノヲ呼テ缺過ト名クタリ陳那
 之ヲ改テ云ク既ニ陳フヘキ言語ノ缺テ無キモノハ是其過ナルヲ明著
 ナレハ敢テ之ヲ論スルノ必要ナシト云意ニテ陳那ハ之ヲ省キテ論セ
 ス陳那ハ只因ノ三相ニ就テ具缺ヲ論シタリ曰ク三相完全センカ然ラ
 ハ無過ノ真能立ナリ三相一分モ缺少センカ然ラハ有過ノ論法ニシテ能

論

立ノ効アルコトナシト義ノ三相ニ就テ缺過ヲ論スルコトニ改メタリ又支過ト云ハ宗因論ノ三支ニ過誤アルヲ云フ而シテ其支過ヲ數ルコト舊因明諸家ノ異說紛紜トシテ未ダ一定セサルヲ陳那出テ、宗ニハ總計五過アリ因ニハ合計十四過アリ論ニハ總計十過アリ都合二十九過ノ數ヲ成スルコトニ決定シタリ之ヲ陳那改革ノ第五點トナス請フ第三篇ニ移リテ之ヲ知レ

第六 聖教量ノ廢止

解深密經瑜伽論雜集論ヲ始メ凡テ舊因明家ハ聖教量ト云モノヲ現量比量ト同等ニ論シ來レリ爰ニ陳那出テ、聖教量ト云フテ現量比量ノ中ニ合入シテ之ヲ別立スルコトヲ廢セリ其陳那カ之ヲ廢シタル意趣他ニアラス凡ソ議論ト云モノハ多ク異學異宗異派ノ間タニ起ルモノナリ而シテ甲宗派ノ聖教ヲ以テ乙宗派ニ對スル時ノ證據トセンカ乙ハ之

因明學

史

ヲ肯ハサルナリ又乙宗派ヨリ甲宗派ニ對スル時ノ證據ニ乙宗派ノ聖教ヲ用ヒシカ甲ハ之ヲ證據ト見サルナリ斯ノ如ク異宗異派ノ對論ニアリテハ聖教ハ寸効モ之ナキカエニ陳那ハ之ヲ止メテ現量比量ノ二種ノミ立論ノ證據トナスヘク又材料トナスヘシト極メタリ之ヲ陳那改革ノ第六件トナス大疏六(九)紙
已下ヲ見ヨ

第七 現量ト比量ヲ立具トスルノ改革

瑜伽論雜集論等ハ現量并ニ比量ヲ以テ宗因論ト同等ニ能立ノ資格アルモノ、如ク説ケリ陳那ハ之ヲ改メテ彼ハ發論ニ就キ必須缺クヘカヲサル材料ニ相違ハナケントモ直接ニ悟他ノ効能ナキカ故ニ此ハ立具發論ノトハ云ヘク能立トハ云ヘカラスト改メタリ故ニ余ハ之ヲ陳那改革ノ第七件トナス大疏一(十八)紙ヲ見ヨ

已上ハ陳那出テ、舊因明ヲ改革シタル要點ヲ示スモノナリ其改革シ

論

タル新因明ノ論式ニ至リテハ余カ第三篇ノ講述ヲ見ヨ

第九段 天主ノ因明論

天主論師ハ陳那論師ノ門弟ナリ陳那ニ就テ因明學ノ秘奧ヲ窮メ得タル俊傑ナリ故ニ陳那ノ因明正理門論ノ解シ難キヲ傷ミ後學ニ彼ヲ易ク了解セシムル階梯ニ供センカ爲メ更ニ因明入正理論一卷ヲ著ハセリ譯成リテ世ニ流行スル丁今尙盛ナリ嗚呼因明學ノ書其數多シト雖モ印度ヨリ支那日本ニ渡リテ今尙學者ノ坐右ヲ離サ、ルモノ幾部アル乎唯是因明入正理論一卷アルノミ以テ知ヌ其原書ノ頗ル傑作ナルヲテ

入正理論ノ製作既ニ斯ノ如キ事情アレハ天主ノ因明ハ陳那ノ上ニ一步モ改進セル丁之ナキ乎ト討ヌルニ否然ラス天主ノ上ニ來リテ亦幾分ノ改進アルヲ見ル中ニ於テ最モ著ルシキモノハ宗依宗躰ノ辨別是

因 明 學

ナリ

宗依宗躰ノ辨別ハ前段ニ陳ル如ク陳那既ニ其端緒ヲ發ケリ陳那既ニ其端緒ヲ發キタレトモ陳那ハ尙曖昧模糊ノ中ニ其意ヲ含メルノミ未ダ天主ノ如キ明々白々ノ説明ハナサ、ルナリ爰ニ天主出テ、割然タル判斷ヲ此カ上ニ下シテ曰ク宗依ハ極成シ宗躰ハ不極成ナルハ宗ヲ組織スルノ規則ナリト余更ニ之ヲ重言センカ宗ノ前名辭ト後名辭トハ立敵同許ノモノナラサルヘカラス若シ前名辭ガ同許ナラストセンカ然ラハ是レ所別不極成ノ過誤アル宗ナリ若シ後名辭ガ同許ナラストセンカ然ラハ是レ能別不極成ノ過誤アル宗ナリ若シ前名辭後名辭共ニ同許ナラストセンカ然ラハ俱不極成ノ過誤アル宗ナリ故ニ宗ヲ組織スルタメニ依憑トナル甲乙ノ兩名辭ハ立敵同許ナラサルヘカラスト云テ規則トナセリ此ヲ入正理論ニ極成有法極成能別ト言ヘリ

史 論

因明學

前後ノ二名辭ヲ分析シタル宗依ハ然ナリト雖モ接辭ヲ以テ之ヲ合併シタル宗躰ハ此ニ反對シテ立敵不同許ノモノナラサルヘカラス若シ二名辭相依リ相離ンサル宗躰ヲモ立敵同許ナリトセンカ然ラハ相符合成ノ過誤アル宗ナリ故ニ組織シ得タル宗躰即チ因喩ヲ以テ立セんとスル目的物ハ立敵ノ間ニ於テ一許一不許ナラサルヘカラスト云テ規則トナセリ此ヲ入正理論ニハ差別性故ト言ヘリ

如此裏面ヨリハ陳那ガ宗ノ過誤ニ五種アリト定メタル上ニ更ニ所別不極成能別不極成俱不極成相符極成ノ四過アルヲ考ヘ出シ又表面ヨリハ宗依ハ立敵同許ヲ要シ宗躰ハ一許一不許ヲ要スト云テ明言シタルモノハ假令其淵源ヲ陳那ニ汲ミタルニセヨ發表ノ効ハ偏ヘニ天主ニアリトイハサルヘカラス

且ツ夫レ論法ニハ自比量他比量共比量トイヘル三類ノ差別アルヲ

史

論

能ク窮メ得テ因明ノ論式ヲ説明シ自悟ト悟他ノ水際ヲ一步モ誤マルヲノナキ様ニ筆ヲ立テタルハ天主論師ノ長處ナリト讚スルニ餘リアルトコロ也請フ第三篇ニ至リテ是等ノ趣キヲ知レ

第十段 三國ノ傳來

余因明學ヲ歴史的ニ攷究スルニ就キ最モ遺憾トスヘキトハ最初足目カ因明學ヲ創立セシヨリ世親陳那ニ至ルマテノ時代ニ於ケル印度國ノ諸學派諸宗教中ニテ繼續傳承ノ模様ハ如何異端分出ノ模様ハ如何ト云フヲ知ルニ由シナキト是ナリ慈恩ハ玄奘ノ口授ニ依リ大疏ノ中ニ古因明ノ説ヲ標スルヲ頗ル多ク又淄洲ノ語ニ西方内道外道一百餘部皆申立破之義總稱因明此通佛未出世之前始從足目等總而論之百餘家也瑞源記一紙一舉之トアルヲ以テ見ルニ佛教外ノ諸學派各宗教ニモ諍フテ之ヲ學修セルト共ニ又競テ異説ヲ惹起シタルニ相違ナキナ

リ然レトモ今此ニ其書ヲ傳ヘサレハ余之ヲ吟味スルニ由シナキナリ
之ニ由テ余ハ只足目ヨリ天主論師ニ至ル迄僅カニ九師ノ系統ヲ擧ゲ
ルノミ蓋シ現存ノ書中ニテ知ルコトヲ得ヘキ限リハ余之ヲ掲ケタル心
得ナリ

既ニ印度ニ於ケル系統ハ此ヨリ外ハ知ルニ由シナケレハ余ハ是ヨリ
シテ此因明學ヲ印度ヨリ支那ニ傳ヘ支那ヨリ又日本ニ傳ヘタル來歴
ヲ陳ヘントス此ニ就キ先ツ印度ノ情況因明學ノ改革的進歩ハ天主ニ
テ止メタルモノ、如シ天主已後ハ守舊的ニ只之ヲ學ヒ之ヲ傳ルト云
ノ情況ナリト見エタリ且ツ印度文學ノ日光地ニ落サル間ハ因明亦世
ニ光輝ヲ止メ印度文學ノ日光地ニ没スルニ隨ヒ因明亦世ニ光輝ヲ失
ヒシコトハ疑フヘカラス

爰ニ支那國ノ僧玄奘論師アリテ唐朝ノ貞觀三年(當明治廿四年ヨリ一

因 明 學

史

千五百六十二年前)ニ支那ヲ發シ印度ニ至リテ留學スルコト凡ソ十七箇
年ナリ此時ニ際シ北印度ノ境ニハ僧伽耶舍譯ノ衆稱ト云フトイヘル碩學ア
リ中印度ノ境ニハ尸羅跋陀羅譯ノ戒ト云フトイル大德アリ勝軍論師トイヘ
ル豪傑アリ孰レモ皆佛教徒ノ中ニテ鏘々ノ聞エアル鴻學碩德ナルト
共ニ亦因明學ノ達者ナリ玄奘ハ其所ニ至リテ佛教ヲ研究スルト共ニ
亦因明學ヲ修メ博ク且ツ之ヲ窮メ得タリ

玄奘ハ已ニ其學成リ其業卒ヘタレハ唐朝ノ貞觀十九年正月ニ當リテ
本國ニ歸ル時ニ齋ヲシ來ル梵本ノ經論其數六百五十七部ト云々歸唐
後ハ朝命ヲ奉シテ新々ニ譯場ヲ開キ梵本ヲ支那譯スルコト其數多シ
目下傳ハルトコロノ因明部ハ皆此時ニ齋シ來リテ譯セシモノナリ而
シテ翻譯ノ外尙口授ヲ以テ印度ニ於ケル古今因明學ノ概況ヲ高弟ノ慈
恩大師實名ハ窺基ニ傳ヘタリ慈恩ハ天主ノ因明入正理論ニ就キ六卷ノ註

論

解ヲ書キ且ツ傍ラ玄辨ノ口授ニ基ツキ因明學ニ關係アル全般ノ事ヲ
モ記録シ題シテ之ヲ因明入正理論疏トイフ後世之ヲ目シテ因明大疏
ト稱スルニ至ル蓋シ因明學ノ全般ヲ包含シ得タリトノ嘆稱ナルモノ
ナリ

慈恩ト同時代ニハ淨眼神泰文備靖邁文軌等ノ學者輩出シテ各々書ヲ
著ハシ之ヲ弘ムト雖モ未ダ慈恩ノ右ニ出ツル者ハ之ナシ而シテ其慈恩
ノ後ヲ繼ク者ハ惠沼其人ナリ惠沼ハ義斷三卷纂要三卷ヲ著ハシテ慈
恩ノ註解ト他師ノ解釋トニ就キ其正不ヲ判斷スルヲ務メタリ而シ
惠沼ノ後ヲ繼キタル者ハ智周其人ナリ智周ハ前記三卷後記二卷ヲ著
ハシ大疏ノ文句義理ヲ解釋スルヲ務メタリ而シテ其智周ノ後ヲ繼テ
起ル者ニ道邑道嗽太賢清幹等アリ一一之ヲ枚擧スヘカラス支那國ニ
於ケル因明學ノ來歴ハ粗々斯ノ如シ

因 明 學

史

論

爰ニ日本國ノ僧道昭法師アリ孝徳天皇ノ白雉四年(當明治廿四年)ヨリ
一千二百三十八年前)ニ日本ヲ去テ支那國ニ入り留學スルヲ前後三年
ヲ經ル時ニ玄辨飯唐シ佛教ノ翻譯ハ日ヲ進テ隆ニ四海ノ學徒ハ風
ニ望ンテ皈スルノ際ナンハ道昭亦玄辨ノ門ニ入りテ佛教ヲ學フト共
ニ亦此因明學ヲ修メタリ道昭ハ已ニシテ學成リ方ニ歸朝スルノ始メ
大和國奈良ノ元興寺ニ於テ傳へ來ル佛教ヲ弘ムルト共ニ亦此ノ因明
學ヲ時ノ學徒ニ授ケタリ後之ヲ南寺ノ傳ト云フ

又日本國ノ僧玄昉僧正アリ元正天皇ノ靈龜二年(當明治廿四年)ヲ去ル
ト一千百七十六年道昭ヨリ後ル、ト六十一年ナリ)ニ本國ヲ去テ支那
ニ至リ智周ノ門ニ入りテ佛教ヲ學フト共ニ亦此因明學ヲ修メタリ玄
昉ハ學成リテ歸朝スルノ後大和國奈良ノ興福寺ニ於テ傳へ來ル佛教
ヲ講スルト共ニ亦此因明學ヲ時ノ學徒ニ授ケタリ後之ヲ北寺ノ傳ト

因明學史

云フ
 爾來南寺ノ傳ニ於テモ碩學ノ高僧陸續トノ輩出シ北寺ノ傳ニ於テモ
 鴻學ノ名僧連綿トノ續起シ當時因明學ノ攷究實ニ善ヲ盡シ美ヲ窮メ
 シトスル勢ナリキ中ニ於テ最モ後代ニ信用ヲ博シタル者ハ明詮善珠
 眞興源信藏俊ノ如キ是ナリ明詮ニハ裏書六卷ノ著書アリ善珠ニハ明
 燈鈔十二卷ノ著書アリ眞興ニハ四相違私記四卷ノ著書アリ源信ニハ
 四相違註釋三卷ノ著書アリ藏俊ニハ大疏鈔四十一卷ノ著書アリ尙此
 外因明ノ學匠并ニ因明ノ著書若干アルヲ知ラス瑞源記卷末ニ列子タ
 ル因明書ノ目錄ヲ見ルニ扶桑撰述ノ部ニ出ツルモノ合計八十四部ア
 リ亦以テ當時因明學ノ熾ナルヲ想フニ足ル
 因明學ノ三國ニ傳來スルヲ如此然ルニ今日ヲ以テ之ヲ論スレハ印度
 ハ因明學ノ本國ナリト雖モ今ヤ已ニ其跡ヲ止メサルヘシ支那モ亦今

史

論

ヤ其跡ナキカ如クナルヘシ然ラハ因明學ノ尙存在スル處ハ五大洲中
 獨リ日本帝國ニ限ルモノ歟然リ而シテ日本國ノ因明亦タ當時ノ隆盛ナ
 ルニモ似ス中古佛教徒ノ學問ニ退歩ノ傾キアルト共ニ亦此因明學ニ
 退歩ノ傾キアルヲ見ル然リ中古已來因明ノ學科大ニ退歩ストイヘト
 モ近頃理論的學問ノ世ニ行ハル、影響ナル乎一旦廢レタル因明學ノ
 復タ將ニ興ントスル景况アルヲ見ル殊ニ方今ハ之ヲ佛教徒ノ專有品
 トナサス普通ノ人種ニシテ凡ソ學理ニ心ヲ傾ケル者ハ一般ニ之ヲ學
 ハントスル情况アルヲ觀ル嗚呼天未タ此文ヲ亡サ、ルトコロナル歟
 第十一 段 結論
 余ハ太古ノ因明學ヨリ現今ノ因明學ニ至ルマテ歴史的ニ講述スル
 一方ニ終レリ今ヤ三條ノ辨論以テ此ガ結論ニ供セントス何事カ是ヤ
 曰ク

(一) 佛、陀、ハ、何、故、ニ、因、明、ノ、規、則、ヲ、完、全、無、缺、ト、爲、サ、ル、乎、ト、云、フ、是、ナ、リ、上、陳、ノ、如、ク、歴、史、的、ニ、之、ヲ、考、ル、ニ、因、明、學、ノ、長、者、ハ、足、目、世、親、陳、那、天、主、ノ、四、大、論、師、ニ、ア、リ、ト、イ、ハ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、佛、陀、ハ、因、明、ノ、規、則、ヲ、說、カ、サ、ル、ニ、ア、ラ、テ、ト、モ、一、向、ニ、之、ヲ、見、ル、ト、冷、淡、ナ、ル、カ、如、ク、之、ヲ、說、ク、ト、甚、ダ、粗、忽、ナ、ル、カ、如、キ、觀、ア、リ、此、ニ、就、キ、抑、モ、佛、陀、ハ、一、切、智、人、ナ、ラ、ス、ヤ、萬、事、ニ、通、曉、シ、マ、ル、達、者、ナ、ラ、ス、ヤ、既、ニ、然、ラ、ハ、何、故、ニ、陳、那、ノ、如、ク、因、明、ヲ、精、密、ニ、攷、究、シ、テ、問、答、ノ、標、準、ヲ、完、全、無、缺、ト、ナ、サ、ル、乎、ト、云、疑、問、ア、リ、

余、之、ヲ、辦、明、ソ、曰、ク、佛、陀、ハ、一、切、智、人、ナ、ル、カ、故、ニ、因、明、ヲ、見、ル、ト、冷、淡、ナ、ル、カ、如、ク、敢、テ、因、明、ノ、論、式、ニ、ハ、拘、泥、セ、サ、ル、ナ、リ、若、シ、佛、陀、ヲ、シ、テ、通、常、ノ、論、客、ト、同、等、ナ、ル、者、ト、セ、ン、カ、然、ラ、ハ、自、己、ノ、主、義、ヲ、擴、張、セ、ン、カ、爲、メ、ニ、ハ、先、ツ、此、因、明、論、理、ノ、問、答、法、ニ、心、ヲ、傾、ケ、テ、之、ヲ、調、ベ、之、ヲ、究、ム、ヘ、キ、筈、ナ、リ、爾、ラ、ス、ハ、豈、奚、ソ、ソ、滿、天、下、ノ、敵、黨、ヲ、シ、テ、彼、等、其、旗、ヲ、卷、キ、彼、等、其、鼓、ヲ、治、メ、

甲、ヲ、脱、シ、テ、佛、陀、ノ、麾、下、ニ、屈、伏、セ、シ、ム、ル、ト、得、ン、然、ル、ニ、佛、陀、ハ、一、切、智、人、ナ、リ、當、時、五、印、度、中、ニ、充、滿、セ、ル、諸、學、派、諸、宗、教、ノ、論、客、中、ニ、超、然、卓、然、會、テ、其、比、ヲ、見、サ、ル、大、悟、者、ナ、リ、故、ニ、之、ニ、遇、フ、者、ハ、論、セ、ン、ト、シ、テ、論、ノ、唇、ヲ、開、ク、ト、能、ハ、ス、之、ニ、謁、ス、ル、モ、ノ、ハ、鬪、ハ、ン、ト、ノ、鬪、フ、ト、能、ハ、ス、ト、云、フ、風、情、ナ、リ、之、ヲ、例、ル、ニ、大、將、優、ル、レ、ハ、兵、器、ヲ、用、ヒ、ス、シ、テ、敵、或、ハ、走、リ、或、ハ、降、ル、カ、如、キ、情、况、ナ、リ、豈、ニ、奚、ソ、ソ、後、學、輩、カ、外、道、ノ、論、客、ト、問、答、往、復、ス、ル、カ、如、キ、モ、ノ、ナ、ラ、ン、ヤ、是、ヲ、以、テ、知、ヌ、佛、陀、ハ、後、代、ノ、世、親、陳、那、等、ノ、如、ク、因、明、ニ、心、ヲ、用、ヒ、サ、ル、ト、テ、蓋、シ、佛、陀、ハ、因、明、ニ、深、ク、心、ヲ、用、ヒ、サ、レ、ト、モ、少、シ、モ、之、ヲ、利、用、ス、ル、ト、ナ、シ、ト、云、ニ、ハ、ア、ラ、サ、ル、也、然、ル、ニ、世、移、リ、時、下、ル、ニ、隨、ヒ、テ、外、道、輩、ノ、猖、獗、ハ、日、テ、追、テ、益、々、逞、マ、シ、ク、佛、教、徒、ノ、威、光、ハ、月、ヲ、重、テ、愈、々、衰、ヘ、來、ル、爰、ニ、於、テ、彼、此、對、論、ニ、就、キ、益、々、必、要、ヲ、感、シ、來、ル、ハ、此、因、明、學、ナ、リ、故、ニ、世、親、陳、那、ノ、時、代、ニ、於、テ、因、明、ヲ、穿、鑿、ス、ル、ト、ノ、深、キ、ニ、至、リ、シ、モ、

ノ也
 (二) 今日ノ因明學ハ歴史上ノ關係ヲ以テ見ルニ即チ佛教ナリト云フ是
 ナリ上陳ノ如ク因明ノ創立者ハ足目ニアリテ釋迦佛ニアラサルヲ明
 白ナリ然ラハ之ヲ佛教トイハシヨリハ寧ロ足目教トイハシ方々至當
 ナルモノ、如シ然レトモ若シ歴史上ノ關係ヨリ之ヲ論スレハ余之ヲ
 佛教ト云ニ少シモ躊躇セサルナリ余之ヲ佛教ト名クルニ躊躇セサル
 所以ハ抑モ因明學ハ足目出テ、其端緒ヲ發キシヨリ以來印度ニ於ケ
 ル百家ノ外道皆諍フテ之ヲ修メシナラン又彼等ノ中ニハ因明學ニ就
 テ一派ヲ立テシ者モ多カラシ然レトモ彼等カ之ヲ修メ之ヲ研キタル
 因明ハ未タ支那日本ニ傳ハラサル因明ナリ支那日本ニ傳ヘ來リテ今
 日ノ吾黨ガ方ニ研究スル因明ハ其源ト釋迦佛之ヲ利用シ續テ龍樹彌
 勒無著世親陳那天主ヨリ下リテハ道昭玄昉等ニ至ルマテ凡ヘテ佛教

因明學

序

論

者ガ佛教ノ付屬品トノ之ヲ稟ク之ヲ研キ來リテ終井ニ藍ハ藍ヨリ出
 テ、藍ヨリモ青キカ如クニ變シ來レル因明ナリ斯ノ如ク佛教者カ佛
 教ノ爲メニ佛教ヲ以テ消化シ來ル因明ヲ以テ佛教ノ付屬品トナスニ
 何ノ憚ルトコロアル乎之ヲ例ルニ日本ノ法律中ニハ或ハ佛國法モア
 ラシ或ハ英國法モアラシ或ハ獨逸法モアラシ然レトモ之ヲ日本ノ法
 律ト消化シタル已上ハ源トノ如何ニ係ラス之ヲ日本國ノ法律ト名ル
 ニ少シモ憚ルトコロナキカ如シ故ニ余ハ因明專家カ唱ル如キ源唯
 佛說論ハ斷乎トノ肯ハサル者ナリ余ハ之ヲ肯ハサルト共ニ歴史上ノ
 關係ヨリ之ヲ佛教ト云ニハ少シモ躊躇セサル者ナリ
 (三) 因明學ハ陳那天主ヲ以テ究竟論トナスヘキト是ナリ上陳ノ如ク因
 明學ハ足目ノ時代ニ權輿シ流レテ今日ニ至ルモノナリ而シテ陳那天主
 ノ時代マテハ後者ハ前者ヲ補ナヒ前者ハ後者ニ攷究ノ不足ヲ讓ルト

云情况ナリキ故ニ後者ハ前者ヨリモ精ナリトイハサルヲ得ス然ルニ
 陳那去リ天主出タル後ハ只其古キヲ温テント云一方ニ心掛タル者ア
 ルノミ誰アリテ其新シキヲ知ラント云方ニ心掛テ研究シタル者アル
 テ聞カズ後支那日本ニ來リテモ之ヲ學フ者ハ日ヲ追テ増シ之ヲ陳ル
 ノ書ハ月ヲ重テテ加ヘ支那日本ニ於ケル因明關係ノ著書ハ實ニ積テ
 堆テナスト雖モ總テ是レ註解的ノ著書ナルノミ未ダ因明ノ論理法ニ
 ツキ改革的進歩的ノ書ヲ著ハシタルモノアルヲ聞カス蓋シ是レ因明
 ノ論理法ハ陳那天主ニ於テ其研究既ニ完全無缺ノ極度ニ達シタルカ
 故乎之ヲ例スルニ西洋亞氏ノ續釋論理學ハ數千年ノ久シニ及ヘトモ
 尙之ヲ改作スル者ナキカ如シ之ニ由テ余輩ハ次篇ニ至リテ講述セシ
 トスルトコロモ專ラ陳那天主ノ兩論ヲ標準トナシ此ヨリ一步モ進メ
 ルコトナク又之ヲ一步モ退ケルコトナク保守的ノ講述ヲナサント思フコ

ナリ但余ノ望ムトコロハ古來難解トスル因明ヲ解釋シテ普通一般ノ
 人ニ能ク悟了シ易カラシメント云一點ニアリ故ニ古來因明學ノ慣用
 語ニノ現今普通人種ノ耳ニ聞エ難シト認ル名詞ヲ改メテ一般ノ人ニ
 聽エ易キ様ニスルコトハ往々之アルヘキナリ

第三篇 因明學理論

第一段 總論

第一章 因明ノ八大部門

因明ハ足目其端ヲ發キシヨリ陳那由テ、此カ完全ヲ告ル迄異端百出
議論囂々頗ル複雜ヲ極メタリ然レトモ其要領ヲ提クルニ八門ノ中ニ
攝セサル者ナク又八門ヲ以テスレハ紛然トシテ分レ難キ義脉モ條然ト
シテ分レ來ルトハ本ト天主論師ノ見解ナリ載セテ因明入正理論ノ初ニ
出タリ即チ

能立與能破 及似唯悟他 現量與比量 及似唯自悟
如是總攝諸論要義

トイヘルモノ是ナリ此中初メノ四句二十字ハ即チ因明ノ八門ヲ説ク

論理學明因

ルモノトス然ルニ其文最モ簡略ナルカユエ人之ヲ見ルモ尙八門ノ何
タルヲ知ルニ苦ルシム故ニ余ハ先ツ圖ヲ以テ八門ノ名稱ヲ表シ且ツ
余ノ意見ニ任セテ一一ニ其換語ヲ附シ後之ヲ辨述セントス



前ノ四句廿字ノ意ヲ圖ニ表セハ此ノ如シ之ヲ四眞四似ノ八門ト名ケ
百般ノ因明學ハ此中ニ總括ノ更ニ遺漏ナキモノトス而シテ其眞トハ眞

總

論

正即チ無過チ意味シ其似トハ類似即チ眞ニ似テ非ナルトコロノ有過
チ意味ス又之ヲ言語思想ニテ分レハ初ノ四門ハ言語ノ方ニ屬シ後ノ
四門ハ思想ノ方ニ屬スル者ナリ然ラハ其言語ハ悟他ヲ以テ目的トス
ルモノナルカユエ之ヲ悟他ノ類トナシ其思想即チ智力ハ言語ノ傳信
ヲ俟マサレハ悟他ニ及ハサルモノナルカユエ之ヲ自悟ノ類トナス斯
ノ如ク或ハ眞似ヲ以テ分チ或ハ言智ヲ以テ分チ或ハ自悟悟他ヲ以テ
分ツニ孰レモ其義脉條然トシテ分レ少シモ混雜スルヲナキ分類法ナ
ルト共ニ又今古百般ノ因明學ヲ少シモ洩スヲナキ概括方ハ此八大部
門ニアルト也請フ之ヲ略述セン

第一 眞能立

余之ヲ前圖ニ顯正の眞正論法ト改名シタリ其意ハ能立能破ト云ハ因
明學ニ於ケル一ノ慣用語ナリ凡ソ論壇上ノ言論ヲ分類スルニ二種ア

リ其一ハ論者ノ正義ナリ真理ナリト認ムルヲ公衆ノ前ニ於テ成立
セントスル凡テノ言論是ナリ之ヲ名テ能立ト云故ニ能立トハ換言ス
レハ顯正的ノ言論ト謂テ可ナリ其二ハ一方ノ論者眞正ト認メテ之ヲ
成立セントスルヲ一方ノ論者ハ反對ニ立テ之ヲ非眞不正ト見ルヨリ
之ヲ攻撃シ之ヲ難破セントスル凡テノ言論是ナリ之ヲ能破ト云然ラ
ハ能破トハ換言スレハ破邪的ノ言論ト謂テ可ナリ然リ而シテ其顯正的
ノ方ニモ眞ト似トノ二類アリ破邪的ノ方ニモ眞ト似トノ二類アリ故ニ
第一種ハ其眞ナルモノヲ取テ眞能立ト名ク余ハ之ヲ顯正的眞正論法
ト名クタリ
此ニ就キ如何ナル論法ガ眞ニシテ似即チ不正ニハアラサルモノトス
ル乎曰ク先ツ言ノ三支ニ就テイハソカ其宗ヲ見ルモ九過一トノアル
トナク其因ヲ討ヌルモ十四過一トノアルトナク其喻ヲ調ブルモ十過

一トノ見出スヲ得サルナレ上合計三十三過ト完全無過ノ論法之ヲ名
テ眞能立トイフ又義ノ三相ニ就テイハソカ立者ノ陳タル因ハ之ヲ宗
ノ方ニ望メテ見ルモ亦之ヲ喻ノ方ニ望メテ見ルモ其具足スヘキ三相
ハ一モ缺乏スルトナキ完全無缺ノ因ナルヲ名テ三相具足ノ眞能立ト
云フ然レモ因明ハ本ト悟他ヲ以テ目的トナスモノナリ故ニ斯ノ如ク
無過ノ論法ト雖モ若シ敵者ニ之ヲ許容セシメ彼ヲシテ吾ト同主義ニ
轉セ令ル悟他ノ結果ヲ見サルトキハ其論法尙以テ眞正ト云フヲ得サ
ルナリ因ハ十四過中ニ相違決定ノ過アリ故ニ其論法無過ニシテ而モ悟
他ハ結果ヲ見ルモハ是レ眞能立ナリト謂ヘシ

第二 似能立

余ハ前圖ニ之ヲ顯正的誤認論法ト改名シタリ其意ハ若シ類ヲ以テ論
セハ能破ノ類ニ非スシテ能立ノ類ナリ然レトモ第一ノ如ク無過ナル

ニアラス有過ナルカ故ニ論者ノ本ト成立セント欲スル事柄ヲ成立スルカ故ニ之ヲ能立ニ似テ能立ニアラサル似能立トナセリ
此ニ就キ如何ナル論法ヲ是レ似即チ不正ナルモノニシテ真正ニハアラストナス乎曰ク第一ノ真能立ニ反對ノ似ノ似タルトコロヲ知レ即チ言ノ三支ニ就テ論セハ立者陳ルトコロノ宗因喩ノ中ニ三十三種ノ過誤孰レカ其一或ハ二或ハ三四等ヲ敵者ヨリ見付出サル、モノ是ナリ又義ノ三相ニ就テ論セハ因ノ三相ノ中ニテ或ハ一ヲ缺キ或ハ二ヲ缺キ或ハ三皆缺ルモノ是ナリ斯ノ如キ論法ハ本ト立者ノ妄立ナルカ故ニ最初發言ノ摸樣ハ顯正的能立ニ似タレトモ後敵者ハ辨駁ヲ被ルカ爲メ其論立シ得サルナリ故ニ之ヲ似能立ト名ツク

第三 真能破

余ハ前圖ニ之ヲ破邪的眞正言論ト名ケタリ余能立ノ方ヲ顯正ト名ケ能破ノ方ヲ破邪ト名ケタル所以ハ前辯ノ如シ而シテ余能立ノ方ニハ論法ト名ケ能破ノ方ニハ言論ト違ヘタル所以ハ凡ソ能立ト云モノハ制規ノ如ク論法ヲ組織スルヲ定リトス假令不完全ナルニヨル然ルニ能破ハ其事一定セス或ハ敵者ヨリ論法ヲ組織シテ立論ヲ攻撃スルアリ或ハ敵者別ニ論法ヲ組織スルヲナク只立者ノ論法ニ過誤アルコトヲ見出スト同時ニ其ヲ告テ汝ノ論法ニハ何々ノ過失アリ故ニ汝ノ立論ハ非ナリト辨駁スルカ如キアリ其前者ヲ立量破ト名ケ其後ヲ顯過破トイフ然ラハ立量破トハ論法ヲ規則通リニ作リテ難破スト云意味ナリ顯過破トハ論法ヲ作爲スルヲナク只立論ノ過失ヲ顯示シ以テ立者ノ論ヲ立セサテ令ムヘキ難破ト云意味ナリ斯ノ如ク能破ノ方ハ論法ノ有無一定セサルニ余ハ之ヲ只言論ト名ケテ論法トハ云ハサルナリ

然リ而ノ如何ナル攻撃ヲ真能破トナス乎ト云ニ能破之境躰即似立
九(十)ト云格言モアリテ能破真ナレハ所破ハ必ス似能立ナラサルヘカ
ラス所破真能立ナレハ能破ハ必ス似トナラサルヘカラスト云テ規則
トナス若シ所破即チ立者ノ方ニ完全無過ノ論法ヲ確乎トメ組織セル
モノトセンカ然ラハ如何ナル雄辨家モ之ヲ挫クヘカラスト云テ規則
ト爲サ、ルヘカラスト此ニ由テ真能破ノ對手ハ似立トセサルヘカラスト
即チ第二似能立ノ如キ論法ニ對シ敵者ノ眼光能ク其過失ヲ見付ルト
共ニ其辨舌流暢能ク彼カ非ヲ辨シ彼ヲシテ吾レ自ラ誤マレリト云
テ知ラ令ルモノ之ヲ名テ真能破トイフ(此ニ立量破ト顯過破ノ二類
ルヲハ前辨ノ如シ)

第四 似能破

余之ヲ前圖ニ改名シテ破邪的誤認言論トイヘリ即チ敵者ノ辨論ヲ忽

ニ見レハ破邪ニ類似スントモ其實ハ破邪ニアラス敵者ノ言論反テ自
誤ノ過失ヲ招クモノ是ナリ此レニ就キ似破之境即真能立ト云格言モ
アリテ第一真能立ノ如ク立者ノ論法ニ於テ一點ノ過チモノキモノテ
敵者妄リニ辨テ好ミ破ヲ試ミルトキハ則チ似能破トナル余カ第二篇
ニテ辨セシ十四過類ノ如キモノ是ナリ此ニ亦似ノ立量破ト似ノ顯過
破ノ二類アルヲ前ニ准シテ思ヘ

第五 真現量

余ハ之ヲ前圖ニ改名シテ直覺的眞正思想トイヘリ余ガ之ヲ直覺的ノ
思想ト云所以ハ凡ソ外界ニ顯然タル現象アリテ内部ヲ刺撃スルトキ
五官ノ能力ヲ以テ直接ニ現象ヲ覺知スルモノ之ヲ名テ現量智トイフ
然ラハ之ヲ普通學理ノ慣用語ニ改ムレハ直覺的ノ思想ト云テ頗ル至
當ナラント考ヘタリ然リ而ノ其直覺的思想即チ現量智ニモ眞正ナル

モノト不正ナルモノトノ二類アリ例ヘハ烟リヲ烟リト見タルカ如キハ真正ナリト云ヘク又霧リヲ烟リト見タリ或ハ烟リヲ霧霧リヲ烟リト認メタルカ如キハ不正トイハサルヘカラス中ニ於テ前者ヲ名テ眞現量トイヒ後者ヲ名テ似現量トイフ凡ソ學理ノ上テ見ルモ又通俗ノ上テ見ルモ直覺ノ事實ハ最モ確カナルモノトスル如ク因明學ニテモ眞現量即チ直覺ノ事實ニ由テ組立テタル論法ヲ以テ最第一ノ確實論トスルナリ

第六 似現量

余ハ之ヲ前圖ニ直覺的誤認思想ト名ケタリ其意味ハ前辨ノ如シ凡ソ吾人ハ外部ニ顯現シタル事實ヲ直覺スルニモ或ハ精神ノ惑亂或ハ五官ノ變狀等ノ諸事情ニ由テ誤認スルト往々之アリ其誤認ヲ名テ似現量トイフ是レ誤認ナレド直接ニ顯現セル事實ヲ誤認スト云照ハ現量

ニ類似セルカ故ニ之ヲ似現量ト名ケタリ

第七 眞比量

余ハ之ヲ前圖ニ改名シテ推理的眞思想トイヘリ余カ之ヲ推理的眞思想ト改名スル意ハ凡ソ甲既知界ノ手掛リアレハ夫ヨリ進ンテ乙未知界ヲ推知セントスルモノヲ名ケテ比量智トイフ然ラハ之ヲ普通學理上慣用ノ語ニ改ムレハ推理的ノ思想トイハサルヘカラス余ハ之ヲ至當ノ換語ト思ヘリ然リ而シテ推理的思想即チ比量智ニモ眞正ナルモノト不正ナルモノトノ二類アリ例ヘハ瓦器ヲ見テ此ハ人造ナリト思フカ如キハ眞正ノ推測ナントモ貝類ヲ見テ此ハ人造ナラント考ルカ如キハ即チ不正ノ推測トイハサルヘカラス其前者ノ類ヲ呼テ眞比量ト名ケ後者ノ類ヲ呼テ似比量ト名ツク要スルニ無過ノ眞能立眞能破ニ關係スル思想ノ運用ハ皆眞比量ナルモノナリ

第八 似比量

余ハ之ヲ前圖ニ推○理○的○誤○謬○思○想○ト改名シタリ其意義ハ前辨ノ如シ凡
ソ思想ノ運用ヲ見ルニ皆正當ニ運用スルモノニアラス不正當ニ運用
スルヲ最モ多キモノナリ其不正當ニ運用シテ推理ヲ誤マツモノヲ凡
テ似比量ト名ツク要スルニ有過ノ似能立似能破ヲ爲スノ思想ハ凡テ
似比量ナルモノ也

已上八大部門ノ大意ヲ略陳シタリ余カ下モ去テ辨明セントスル別
論ノ講述ハ只此八大部門ノ開陳ニアリ然ラハ其委詳ハ下モ別論ニ
至テ知レ

第二章 論法ノ種類分別

因明ニ於テ自ラ論法ヲ組織セントスルニモ又他ノ論法ニ對シ攻撃ヲ
試ミノトスルニモ論法ノ性質如何ヲ見分ルヲ最モ要件ナリトス何ト

ナレハ論法ノ性質ニ依テ有過モ無過ト成ルヲアリ又無過モ有過ト成
ルヲアルカ故ナリ而シテ余カ論法ノ性質トイヘルハ西洋論理家ノ命題
性質論トハ其意味ノ大ニ異ナル所アリ何トナレハ自比量他比量共比
量ノ如キモ性質論ノ中ニ收ムレハ也之ニ依テ論法ノ性質ヲ分類セ
トスルニ先キ立チ凡テノ論場ニハ第一立者ト第二敵者ト第三立敵ノ
議論ヲ裁判スル證議者ト都合三人已上アリト視ナシ而シテ其立論者
ハ如何ナル宗家即チ黨派ニ組ミスル者カ其敵論者ハ如何ナル宗派即
チ黨派ニ組ミスル者カチ極メサルヘカラス之ヲ極メタル後デナクハ
論法ノ性質ヲ論スヘキ様モナク又其正不ヲ判スヘキ様モナキナリ故
ニ學問トノ之ヲ研究スルニモ又論場ニ出テ、實際ニ之ヲ應用セント
スルニモ立敵ノ兩派ヲ確カニ定メ置クヲ第一着ノ用心ナリトス
先ツ立敵ノ黨派ヲ確定シタレハ方ニ論法ノ性質ヲ分類スルヲ得ル

凡ソ論法ノ性質ヲ分類スルニ大ニシテハ自○此○量○他○比○量○共○比○量○ノ三類
ニ分ル、モノトス此分類方ハ西洋ノ論理學ニ曾テ見サル因明學ノ特
色ナリ因明ニハ之ヲ自○他○共○ノ三○量○トイフ

第一 自比量(自守的論法)

ト云ハ立敵其黨派異ナル中ニ於テ敵黨ノ方ニハ少シモ關係スルコトナ
ク唯自己ノ宗家黨派ニアリテノミ許諾シ居ル事柄ニ就キ只己レヲ守
ル爲メニ論法ヲ組織スルモノ是ナリ故ニ余之ヲ自○守○的○論○法○ト云テ例
ヘハ茲ニ耶蘇教ノ徒アリテ佛教徒ニ對シ

宗 我○が○神○は○畏○敬○す○へ○し

因 自○ら○嫉○妬○の○心○深○し○と○云○と○許○す○が○故○に

喩 許○す○魔○鬼○の○如○し

ト云テアリトセシカ是等ハ敵者ノ佛教家ハ少シモ許容セス唯立者ノ

耶蘇教徒ノミ許シ居ル事柄ニ就テ組織シタル論法ナルカ故ニ之ヲ自
比量ト名ク(比量トハ比較ノ况明ニ由テ或ル事件ヲ量度スル方法ニ名
ク即チ論法是ナリ其論法他家ニ關係セス唯自家ニ就テ組織スルカ故
ニ自比量ノ名ヲ得タリ次ノ他比量並ニ共比量ノ名モ此ニ准シ知レ)
讀者ハ今ノ論法ニ就キ宗ノ中ニハ我ノ字ヲ用ヒ因ト喩ノ中ニハ各々
許ノ字ヲ用ヒタルトコロニ着眼セヨ此ガ因明ニテ此論法ハ自比量ヲ
リトノ符號ナリトス即チ宗ニ我ト云ハ汝ハ許サントモ我カ許セル
神ハト云意味ナリ又因ト喩ニ許ト云ハ本ト宗ヲ承タル因喩ナルカ故
ニ亦汝ハ許サ、ントモ我ハ許ストノ意味ヲ示ス言トナル若シ今ノ論
法ニシテ我許ノ言ヲ以テ自比量ト爲サ、ランカ然ラハ宗ニ所○別○不○成
ノ過アリ因ニハ他○隨○一○不○成○ノ過アリ喩ニハ俱○不○成○ノ過○無○ノ俱○不○成○ア
ルコトナリテ其論法立セス然ルニ彼ノ豫メ我許ノ言ヲ用ヒテ自比量

ナルヲ示スカエ敵者ハ是等ノ過アリト云フヲ得サルナリ
凡ソ斯ノ如キ自比量ノ論法ハ止ヲ得サルニ出ルモノナレハ其共比量
他比量ニ及ハサルヲ遠シ只是レ立者自家ノ城廓ヲ漸クニ保チ得ル迄
ニ止リテ敵者ヲ進撃スル力モナク又敵者ヲ誘フテ立者ノ主義ニ同意
セシムルヲモ能ハサル自守的論法ナルモノ也

第二 他比量進撃的論法

ト云ハ前ノ自比量ニ反對シテ立者自己ノ宗家黨派ニハ少シモ關係ナ
ク進メテ敵黨ノ陣中ニ入り込ミ彼カ曾テ許シ居ル事柄ヲ以テ而モ彼
カ尊崇シ居ル事件ヲ否難スル爲メニ論法ヲ組織スルモノ是ナリ俗ニ
敵ノ棒ヲ以テ敵ヲ打ツト云フ情况ナリ故ニ余之ヲ進撃的論法ト名ケ
マリ例ヘハ佛教徒アリテ耶蘇教徒ニ對シ
宗 汝が神は吾人の怨敵なるべし

因 人祖を咎むるの餘寛後裔の吾人に及ぶと許すが故に
喩 許す魔鬼の如し

ト云フアリトセシカスノ如キ論法ハ立者自己ノ宗家ニハ少シモ許サ
ス唯敵者耶蘇教ノ方ニアリテノミ許ス事柄ニ就テ組織シタル論法ナ
レハ之ヲ他比量ト名ク
讀者ハ此論法ニツキ宗ニハ汝ノ言アリ因ト喩ニハ許ノ言アルトコロ
ニ着眼セヨ此ガ因明ノ論法ニテ他比量ナリト云フヲ示ス記號ナリ即
チ我レハ許サ、レトモ汝ガ豫テ許セル神ハ汝既ニ斯様ト許セルカ故
ニ汝カ神ハ然カイハサルヘカラスト云意味ヲ示スニアリ若シ今ノ論
法ニシテ汝許ノ言ヲ以テ他比量ナルヲ示サ、ランカ然ラハ宗ニハ
所別不極成ノ過アリ因ニ自隨一不成ノ過アリ喩ニ俱不成(無)ノ過アル
トトナリテ其論法立セス然ルニ豫シメ汝許ノ言ヲ用ヒテ他比量ナル

トテ示シ是等ノ過ヲ妨クカニニ其論法立スルヲ得ル
凡ソ斯ノ如キ論法ハ自家ヲ守ル方ヨリモ他家ヲ破ル方が重モトナリ
テ立タルモノナリ故ニ此ハ顯正破邪ノ中テハ破邪的論法ノ中ニ多ク
アルモノナリ

第三 共比量共諍的論法

ト云ハ前二者ノ如ク一方ニ辭セス立者ノ黨派中ニモ敵者ノ黨派中ニ
モ雙方共ニ曾テ許シ居ル事柄ニ就テ論法ヲ組織スルモノ是ナリ即チ
宗依ト因ト喩トハ皆立敵ノ先キヨリ許シ居ル事柄ニノ只宗牀ノミ立
者許ルシテ敵者未タ許サ、ル論法之ヲ名ケテ共比量ト云フ余ハ之ヲ
共諍的論法トイヘリ蓋シ一方ノミ許ス事柄ニ就カス雙方共ニ許ス事
柄ニ就テ論諍スル法式ナルカ故ナリ例ヘハ佛教徒ヨリ耶蘇教徒ニ對
シテ

宗 耶蘇は通常一般の人類あるへし
因 普通人種の體軀に異ならざるが故に
喩 吾人の如し

ト云フアリトセンカ斯ク如キ論法ハ共比量ト云モノナリ何トナレハ
今ヨリ十九世紀ノ前ニハ猶太國ニ耶蘇ナル者が出テ、一種ノ宗教ヲ
興起セリト云フハ佛教徒トイヘトモ元ヨリ許シ居ルヲナルカ故ナリ
且ツ今陳ヘタル因并ニ喩ノ立敵同許ナルヲハ固ヨリ辨ヲ待タス然ラ
ハ立敵ノ間タニ於テ諍ヒテ生スヘキ不同許ノ點ト云ハ只耶蘇ハ通常
ノ人間ナルカ將テ通常ノ人間ニアラス彼ハ神子ナルカト云フ一點ニ
アリ故ニ此論法ニハ前ノ様ナ我許或ハ汝許ト云如キ豫防的ノ語ニ因明
語ト云フ別ヲ用ヒサルモ其論法能ク立シ得ルナリ
總テ論法ヲ作ルニハ顯正的破邪的ノ別ナク共比量ヲ以テ最長トナス

前ノ自比量ノ如キ又他比量ノ如キハ止ムヲ得サル場合ニ作ルベキモ
ノナリ故ニ論者ハ成ルヘク共比量ノ論法ヲ作爲セノヲ勉メヨ否通
常ノ論法ハ多ク共比量ニ成リ居ルモノナリ

前來ハ單ニ三量ヲ分別シテ又之ヲ複ニ分別スルヲアリ複ニ之ヲ分
別スルキハ第一自比量ノ中ニモ三量ト分レ第二他比量ノ中ニモ三量
ト分レ第三共比量ノ中ニモ三量ト分ル之ヲ表スレハ左ノ如シ

三	之	比	自	宗	因	論	俱	ニ	立	者	自	許	ノ	事	柄	ニ	就	ク	モ	ノ	是	ナ	リ		
他	比	ノ	自	比	量	宗	ハ	自	許	ニ	依	リ	因	論	ハ	他	許	ニ	依	ル	モ	ノ	是	ナ	リ
三	之	比	自	宗	因	論	俱	ニ	立	者	自	許	ノ	事	柄	ニ	就	ク	モ	ノ	是	ナ	リ		
他	比	ノ	自	比	量	宗	ハ	自	許	ニ	依	リ	因	論	ハ	他	許	ニ	依	ル	モ	ノ	是	ナ	リ
三	之	比	自	宗	因	論	俱	ニ	立	者	自	許	ノ	事	柄	ニ	就	ク	モ	ノ	是	ナ	リ		
他	比	ノ	自	比	量	宗	ハ	自	許	ニ	依	リ	因	論	ハ	他	許	ニ	依	ル	モ	ノ	是	ナ	リ

共比ノ共比量 宗因論俱ニ立敵共許ノ事柄ニ就クモノ是ナリ
 共比ノ自比量 宗ハ共許ニ依リ因論ハ自許ニ依ルモノ是ナリ
 三之共比ノ他比量 宗ハ共許ニ依リ因論ハ他許ニ依ルモノ是ナリ
 讀者此九種ノ分類ヲ究メント欲セハ四相違私記下紙五十ヲ見ヨ源ト大
 疏四紙十七ニ由テ、瑞源記五四紙下ニ諸註ヲ纂メテ余カ前ニ陳ル
 トコロハ自比ノ自比量ト他比ノ他比量ト共比ノ共比量トニ依ル蓋シ
 九種ノ中ニテ余ノ陳ヘタル三類ヲ究メテハ餘ノ六類ハ隨テ悟了ス
 ルヲ得ヘキカユエ余ハ之ヲ零ス
 前陳ノ三量ヲ更ニ分別スルニ三量孰レニモ又三重ノ分類方テリ曰
 ク一ニ表詮遮詮ノ類別二ニ有躰無躰ノ類別三ハ全分一分ノ類別是
 ナリ

第一 表詮遮詮ノ類別

ト云ハ三段ノ中第一宗ノ性質ニ由テ論法全躰ノ上ニ表詮ノ論法遮詮ノ論法ト云フ二種ノ區別ヲ見ルトナル即チ宗ニ否定的ノ打消シ語ヲ用ヒタル論法ナレハ之ヲ遮詮ノ論法ト名ク又之ニ反シ宗ニ肯定的ノ積極詞ヲ用ヒタル論法ナレハ之ヲ表詮ノ論法ト名ク表詮ト云ハ宗ニ於ケル前後ノ二名辭一致シ後名辭ヲ以テ能ク前名辭中ニ含藏セル事件ヲ云ヒ彰ハスモノ是ナリ西洋ノ論理學家カ肯定命題或例ヘハ

宗 日本は東洋の獨立國なり

因 國の主權者内國にあるが故に

喩 支那帝國の如し

ト云カ如キハ即チ表詮ノ論法ナルモノナリ又遮詮ト云ハ宗ニ於ケル前後ノ二名辭が一致セス其後名辭ハ前名辭ニ係リ合ヒナキ事柄ヲ舉テ其レヲ打消ノ仕舞フモノ是ナリ西洋ノ論理學家カ否定命題或例ヘハ

宗 草木は情識を有する者にあらず
因 動物にあらずるが故に
喩 石瓦等の如し

第二 有躰無躰ノ類別

ト云ハ亦前ノ如ク宗ノ性質如何ニ由テ論法全躰ノ上ニ有躰ノ論法無躰ノ論法ト云ヘル二類ノ區別ヲ見ルトナル凡ソ宗ニ於テ何乎顯彰スヘキ事柄アリトセンカ即チ有躰ノ論法ナリ又之ニ反シ宗ニ於テ少シモ顯彰スヘキ事柄ナク只打消ス一方ニ止ルトセンカ即チ無躰ノ論法ナル者ナリ此ニ就キ前ノ表詮遮詮ト此ノ有躰無躰トノ關係區別ヲ心得サルヘカラス表詮遮詮ト云ハ意味ノ如何ニ關テス言葉ノ一點ニ就テ分類シタル者ナリ又々有躰無躰ト云ハ言葉ヨリモ寧ロ意味ノ方